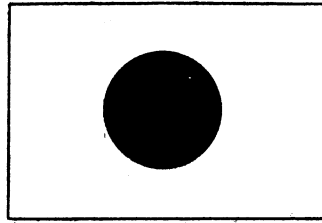
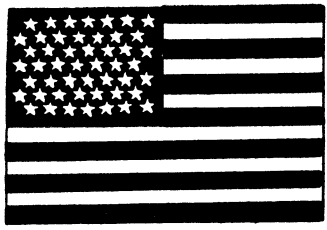


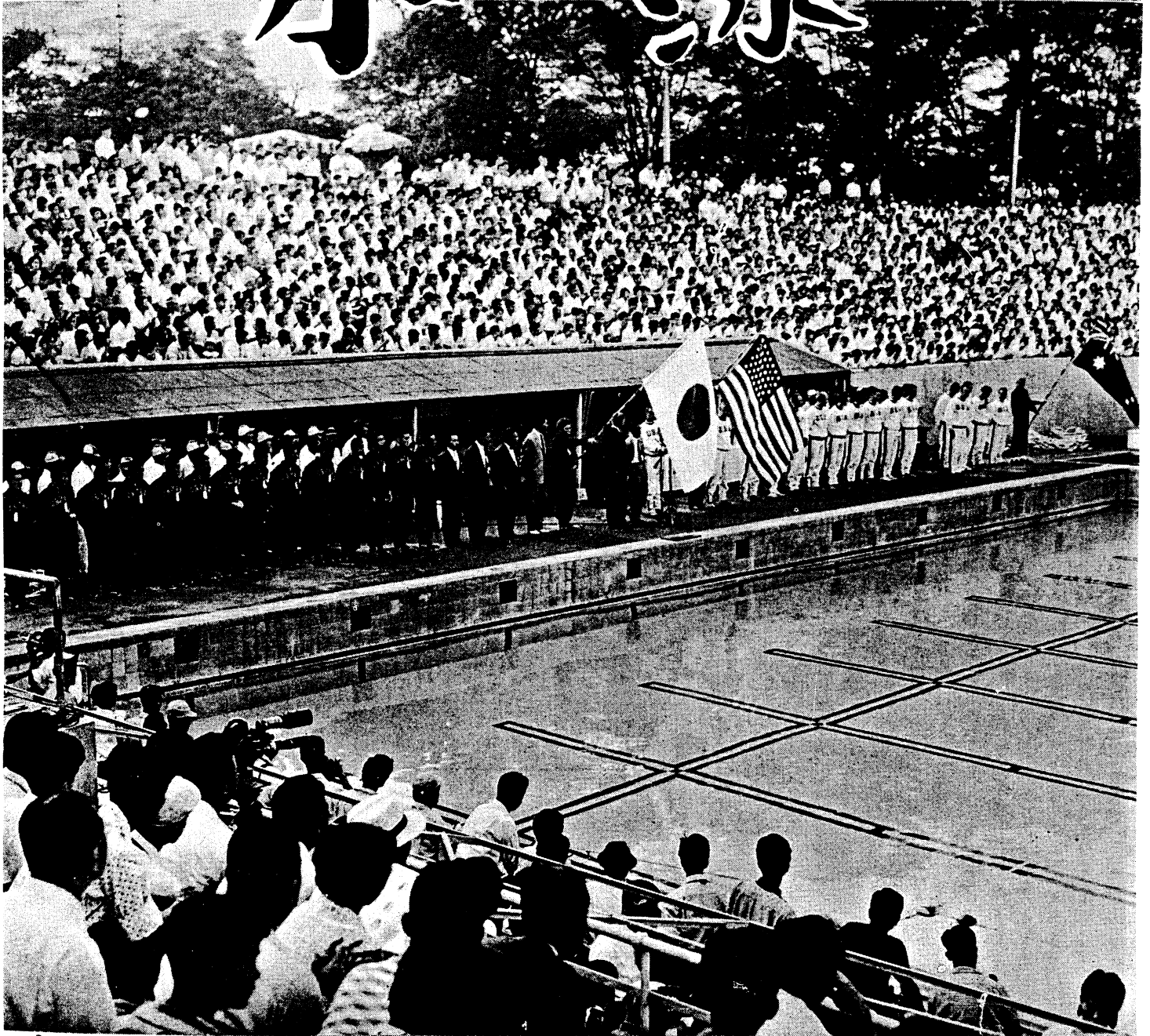
日本水泳連盟
機関紙



第126・127号

昭和34年10月

水泳



第5回日米对抗特集記念号

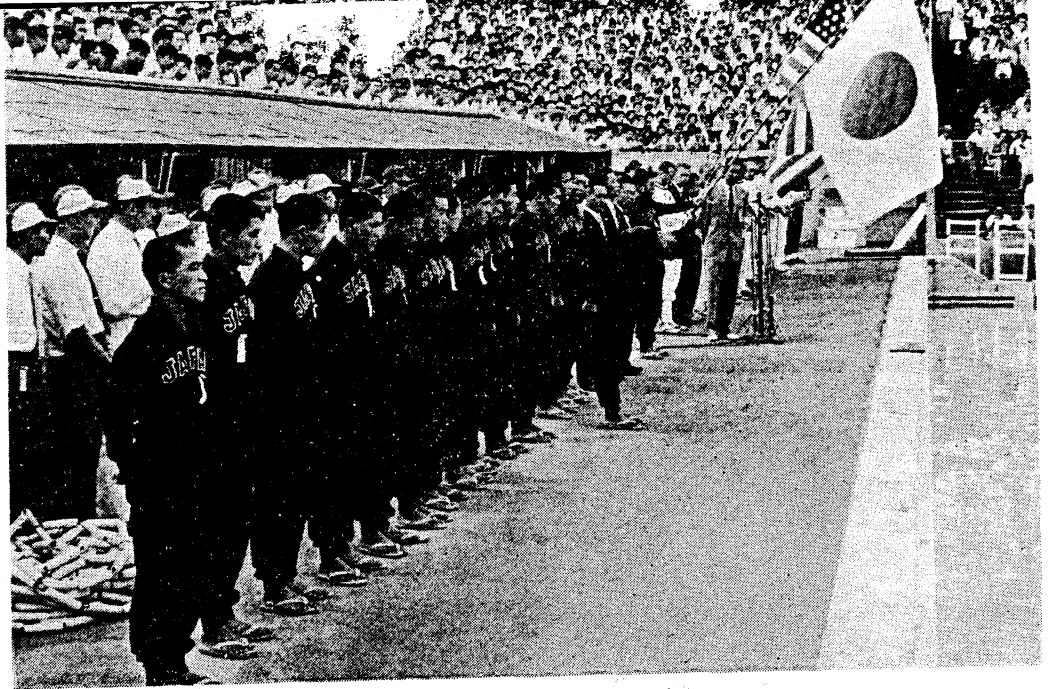
No. 126 & 127 "SUIEI" Oct. 1959

NIPPON SUIEI RENMEI

水 泳

第126・127号

昭和34年10月



日 米 対 抗 特 集 号

目 次

第5回日米対抗水上競技大会	
大会を終つて	小 出 晴 彦..... 3
大会報告	太 田 光 雄..... 4
大任を果して	志 村 文一郎..... 4
アメリカチーム所感	谷 内 洋一郎..... 6
飛込を顧みて	柴 原 恒 雄..... 8
大阪大会を見て	木 村 象 雷..... 9
名古屋大会を見て	加 藤 茂..... 10
「座談会」日本選手権、日米対抗を顧みて	競 泳 委 員 会..... 11
選手紹介 25
日米対抗水上競技大会写真集 31
日米対抗大阪大会記録 50
日米豪交歓名古屋大会記録 52
“ 吳 大会記録 52
米チームに対するアンケート 54
春期強化合宿の医学的考察	医 事 委 員 会..... 55
早慶・三大学・日中の三対抗競技をみて	宍 道 洋 一..... 59
昭和34年度日本選手権記録 63
第31回早慶対抗 “ 72
第24回日・立・明三大学対抗 “ 73
第4回中大・日大対抗 “ 74
関西選手権 “ 75
第3回九州社会人学生 “ 76
第4回八幡製鉄、全延岡、全大分三部対抗 “ 77
昭和34年度兵庫県選手権 “ 77
“ 和歌山県選手権 “ 78
最近完成したプール(写真) 79
日本史上競泳100傑	島 田 桃 一 郎..... 80
日本記録証受賞者(2)	記 録 委 員 会..... 85
連 盟 日 誌 88



日本チーム



アメリカチーム

第5回日米対抗水上競技大会



(優勝トロフィー 秩父宮杯)

大会を終つて

小 出 靖 彦

ローマ・オリンピックの前の大きな山としての日米対抗を終り、米国選手団を送り出してホッとした。

昨年秋以来これがため準備を進めて来た方々、東京、大阪、呉、名古屋と夫々御苦勞頂いた方々に心から感謝の意を表す。

この大会位多くの世界新記録、日本国際新記録、日本新記録を生んだ大会はあるまい。その成績については夫々の立場から詳細に報告されると思うので総括的に感じたことを二三申述べたい。

第一に選手一同皆各自のベスト・レコードを出した事が何より喜しい。スポーツマンとして目標とした大会に自己の全力が出し切れたということが何よりの誇りでありよろこびであると思う。その結果として日本の水泳のレベルが一段と飛躍した。予想だにしていなかっただけにそのうれしさは格別である。

当の選手団、監督、マネジャーは勿論、蔭の力として尽してくれた競泳委員、医事部委員、その他の人々の力の結果であると信ずる。全員一丸となって最高記録で試合したのはアジア大会と此回と二回目である。我々が念願する組織としての水連の総力を結集する方向が実現されつゝあるものと思ひ三度目の正直をローマの空で果したいと祈念する。

第三は米国の底力を改めて見直した。ともすれば豪州に目を奪われて米国は第二流国になったかの如く考え勝ちであるが事実は然らず、依然としてその底力は大了たものであり特に若い選手を育て上げる組織力に対しては刮目すべきであると思う。この大会で彼等が次々に世界新、米国新、自己最高を出したことに對しては敬意を表すと共に日米対抗の意義を再確認した次第である。

第四に大会運営について二三反省する要があるように思う。幾多の国際大会を手掛けた経験と自信は結構であるが、甘くみた点がなかったであろうか？

殊に国旗国歌に対する取扱いに就ては日本流の観念でなく国際的に考え直すべきであろう。

又アナウンスの重要性については再認識すべきであろう。大観衆をリードし試合の雰囲気を作って行くためには、一段と研究し改正して行く必要がある。地方の大会では各部署の人々は実に熱心で、その真剣さには頭の下るものであるが、それが全体として巧く噛み合せて運営され効果が発揮されているかという点では、もう一工夫が欲しいと感ぜられた所もあったように思う。

ともあれ、5年後の東京オリンピックを立派にやっけるためにも、より良きものへと、一つ一つの経験を活かし反省して向上して行き度いと念願する。

第五に従米の日米対抗は財政的に水連のドル箱であったが、事情が一変した。今回はやっ和黑字という程度であるらしい。ローマを目前にし、5年後の東京オリンピックに向い強化向上を続けて行くためには財政的に別段の考慮が必要になったと思う。

最後に東京における大会の終った夜、山の上ホテルで選手団を前にしての樋口会長の言葉を伝え度い。水連の現在の心構を端的に表すものとして、

『我々はスポーツマンである。『勝った』と喜び『自信』を持つことは結構である。が勝利に酔い一寸でも自惚れがあつてはならぬ。今日唯今から新しい、より苦しい戦いに向つてスタートしよう。』

(本連盟、専務理事)

大会報告

日本チーム監督 太田光雄

日米対抗史上最強と豪語する、米国チームが全員元気に、羽田空港に到着したという知らせを15日朝日本チームの宿舎山の上ホテルのロビーで聞いた。

選手達も殆んどその場に居合せたが、ローズという好敵手を迎えることになった山中以外は何の感動も示さなかった。

これは吾々が秘かに期待していたことであつたので内心、シメタと喜んだ。

これは、過日の全米選手権によって選ばれた来日チームの顔振れは、トロイ（パタフライ）、マッキニー（背泳）等の世界記録を出した選手以下、平泳を除いてはどれを見ても、日本代表選手より優勢なチームで、これらに勝つためには、どうしても実力以上の戦いをしなくてはならない。そして実力以上の戦いをするためには、相手を意識し過ぎて固くなってしまったのでは惨敗は明かであるので、試合にこだわらず楽に泳ぐようにスケジュールを組んで合宿して来たからである。

日本選手権後選ばれた選手達は13日正午、宿舎に当ら

れた神田山の上ホテルに集合してチームを組んだ。優勢な米チームを相手では、チームの盛り上げる波に乗ることが最上の策と考えたので、ベテランの長谷、古賀をコーチ格として、選手のリードをまかせ、試合迄の一週間の練習も、極く軽い練習で体力の充実に主眼を置いた。

それでも午前中1時間は長い距離を泳ぎ、午後は専らインターバルで出足の練習を行い、記録は序々に上って行った。

チームの団結も長谷主将を中心に美事にまとまり一人の軽い病人も出ず、何時試合がはじまるかも知らないような静かな調子で生活ができた。これは日本チームの劣勢を予想してか、報道陣も専ら米チームに向けられたために外部からの刺激が余りなく非常に助かった。

試合をあと2日に控えた18日、今迄短距離だけが調子が出揃はず、内心不安であつたが、この日のダッシュは素晴らしく、これで選手達も吾々も大いに自信を持つことができ、愈々試合当日になった。（以下31頁へ続く）

（本連盟 競泳委員長）

大任を果して

日本チームマネージャー 志村文一郎

太田監督の言を借りれば「恐らくはこれ程の接戦をやった国際対抗レースはなかつたらう」という日米対抗をチームの一員として体験できたことは全く空恐ろしい位貴重なことであつたと思います。

戦前の予想、双方の予選会の記録の比較の上では明らかに劣勢であつた日本チームが全員自己新をマークし互格以上に戦つたことは監督の言にある通り正に「チームワークの勝利」に他ならぬのでありますが、然らば何故に又如何にしてこの強固なチームワークが組まれたかを報告することが、本報告の主体であるべきと思います。

大会終了後、アメリカの「ライブ」誌の記者が、太田監督に何故に日本チームは飛躍的に強くなったのか？

精神的には嘗ての御国のためにというようなものがあつたのか？ 又肉体的には特別な注射薬などを使用したの

ではないか？ 等執ように質問した由であります。勝てば官軍の譬えもあり、結果論的には何もかも良かったからだといえるのでありますが、私は今回のチームを支えたものは、大きくいえば、矢張り「水泳日本」の伝統であつたと思います。結団式の際、樋口会長は選手に対して、「オリンピックの選手に選ばれるより、日米対抗の選手に選ばれることの方が、より困難であり、より名誉なことである。光栄ある日米対抗の選手であるということは諸君の水泳歴に一段と特筆大書さるべき事柄である。よくこの点を自覚して悔いのないレースを行い、諸先輩の偉業を継いで、強敵に打勝つように」と訓されましたが、選手の「やるぞ」という気魂の根元にあつたのはこの会長の訓示通りの「水泳日本」の担い手であるという自覚であつたといえましよう。このことは、逆に水泳に

直接関係のない一般の方々のチームに寄せられた数々の好意の底にもあったと申せましょう。日本における水泳の広さ、深さが、我々のチームを内からも外からも支えていたのだと思います。

具体的には、何といっても第一に太田監督の適確なリードか何時の場合でもチームワークの基本にありました。なすべきことをなすべき時に断固として行うということが文字通りの形で表われたのが今回の太田監督の指導であったと思います。如何に強固な自覚があったとはいえ、選手は大きなレースを控えて緊張し、迷い、あせっておりましたが、これをほぐし乍ら、レースに自信を以って当らせた細心の指導は、あの大胆な選手起用と共に銘記せらるべきでありましょう。又長谷主将と共にベテラン古賀選手がチームの中核として、監督の意を体し、時には叱咤し時には進んで団欒の中心になり、緩急よろしくチームをリードした功績も忘れられてはなりません。

東京における宿舎は、第4回の日米対抗の時と同じく山の上ホテルを選びましたが、吉田社長、山内支配人、中島副支配人、以下メイドさんに至る迄、実に誠意あるサービスを頂いたことも、勝因の一つでありました。

「商売じゃないんです」という中島さんの口癖が、そのままに、押しつけでない行き届いたサービスとなって非常に気持ちよい合宿の雰囲気を作りました。

又、早朝から深夜迄、フリッカーテスト、検尿、マッサージと本当に縁の下力持ちの役割を積極的に果して下さった鞍田委員長を中心とする、清川先生、勝村先生等医事関係の方々の協力も有難いものでありました。

東京大会が終って地方の大会においても、選手の都合を優先して考えて頂いたことが忙しい日程であるにも拘らず、一名の事故者もなく、充重した成果を挙げ得た最大の理由であったと思います。殊に、予定されていた京都、奈良の見学のスケジュールを、選手団からの申出を快く、諒承されて取止めにして下さった、高石氏の御配慮と冷房バス迄を用意して下さった広島県水連の御好意等、何処へ行っても選手の都合を優先して考えて頂いたことが、非常に有難く感じました。

よかったことを挙げれば、きりがありませんが、今後国際競技を行うに当って留意すべき点も今回の経験より汲み取るべきでありましょう。

一つは選手の所遇の点であります。今回の日本チームは、全く米チーム以上の待遇をして頂いたと思います。勿論、分に過ぎたことを望むのはいけません、対抗競技であることを考えれば、相手チームと同等の条件にあることが不可欠であり、格段の相適のある場合には志気に影響することがあるのは否めない処と思います。この

点今回のよい前例を今後も是非遵守して頂きたいと思えます。又この点は決して所謂物質的な点のみでなく、万事の取扱の上において必要であり、今回は、寧ろ、日本チームの方が恵まれたといえるのは、水泳関係者は勿論、一般の方々迄非常に好意的に協力して頂いたことにあると思えます。逆に外国遠征の場合、殊にオリンピックの場合等、所謂、装備の優劣が志気に影響するということがあります、今回の経験で、泌々と分る様な気が致します。

次に食事に付いてであります、一般的に云って現在の選手は嘗ての選手より洋食に馴れているとはいえ、矢張り、味噌汁、漬物、お茶漬等は絶対に欠かせぬようであり、オートミル等は明かに不評であり、又試合中の軽食は、サンドウイッチでは駄目で握り飯を必要とします。海外遠征の場合、米、味噌、醤油、緑茶、梅干、海苔等は是非共携行すべきだと思いました。なお、今回のチームはジュース、コーラ等の飲み物を多く要求しましたが、毎食ミルクを付けることによって無用の水分をとることを押えました。今後は寧ろ果物を多く与えることによって置き換えるべきではないかと思えます。又ケーキやキャンデー等の甘味は殆どとりません。

山の上ホテルにおける食事の献立は一覧表にして保存してありますが、デザートは廃止してミルク、果物をその分丈け多く与えることが望ましいと思えます。

何せ単なる事務屋である私が、チームマネージャーの大役を仰付けられたのでありますから、万全なことのできよう筈もなく、競技に臨んでは選手より先に私の方が上って下さい、皆様の失笑を買った次第で、太田監督の適切な指示と島田氏の積極的な協力があつたればこそ、どうやら勤め得ましたわけで、顧みて甚だ、恥しく思います。

然し乍ら、今回のような素晴らしいチームの一員であり得たことは、終生の感激であります。ケーシー監督が繰返し言っていたように誠に Wonderful Time の連続でありました。アメリカチームもよく闘いましたが、我が選手も本当によくやって呉れたと思えます。

東京大会終了後、樋口会長が選手団に対していわれました「今日の新記録は明日は破られる目標となる、勝ちに奢らず、負けて屈せず、スポーツマンとして正々堂々と努力せよ」ということは、本大会を通じてやればできるということを体得した今回のチームの選手諸君にとっては忘れられない教訓となると思えます。

諸君が再び活躍するインターカレッジ、又明年のローマ大会を大いに期待しつつ、私も亦諸先輩の驛尾に附して努力致しますことを誓い、報告を終ります。

(本連盟 常務理事)

アメリカチーム所感

米国チームマネージャー 谷内洋一郎

表題に所感という言葉を使っているが、これは私が水泳連盟から頂いた表題であって、以下は所感等といったおこがましいものではなく今後引き続き4年毎に行われるであろう第6回以降の日米水上競技大会において、マネージャーをおやりになる方のための指針というか、新聞によって報道されなかったエピソード等、又は私自身の反省といったものにしてこの一文をまとめたと思っている。しかしながら実際チームの中に入っていると他人のことばかりに気が付いて往々にして自分で気が付かないでいることが多いのではないと思われる。不幸にして、一緒に米チームと行動を共にされた方や、滞日中色々御世話をして下さった方々に胸襟を開いて御批判を頂く機会に未だ恵まれていないので自分勝手な考え方ややり方に片寄ってしまっているように思える節があるが、御勘弁願ひ度い。

さて、米国チームが来日する迄には名をこゝに挙げるまでもなく、多くの方が御自分の仕事を抛ってまで非常に多くの苦勞をされた。私が直接にも間接にも今回の米チームとの関係を持つようになったのは来日の日が初日という訳で、こゝに私が勝手な文句を並べるのは、練習には一度も顔を出さないで試合当日その結果だけを見てとやかくケチを付けるのに似ているようで、多くの陰にある功勞者に申し訳なく考える次第である。

16日朝羽田に着いた米国チーム一行と、オーストラリアから特別参加のM・ローズは旅の疲れも見せず、その日の午後には水に入る程の元気さで日本入りをした。特別参加のローズが有名な菜食主義者という訳で第一番に食事をする場所でもあり、最も長い期間滞在を予定されている品川プリンスホテル別館では、マネージャーの山村氏を始め食事関係を担当されるすべての方の、全く商売を離れた御努力の結果、予め在米のローズの両親から送られたメニューに従って諸材料をほゞ集めることができ、その調理方法も汎く種々の書物によって研究された甲斐あって当初よりローズに満足してもらえることができた。そしてメイドインシヤパンのローズのための特別食メニューを作成して頂き、スケジュールにある宿泊予定先にそのコピーを送り、一応の予備知識を通知することができた。ローズの特別食については例のメニューに従って果物の種類迄限定してサービスされた訳であるが、たまたまそれが季節外れのものであった時に、他の

米国選手の中から我々にも同じものをサービスして欲しい旨の申し出が多くあって実はこれは上記のような大変な努力をして見つけ出してきたものであって多くのものを用意することは残念ながらできないのだと私の拙い英語で説明することもしばしば、でもローズの目をかすめてマスカットの大きな一粒を失敬する奴も出て来たのには驚いた。

米国選手に対するアンケートにも、2,3見上げられるのであるが東京大会迄の神宮プールでの練習。これは当初我々が考えていたのはプリンスホテル別館の25mとはいえ素晴らしいプールを主に利用し、試合場に慣れるために神宮プールを従として利用するよう手筈を整えて置いたのであるが、コーチのケーシー氏以下試合場のプールでの練習のみ本当の練習ができるのだとばかり、神宮プールの使用方について折衝するよう申し出があった。しかし神宮プールでは既に一般公開それに団体の貸切等のスケジュールがあって如何ともし難く、それでもその上無理をいっては係員の方に早出をして頂いたり大変な便宜を計って頂くことができた。

これは練習それに各地での試合に共通していえることであるが、内外ファンによる猛烈なサイン攻撃、その後に多くの予定を抱えている私には大変困らされたものであった。しかしながら米国ではマイナースポーツとして日常こうした歓迎を受けていない彼等にして見れば、滞日中一番楽しかったことに違いない。このことが彼等の対日感情を最高に良くした素因ともなったとは私にしてみれば皮肉なことでもある。

■ コーチのケーシー氏は初めての来日とあって見るもの聞くものすべて素晴らしいの連発、いわゆる外交辞令にソツのない人で、数々の好い印象を残していった。この人は一面非常に神経質な人で試合中であろうとなかろうとプールの控室サイドを問わずキングサイズの米国製タバコをひっきりなしに口にするといった人。試合のある日は60本も煙りにしてしまうとか。他面非常にラフな人で試合の前夜でも一応の門限を定めて自由外出をさせたり選手が門限迄に帰ろうと帰るまいとおかまいなく、門限なんかあってもなくても同じこと。特に我々には理解できなかったことは、選手に外出禁止を申し渡して、彼は夜の銀座に御買物。米国での慣習だかどうだか知らないが、結構選手は何も不満に思わないらしい、大人は大

人、子供は子供という訳か。ちよっとこゝでケーシー氏の家族に触れて見ると、彼の家庭は彼にいはいはせれば完全な奥様閑白だそう。それというのもミセスケーシーは素晴らしい美人で歌手だからだろうか。息子が2人あって上の子は音楽家にするのだそう。米国でも水泳のコーチは好い飯の種にはならぬよう銀行家にでもなっていれば今の倍の給料は取れたのだとか。

東京大会で残念だったことは100mの背泳で、C・ピティックが第2位に入っているがターンの不手際から失格になったことだ。アンケートの中で彼がそのうづ憤を洩らしているが、唯一人去る6月に結婚したばかりの彼が眼に涙を浮べて残念がっていた姿には同情した。しかし鶴の一声ノケーシー氏のソツのない了解で問題は納まった。競技前プールで渡してやった彼のワイフからの手紙を読みながら眼を細めていた彼が帰り際にはジュンとしていた。試合の結果にはあまりこだわらない彼等ではあったが、この時ばかりは彼にとっていわゆるシヨックだったに違いない。

東京での大会を終えて当初の予定では日光見物をするようになっていた。ところがケーシー氏来日したその日にこの予定を削ってしまった。我々が種々手を尽してみても首をたてに振らない。理由は簡単、帰米するとすぐにパンアメリカンの大会があるからその練習をするからだ。初めて来日した連中は日本全てがエキゾチックで別に日光がどうということもなかったらしい。ところが2度目のG・グリーン、F・マツキニー、3度目のD・ハーパーが日光に行き度いといい出した。そこでキャプテンであるグリーンに直接ケーシー氏に君の考えを伝えるよういったところ、どういふものか彼はコーチが苦手と見えてそれで彼等もあきらめてしまった。これまでして取消した日光行の代りにやった練習が1時間余り水に入っただけのものとは全く恐れいった。

大阪での大会は何とか米国チームに凱歌が挙った。これも米国での慣例に従ってかコーチに続いて私までが水温29°Cのプールの中に投込まれてしまった。御陰で新調のズボンとシャツは駄目にするし、昨年アジア大会で来日したインドネシアチームから記念に贈られたライターを失くしてしまうし、明日からの着る物にも事欠く有様の私にとっては、嬉しい悲しみでもあった。大阪大会終了後京都、奈良の見物の後、天理でのスキヤキパーティー。来日以来スキヤキは何時食べられるかを何度も聞いていた連中にとって大喜びのパーティーだった。その直後、A・ソマーズが彼自身の不注意から顔面に負傷をした。しかしながら天理での大勢の人々による本当に献身的な奉仕によって手当を加え、とにかく、翌日大阪を発って呉大会に臨む事ができた。東京では米国大使によ

る歓迎レセプション、水泳連盟によるレセプションに全員揃って出席した。これらは試合に関係の無い日に行われたものであったので楽しく過すことができたが、大阪では試合当日昼食会を米国チームのために大阪市長が開いて下さった。通常我々は試合当日朝食は8時、昼食は2時半、晩飯は試合終了後、という習慣なので、その昼食会ではコーチの厳命によって一切の食事が差し止められ、途中で全員席を立つという、主催者側には誠に申し訳のない事態を作ってしまった。種々の連絡、打合せの完全さを期したにも関わらず、このような事態を起してしまったことは私の責に帰するところ大であると考え、この紙上を拝借して関係各位に深く御詫び申し上げる次第である。

我々が一般に米国人の宗教について考える時、漠然とキリスト教を考えがちである。来日チームのそれについて見る時熱心なカトリック信者が4人程いただけで後の連中は結婚式と葬式だけは教会を利用するといった程度のものであった。カトリック信者達は金曜日には一切の肉食は断つし、日曜日の朝は行く先々で英語のサービスが行われている教会を探しては必ず出席していた。先にも書いた水連主催のレセプションは金曜日でバベキューだったために、それらの4人の選手は満足な食事ができなかった。我々には気の付かなかった事で気の毒なことをしたと思っている。米国チームの中で唯一人、J・アルカイアは回教の信者で、英語でサービスの行われている寺院を探したが見つけ出すことができなかった。

呉大会の前夜は宮島で彼等には初めての経験である純日本式の旅館に一泊した。欧米人が日本式の旅館に泊るに当って一番困るのは便所と風呂ということを以前読んだことかあったが、幸いにして苦情が出た訳でもなく、非常に珍らしかられることの方が多く、余計な心配も私の取越苦勞ということになったが、夜に入って蚊に悩まされた連中が、あったらしい。

最後の大会である名古屋大会の前夜、F・レガッキーが軽い下痢を起した。幸い大したこともなく予定通りの行動をその後も続けることができたが、東京で、L・ラーソンがガラスのコップで右手に3針も縫う怪我をしたことや、天理でのソマーズの負傷等、その他風邪を引いたのやらで、各地で医者を迎える必要が起きた。東京ではホテルかゝりつけの米人の医者を手配できたが、地方では探し出すのに骨が折れた。前もって米人かもしくは英語の話せる医者を手配しておく必要を痛切に感じた。

再び東京に戻るとすぐ帰国の準備に大童の2日間があつという間に過ぎた。今回の米国チームは帰国してすぐにパンアメリカンの大会を控えているので、東京すらゆ

つくり見物する暇もなく、時間に追われ通して全く忙しい18日間を過ぎてしまった。アンケートの中にも、2, 3見られるが、折角日本に来ながらほんの一部分をさっと見物しただけで帰国しなければならなかった彼等には心残りが多くあったことだろうと想像されるものである。

なおアンケートの中で多くの選手が指摘している日本選手の競技前後のビタミン等の注射についての批判は、彼らがいっただことを忠実に訳したことに留めて、専門家諸氏の御検討を御願ひし度い。たゞ私が日常の習慣から毎日ビタミン剤を服用するのを見て、彼等が競技大会の以前にすでに日本人の米食を主食とするビタミンBの不足についての予備知識は持っていたことは付け加えて置きたい。

最後に東京滞在中毎日のように学生部会の藤沢、三橋、塚田の3君にサブマネージャーとして早朝から深夜迄種々御手伝をして頂いたことと、東京を始め大阪・天理・呉・名古屋の各地で米国チームのために力を尽くして下さいました水連関係の諸氏、それにホテル関係の方々には、日本人の親切さを彼らから集めたアンケートの中で異口同音にいしめたその御努力に対し、そして私自身の至らない点を補って下さった多くの方々の御尽力に対し、米国チーム全員に代って心から深く御礼申し上げる次第である。なおオーストラリアから特別参加のローズは、競技会の予定が無いので、その後たゞ1人3週間日本に滞在、日本の各地を見物した後去る8月23日の夜米国向帰国した。

飛 込 を 顧 み て

日本チーム飛込コーチ 柴 原 恒 雄

全米選手権の結果、高飛込のトピアンが来日することが予想されていたが、結局飛板飛込の優勝者ドン・ハーバー選手が前回の日米対抗に引続き来日することとなった。既に過去2回に亘って来日している同選手よりも未だ日本には、馴みのないトピアン選手の方の来日を期待したのは、強ち私1人では無かったと思うが、然し前回の日米からの4年間にハーバーの飛込がどのような変化を来しているかということ、ハーバーが現在尚全米の第1人者であることは、世界各国の第一級選手が大体どの程度のもので有るかという標準を再度の来日によって確認ができるというものである。

実際に同選手を見てみると総体的には、前回と比較し之という目新しいものはなく、特に高飛込に至っては練習不足が目立って見えたことは同選手自身で告白していた通り決して最上のものとはいえなかった。

次に当方の代表に選ばれた金戸選手であるが、同選手は今年度始めて古参選手を斥けて選手権を獲得して代表選手になったのであるが、同時に国際競技の経験は一度もなく、今回の如く対一の対抗競技では凡ゆる面において比較される立場に置かれて、特に気分的には非常に苦しかったことと思うが、同選手には初陣としては又とない経験であり、将来大いに役立つことであつたと思う。

競技の結果はここで改めて記録は致しませんが、ハーバーに付いていけば飛板、高飛の両種目を通じて完全に自己のペース通りに試合を取運ぶ實力には大いに敬服させられ、何時も乍ら日本の選手に大きな教訓となつていくことはいう迄もない。

特に飛込の根源ともいふべき同選手の踏切のその確実さは機械的であるといつてよく、等しく日本のプレーヤーが最重要視すべきことである。又日本選手全般的についていけば、とかく米国選手の飛び方を種々検討することなく、無条件に受入れ勝であつたためか、飛込そのものに従来の大きさというか、高さというかこの点に大いに欠けていることを指摘したい。

「言換えれば無理な力を使わないで自然美を生かす飛込ということに解釈の仕方の相違があると思う」

何んといつても空中におけるフォームの美しさは高さを取ることによつて空中のフォームをより永く保つことが最も大切であり、これが日本の選手の特長であるといふところ迄持って行き度いものである。

今回同時に再度来日した。オハヨー州立大コーチ、マイクベッペ氏に日本選手の欠点というか弱点というかの指摘をしてもらったところ「日本選手は現在迄の国状からしてシーズンが短かいために非常に試合の数が少なく、試合慣れしていないため、どの選手も精神的に動揺するものが多いのは決して無理はない。平素の練習にこれを補う方法として絶えず記録会的な催しをできるだけ多く行うこと、なお、ただ漫然と練習をしないで選手自身が練習に対して更に慎重さと真剣味をもって当るべきである。練習は試合のための練習であり、練習中うまく飛ぶことの練習であつてはならない」とは大いに頷けることである。以上の如く今回の日米対抗を通じて日本飛込界のやるべきことも非常に多いが、又それだけ多く期待を持つべきである。



(大阪大会開会式)

日米水上大阪大会は7月20日からの東京大会から2日休んだだけで25、26の両日大阪プールで行われた。

東京大会は第3日目最終のリレーで勝負が決り、41-38の3点の差で日本チームが辛勝した。ところが大阪大会では37-33の4点の差でこんどは米側が勝った。東京で勝てば、今年は日本の勝ちという感じを与えるが、米側との約束は、対抗戦(デュアル・ミート)は東京と大阪の2回、他はエキシビジョンとなっているので、ケーシー監督は一勝一敗、引分のつもりで帰国したに違いない。

戦前两チームの記録を比べると、少差だが米チーム有利のソロバンが出ていたし、日本の太田コーチも勝算はもっていなかった。レースには100自と200背に米側に不運が見舞い、それに日本側に予期以上の向上があったので僅差ながら日本が勝つことになった。その勝因には、太田コーチが全日本のあとの一週間、日本選手に完全な休養を与えた決断がものをいったことと思う。なかなかできにくい決断を敢然としてやって成功させた太田氏の敬意を感じる。

大阪で米側有利だった点は、米選手がレースなれをしたことであると思う。東京では米選手のうちブリン、マッキーを除き、大試合経験者がなく、大部分の選手がコチコチにあがっていたということであり、横道にそれるがケーシー監督自身が一番あがっていたらしい。

それが大阪では落つきをとり戻した。日本側も東京より成績のよかった選手が続出、二番出しの競技会が一番出し以上充実した内容を盛り得ることになったのは大会の世話をした関西支部にとって多幸なことであった。

◇レースとして最も興味を集めたのは第1日の1500と第2日目の400だった。1500の方は山中、ローズが6、7コースにならび、ソマーズが2コースに離れてスタート、ソマーズがグングン飛出してゆくのに、ローズがさっぱり出ない。これをマークした山中もローズに頭をそろえている。1000になって20mの差が開いた。ひよっとすると逃げ込まれるぞと感じられる距離である。1200くらいからローズが例によってピッチを19(50のストロークの数)にあげ、山中がこれにお伴をして進んだが、到底及ばず、ソマーズは5mの差で逃込んだ。山中はローズにデッドヒートを挑んだが、これはローズの競り勝に終わった。ソマーズの記録17分44秒4を聞いては、ローズ、山中ともペースの失敗をとにかくいえるすじあいでない力が発揮されたわけである。ソマーズは腰のフラフラしている4ビートの泳ぎだが、腕が交互にしなるように身体を前にひっぱり出す。腕の泳ぎだがピッチが山中などより50で四つ(ストロークの数)くらいもあがる。はじめ飛出し差が大きく開いたので、気をよくして、調子に乗ったものに違いない。

第2日目の400は、こんどは山中に番がまわった。ソマーズ4、山中5、ローズ7のコースだったが、山中はいつも前半に飛び出すブリンの先を越して50からリードし、200でローズとの差2m、300で水があき、差は開くばかり、ゴールでは12mの差が開いた。コンラツの4分19秒0の世界記録が山中によって4分16秒6に縮められた。レースが終わってからのいつも割合に平気な顔をしている山中が、このレースのあとでは、はじめて、疲労の極みという表情をしていた。"1500で恥をかいたの

で、今日は死ぬ気でがんばった"ということであった下痢で悩んでいた山中にこんな力が出ようとは……大会最大の収穫であった。

次の収穫は八百継泳の世界新記録である。やはり山中の第1泳者2分1秒5の世界新記録がものをいった。福井2分4秒2、見上2分8秒3、藤本2分4秒7と見てゆくと見上の代りに2分5秒台の選手が出れば、8分18秒7まで上った記録はもう、4、5秒縮めることができそうだ。豪も力をあげているが、その最高8分23秒6と比べ、ロス、ベルリンと連勝した伝統のこの種目に、ローマでの期待が高まるのである。

紙数が尽きたので東京大会より良かったものを数える

と、

米側では400、1500のソマーズ、と100のファレルの55秒8の米新記録が特筆すべきもの、ケーシー監督が米への最大のお土産だと喜んでた。

日本側では山中の他に二百バタフライの那須が第一人者トロイを猛追、タッチで敗れたが2分17秒8の世界新記録を得たもの、100平で増田が2分12秒6の日本新記録を出したものが大きな収穫であった。

日米伯仲の日米大会であった。願わくば、日本選手がローマへ今夏の日米水上で見せたより以上のコンディションをもって行ってほしいこと。うっかりすると追いつかれ、追い抜かれる。(大阪水泳協会会長)

名古屋大会を見て

名古屋大会審判長 加藤 茂

日米豪交歓水上競技名古屋大会は、7月31日17時30分より振甫プールで約8,000名の観衆を集め11種目にわたる競泳、飛込の熱戦を展開した。当日は気温38度、水温26度という今夏最高のプール・コンディションであった。

日米豪選手は東京、大阪大会に続いて広島大会での連日の競技で相当な疲労を見せていたようである。大会内容に於てはこれといった記録もなく、ただ山中選手の800mにおける8分17秒0と増田選手の200m平泳における2分40秒8の二つの日本記録更新があり、又山中選手の100mにおける56秒4の日本タイ記録にとどまった低調さであった。当初に予定していた800mにおけるローズ、山中両選手の再度の対戦が期待されていたが、ローズ選手が棄権をし、山中、ローズ戦をみに来た観衆を落胆させた。ローズ選手は200mに出場し2分4秒2の記録をマークし、福井、藤本、両選手をおさえ、スプリントのある泳法を見せた。山中選手は800m及100mに出場し、100m日本記録に挑戦したが、前半27秒0とゆうあまりにもおそいラップで56秒4の日本タイ記録にとどまったが、アメリカのファレル、アルカイア両選手をおさえ優勝した。

石原選手が57秒0の好記録をものにして56秒台への足がかりを見せたことは、淋しい日本短距離界に明るい見通しをもたらせ心強く感じた。400mリレーはプログラムに予定していなかったが、ケーシー監督の重なる申し

入れもありレースの最後に行った。アメリカチームは日米大会を通じて世界記録樹立数も少なく、アメリカへのみやげも淋しいので最後に華を咲かせたかったようである。ラーソン・フォレット、アルカイア、ファレルのオーダーで世界記録に0秒6おとる3分46秒9の記録で優勝したが、ケーシー監督は残念がっていた。

又今回の名古屋大会では、第3回ジュニア大会を男子63名、女子30名の参加をみて、14時より、レースを開始、男女13種目にわたる競技を行った。日米大会に折り込んだのは、男女6種目であったが、日米大会の優勝者が、ジュニア入賞者3名を表彰し、山中、トロイ、増田、マッキニー、ローズ選手等より、それぞれ握手をして表彰してもらったことは特に印象的であった。

名古屋大会は三つの日本記録及タイ記録にとどまったが、日米豪選手とも疲れてはいたものの最後の大会であるとうことを意識してか、最後まで頑張り抜く意志を見せて名古屋大会をいっそう盛り上げ、ジュニアの選手にも与えた影響は多いものがあった。

大競技会とゆうものは選手が記録に挑む最高のチャンスであるから日程を組むうえにおいてもよく検討して選手に再度のチャンスを与えるべきであろう。強行軍的な予定では選手も疲労を感じ、大会内容も自と平凡となり、大会を行う意義が減少されるから、その点今後特に注意すべきではなかろうか。(愛知水泳連盟 常務理事)

競泳座談会

日本選手権を顧みて 日米対抗

8月12日

出席者（発言順）

北村 久寿雄 小柳 清志 南 佳恵 太田 光雄
赤樫 卓爾 古橋 広之進 菊池 章 鶴田 義行

北村 今年の日本選手権は例年に比べると2週間くらい早かったのですが、春の室内選手権から、各大学共休養をとり、早慶戦とか三大学とかに出て、相当いそがしい日本選手権の準備だったと思うのです。各大学のそれまでの練習で、どんなことを考えて重点にしたか、またそれについて今どういうふうに考えているか、その辺からお話いただきたい。太田君、古橋君などは選手を持っていないが、そういった点も織りまぜてひとつ。

小柳 例年、早稲田大学は、大体オール・ジャパンの合宿というものはインカレに直結しておったわけです。だから、むしろオール・ジャパンでは結果はどうでもいい、"泳ぎ込め"という方針でやっておったのです。今年はそれを止めて、やはりオールジャパンはどうしてもいい成績をあげなければいけません。そこで、選手に自信を持たせることが第一というわけで、今までやったことのないオール・ジャパンで、いい成績を残させよう、そうして、できれば日米対抗になるべく多くの選手を出そうと考えて、練習計画をいろいろたてたわけなんです。ずば抜けた山中選手と去年入ったばかりの伸び盛りの二年生を中心に考えました。合宿すると、飯が非常によくなり、また規則正しい生活をやるのですから、そういう間に調整したら、案外自分の今までの出なかった実力、あるいはそれ以上のものが出るんじゃないかということで50のインターバル、これは大体20秒間隔で20回から30回というのを中心に、前半から中盤にかけて徹底してやったわけなんです。合宿中、オール愛知との対抗戦があったので、10日間くらいやった。オール愛知はオール・ジャパンの4日前でしたので、それに八分程度に持って行けばある程度……と思いましたが、今から考えてみると八分じゃなくて七分かそこらしか行かない。ほんとうに調子はよくなかった。でも、去年あたりと比べると、相当うまく調整されたのじゃないかと思っています。まあ

変わった練習といえば、午前中制限タイムをつけてロングを引かし、午後は短いインターバルを中心にやったことが、変わったといえば変わった点でしょうね。

北村 ロングというと、やはり1500ですか。

小柳 山中、梅本あたりで1500から2000mです。山中の場合は大体100mを1分15.6秒です。大体初めの200くらいは本人に調整させたのですが、あとはその記録で、必ず最後まで泳げということですがね。

北村 オール愛知との試合間際まで、午前中はロング午後は50mの20秒間隔のインターバルを、毎日繰返したわけですか。

小柳 そうです。3日に1回くらいは、50に代えて100をやりました。100を10本から20本、これも20秒から30秒です。実際問題として、一人に一人がついて計時していませんから20秒だ30秒だということは確実に取れないのです。やはり、三人なり四人泳がせませすし、中心は山中においでいますから、山中がついて30秒、従って他の者はもっとインターバルが短いわけです。

北村 それでよかったのじゃないか。山中が後になって、200、400に世界記録を出すというふうなことになったが、そういうことからいうと、スプリントがついたということでしょうね。

小柳 わたしは、今年の一つの大きな段階はオール・ジャパンと考えて、早慶戦前後はとにかくスタミナをつけることだと思って、どちらかといえば、50のインターバルなんかやらなかった。ところがやはり、同じインターバルでも100より50の方がスプリントがつくんですね。ですから、オール・ジャパンから50に切換えた。今度は新しい方法でインカレもやって行きたいと思っています

南 わたくしは、4月の室内選手権の記録というのはほんとのものじゃないという気がする。その練習を振返ってみても、例えばプール使用に非常に制限があったしわざわざ2コースから3コースで1時間半から2時間くら

いと制約されていて、それにインターバルを取入れたばかり。インターバルのエキスというか、50とか25という短い距離をバリバリやっただけで、去年泳いだ力に多少スプリントが加わったというだけ、持久力というか、長い距離はあまり力がついていないような気がしました。ですから、室内選手権が終ってから、オープンに出て、なるべく持久力をつけるようにしたし、インターバルも400から500くらいの長い距離を主体に5本ないし8本くらいやったわけです。その次の試合が6月21日の日中戦だったので、日中戦の前にはスプリントをつけるべく、100から50の短い距離のインターバルに切換えましたが、この日中戦は、7月10日の日本選手権の途中の記録会というつもりで、コンディションを持って行ったわけです。早慶戦、三大学、その次が日中戦で、最後の日中戦から全日本までは18日間しかなかった。従って早稲田大学のように他に合宿に行くことができなく、ホームプールでやったわけです。来年8月のローマまでのスケジュールを見ても判るように、ローマまで13ヵ月くらいしかなく、その間、来年も当然室内選手権をやるということが分っているから、休養期間が非常に短いということで、日中戦が終ってから一週間ほど休養を取ったわけです。そして50,100を主体としたインターバルで、7月10日の日本選手権に持って行きました。日本選手権が終ってから考えたのですが、まだまだ泳ぎ足りないという感じが非常に強かった。ですから、今年は全日本が非常に早くて、インカレが去年に比べると遅いですから、この期間に何とかもう一度泳ぎ込んで力をつけたいと思っています。

北村 お宅では藤本君が去年に比べて相当伸びたね。新人では見上君。

南 それに開田、その三人です。

北村 早稲田では山中君を中心にいろいろ努めていたということですが、お宅の場合インターバルの各人ごとの調整というのはどうなんですか。

南 従来の練習ですと、大体献立が決っていた。ロングを引いてアップしてスプリントがつく、その次にロングをやって、ビートをやって……というふうに大体決っていたが、インターバル練習の場合は非常に個人差というか、そういうものを見てやることができる。うちの場合、非常に部員が多いのですけれども、一人一人のタイムをレース前に与えて、泳がせました。早稲田の山中君のように、抜群の選手は別にいませんから、その点うちはやりよかったですと思います。

北村 試合の結果についてはどうでしょうか。タイムだけでなく、泳ぎの点についても。

太田 私は選手を持っていませんから、そういう各学

校の監督さんのねらいは分かりませんが、レースだけを見た感じとしては、やはりいつものオール・ジャパンと違って、オール・ジャパンとはいいい条、日米対抗に選ばれるということを主眼にしていますから、記録というよりも、レースに勝つという泳ぎ方が多かったんじゃないかと思います。その点、オール・ジャパンの記録というものがアメリカに比べて割合低かったけれども、選手たちの持っている実力は、あの程度ではなかったということは見られるんじゃないかと思います。ただ、結局どちらかといえば、記録に対する消極的なレースが多かったのじゃないか。

北村 一つには、選手を持っている方は、南さんがいわれたように、まだ時期的には練習不十分であったという感じもあったのですが……。

赤樫 従来のシーズンは4月中旬から9月中旬の5ヵ月でしょう。今年は早いところは2月中旬から泳いでいますから、シーズンが2ヵ月延びて7ヵ月になるわけです。そこで休養ということも各大学で相当考えたと思うのです。だから、室内選手権を終って、ある期間休養を得て、そこからまたシーズン初めの基礎練習に入ったところもあると思います。休養期間が長過ぎて後の練習計画にソゴを来たしたとか、又短か過ぎたとか、そういうことがオール・ジャパンの結果に何等かの形で現われなかったのでしょうか。

小柳 休養の期間が一週間がいいのか、10日がいいのか、いろいろあるが、ぼくは一週間以上になれば、激しい練習に入る調整期間で十分できると思う。一週間ほんとうに休んで、休養が全然取れないということはありません。

北村 お宅はどのくらい。

小柳 室内選手権を終ってからは、泳ぐところがないから、相当長く休みました。三週間くらいですか。

北村 中央は。

南 早慶戦より試合が遅かったですから、もう少し取っていると思います。

北村 休養期間が適当かどうかというのは見方などで、肉体的に回復するということと同時に、精神的に、何か新しい気持ちになるということなんですよ。これはこの前の研究会の時にも出たけれども、室内選手権を目指して、特にインターバルをやった経験からいうと、無理に早く、寒いうちから水に入らなくともいいじゃないか——春のことでもあるし、温度の問題もあるが……。しかし、その休養期間はよかったですのじゃないかな。だからここでむずかしいのは、オール・ジャパンが今年最大の目標ではなく、日米対抗にあった。そういうことからオール・ジャパンはまだまだ練習過程で試合にぶっつけ

たという感じだった。わたしが見ておった感じでは、太田君がいうように、選考に入るための試合のテクニックがあった。これはマイナスだ。しかし去年に比べると、全般に泳ぎが非常に鋭くなったという感じを受けたのです。が……。

太田 そういい得ると思います。今度のオール・ジャパンは高校生が試験や何かで割合入ってこなかったというところにも、オール・ジャパンが記録的にも、盛り上りにも低調だった原因があったことは否めないと思います。やはり、若い高校生あたりがオール・ジャパンに出て来て、日米の代表に選ばれるのだというような気持を持ってレースをしたならば大学の方でも、ただ選ばれるだけの試合よりも——もちろん、そういう気持はあるだろうが——記録的にもっと高いレースができたのではないかという気がします。

北村 レースに活気が出たでしょうね。

小柳 自分の選手だけしか分らないが、十河の場合なんか、日米に選ばれるという気持より、何とかしてあれをひねってやろうという気持が強かったですね。100が最後だったが、その前の200が終ったときはまだそういう気持はなかったが、100の時初めて意識したらしく余裕がなくなった。そういうふうに逆に受ける人もある。200の調子で行けば、100はもう少しいいはずなんです。……（笑）

北村 おそらく、選ばれるためのかけひきが見られたのはごくわずかな選手だろうが、そういうものが試合全体の空気から見える。しかし、記録的に見れば、低調でもない。

赤樫 室内選手権である程度の成果をあげた。われわれ期待する側とすれば、オール・ジャパンには、さらに期待をかけるわけです。まして日米対抗という事から、戦前のアメリカの実力を推察すればする程その期待は大きくかけざるを得なかった。だから、例年のオール・ジャパンに比べて全く低調かどうかというそれ程悪くはないのではないか。

小柳 いずれにしても、例えば代表になるために緊張して、あるいはかけひきをして、実力が出しきれなかったということはいえるね。

太田 全般的に見てね。

小柳 実力以下の試合をやっておったことは事実だね

北村 高校生が参加できなかったのは、男子の試合もそうだけれども、女子の場合も、田中聰子を除いては全部そうだね。

太田 アメリカがいい記録を出しているんで、こっちもそれに対抗するためには、もっといい記録を出してもらわなくちゃ困るという時に、期待に反したような記録

だったということでしょうね。去年あるいはその前と比べていえば、別にそれほど低調とはいえない。

北村 今年の場合は、日米対抗があるから、オール・ジャパンは第二次的なものになってしまったのだ、これはその意味では仕方がなかったでしょうね。

北村 そこで、今年は、日米対抗のために、オール・ジャパンが7月10日から12日という例年にならぬ早いスケジュールを組んだため、いまいったような結果が出て来たのです。今年はインターカレッジは遅い。この間があるから、またまたわれわれインカレに期待しているのです。インカレとオール・ジャパンとの関係、インターハイとの関係、こういうものを、強くするためにはひとつ検討してもいいのじゃないかと思うのですが……。

太田 それは大いにある。ぼく自身としては、オール・ジャパンは一年の締めくくりということで、インターミドルを、できるのならやって、インターハイをやり、インカレをやって、最後にオール・ジャパンになるのがほんとうじゃないかという気がするのですがね。実際、日本の選手権者を決定するのに、試験だとか、その他の理由で若い高校生が出て来ないというふうな大会では、ほんとうの選手権という意味をなさないような気がするのです。

北村 オール・ジャパンの男子はそれくらいにして、女子に行きましょう。女子は田中聰子が200のバックで世界新記録を出したわけですが、あの記録を出した原動力はどういうところにあるんでしょうか。やはり全般的に練習の積み重ねということですか。泳ぎなり、ペースに進歩の跡はみられましたか。

赤樫 泳ぎにはっきり見られます。今まで甘い甘いといっていたが、足の振幅も変えたと思うのですが、手をかく速度、そういうものも出て来たと思う。ただ今から注意してもらいたいのは、この間黒佐さんとも話したが、手をかくコツとか、足のキック、そういうものを忘れないようにして、さらに足を強化しなければいかん。従来非常に足の強い選手だった。その時の足は相当大きな振幅だったが、今度はあれだけピッチが上って来たら若干小さくなっている。この間も本人が、「足が弱くなりました」とかいていたが、やはり手足のバランスがあるのだから……。小さい振幅でも、足がやわらかくなれば、それを大いに利用すれば、あんまり変らなくなると思う。だから、足を強くするように、ということは忘れてはいけない。

北村 泳ぎが少し弾力的になったというが、むりのない、ローリングのちよっと入ったような感じでしたね。

赤樫 スムーズになったし、かきはシャープになった。

北村 去年の泳ぎは、いかにも棒に手足をつけたよう

な、ぎこちない感じだったんじゃないですか。

赤樫 手をかくコツ、足のキック、バランスが本人自身の泳ぎになって来たね。のみ込んでいる。今の実力からすれば200の場合あのペースはいいペースだと思います。

北村 実は黒佐さんの手紙を見たんですが、4月ごろから島田さんに手紙をよこして、世界新記録目標のペースを作って、どうしてもそこまで仕上げるのだとおっしゃったが、その通りになったわけです。50が37秒、100が1分17秒、150が1分57秒、200が2分37秒というふうにつくった。本人も努力したろうし、黒佐君も非常に熱心にコーチした。その黒佐君が、来年はどうしても、100で新記録に挑戦しなければいかん、一体100の25のラップはどうすればいいかと手紙が来ていますが、そういうふうな態度は、たしかにコーチとしても積極的だと思うし、われわれもそれに応えてもらわなければいかんと思うのですが。

北村 次に、日米対抗に入りたいと思いますが、初めに太田さんから、選手を扱って、練習の上においてどういふことを指導上の中心になさったか、東京大会と大阪大会とは違うでしょうけれども……。

太田 先ほどもちよっと触れたけれども、オール・ジャパンまでは各チームとも猛練習をやって来たが、オール・ジャパンが早かったために、各校の監督の方のいわれるように、上り坂の途中でぶつかってしまった。しかも、日本選手権にいい成績を残して、日米の代表に選ばれなくちやならんということが先行してしまって、実力を十分発揮したレースじゃなかったと思うのです。

選手団を組んでから、すぐにいろいろ体力的な検査もしましたが、それほど肉体的な疲労はない。しかし、精神的にはもちろん、3日間のレースを済ませると、かなり疲労しているわけです。そこで日米対抗までの日を繰ってみると、約一週間しか練習する期間がない。いろいろ検討した結果、とにかくもう実力は相当ついている。ただその実力を発揮できなかった。もちろん、日本選手権のタイムそのままでは、とうていアメリカには対抗できない。しかし、とにかく選手たちは知らないかも知れないけれども、端からみるとまず相当高い実力を持っているのだから、その実力を十分発揮してもらわなければいけない。それにはどうしたらいいか、一応考えた結果、練習期間もないし、練習によってそこまで行くことはおそらく不可能だ。それならば、練習はたくさん積んでいるのだから、いかにして体力的な疲労と精神的な疲労を除いてやろうか、それを主眼にして考えた。もちろん、午前午後の練習というものは計画してやりましたけれども、長く、ダラダラ泳ぐということはさけ、非

常に短い距離をインターバルでもって仕上げて、さっと早く上って、あとは十分休養を取るといふようなことで一週間を過ぎたわけです。非常に危険ではあったけれども、短い、短時間のインターバル練習でもって、肉体的な疲労はもちろん少なくなって来るとともに、精神的にも非常にのんびりして来た。レースが近づくに従って各自の50とか75とか100とかいうタイムが目に見えてよくなって来て、一応これならば、そうみっともくないレースができるんじゃないかという自信をつけたわけです。それともう一つ、選手に一番強調したのは今までの例をみても、ここまでやるために、いろいろハン雑なことが多くて、選手たちが必要以上に固くなってしまいういふ面が多かったのだから、夕食後の散歩なんか割合自由にさせました。それから、レースの前になると、得点計算だとか、新聞記者たちのインタビューとかが多くて、選手たちがレースをやる前から精神的に相当くたびれてしまうのですから、なるべくそういうものを避けるようにしました。実際に選手たちの生活を見てみると、あと一、二日後に日米対抗をやるのだという緊張したふんい気は割合なかったわけです。レースとしては、割合にのびのびとやれたんじゃないかという気がしているのです。その点は、期間がうまくぴったり合ったのと、選手たちも初めから劣勢なのだから、ここであくせくしてもしょうがない、試合になったらがんばるだけだといふような、悪くいえばすてばち、いい意味でいけばのびのびとやれたという気がする。これはこういうふうにしなればとても勝目はないのだ、そういうつもりでやってくれ、といふ選手たちにのびのびとやらせるようにしたわけなんです。これがすべて他の競技とか対抗戦にあてはまるとは限らないと思うが、大体今までの日本の選手は、どちらかという、試合当日、相当へばったままでレースをして来たという感じがする。相当きつい練習をしても、やはり試合前までには完全に疲労を回復できるようなスケジュールを、ある程度作ってやる必要があるんじゃないか、ということも相当感じた。今度も、3日間で相当きつい試合をするので、ことに山中さんが毎日2種目ずつ出してもらおうようなことになって、これは初めの日はいいが、3日間の大会ではとことんまでへばって動けなくなるんじゃないかという心配もいたしました。けれども、疲労回復に主眼を置いたために、各選手とも比較的疲労を感じないで戦えたのじゃないかと思うのです。結局、レースの始る前の私の考えとしては、いかに疲労をとってやるかということに終始したという感じがすね。

北村 精神的なものから来る疲労はなるべく残らないようにしてやる、肉体的にはある程度練習を重ねた方が

いいということですか。

太田 それはある程度泳いでいなければ……。いくら疲労を取るといっても、一週間もぶらぶらしていたのでは自信をなくしてしまう。練習を積んでいけば、一週間くらいの間は短い距離を一日1回か2回がんばって泳げば、自信をなくすようなことはないと思います。

北村 試合前になってブロックを出そうとしてもむりだからね。われわれ外から見ておったものの印象としては、太田君の話とは逆なんで、またその逆の結果が出て来たんで感謝しているんです。というのは、相当苦戦だというのが予想でもあったわけで、苦戦だということですが、かえって選手を固くするんじゃないかというのが一般の予想だと思ったが、太田君のいろいろな配慮から、精神的疲労は従来に比べて少なくして行こうということが、成功したのですね。

太田 かえってアメリカの選手がコチコチになっていたようなところが見えたね(笑)

小柳 ぼくも外から見ておって一番感じたことは大体選手層が各大学の選手なんです。やはり各大学は人の和を中心にして合宿生活もやっている。そういう連中が集って、太田監督のもとに、長谷キャプテンで、うまいまとまりを見せて、おれたちは日本の代表だ、勝つんだという、そういう人の和というものが大きな影響になったんじゃないかな。

太田 いい忘れたが、今度の場合、得点の計算をして、だれか一人でも悪いのがあったら全然だめだというギリギリ一ぱいの得点予想なんです。だからチーム全体、みんながベスト・レコードでのびのびとやる以外には、勝つ方法はないと思った。その点は長谷キャプテンに頼んでやってもらったのです。けれども、私も何回かそういうチームを持って見たが、その点では、模範的なチームじゃなかったかと思うのです。それがロード・ゲームで地方に回っても、最後までくずれなかったということも、これは選手たちをほめてやらなくちゃいけないんじゃないかと思えますね。

小柳 太田監督の指導もうまかったし、それを受入れる選手も非常に敏感に取って、うまくまとまっていた。これが大きな原因じゃないかと思うのです。

北村 この間、ライフ・タイムというピクトリアの大きな雑誌社の東京特派員が私のところに来て、日本の水泳が今年日米対抗を通じて非常に輝やかな記録を出したが、国家のためにというふうな気持ちが選手の中に出て来たんでしょうか、ということ非常にしつこく聞いておりました。それに対して、国家のためにというふうな他律的な考え方ではなく自分自身で自分の力の限界を試してみるとか、あるいはそういう目に見えない記録に

挑戦するとか、若い人が、自分の目標とか理想を追求する態度が、全体に出て来たんじゃないか、その結果だろうというふうについておいたのですが、これは大学の選手を持っている監督さんが一番よく知っていると思う。やはり、戦後十何年かたって、学生が非常によくなって来たんじゃないでしょうかね。

小柳 一つの団体を組んでいると、その選手たちは一緒に寝たり、一緒に食べたりしているのだから日常生活のことも、お互に励まし、励まされてやる必要で自分のことだけ考えたってだめです。

太田 従来、オリンピックだとか、日米対抗になると自分の成績を気にする者が割合多いのですけれども、今度は長谷にしろ、山中にしろ——特に、山中なんかぼくも強調したのです。とにかく、ローズが羽田へ着いた朝なんか口も聞かないくらいに緊張している。だから、山中を呼んで、ローズと対抗するという気持はわかるけれども、日米の日本代表選手として日米対抗を戦うんだから、ローズは二の次にして、とにかくアメリカチームに勝つことに努力してくれということ、再三いったのです。もちろん、ローズにも勝たしたい。しかし、ローズ、ローズといって、あまり意識してしまうと、かえってローズにも負けるし、記録約にも悪い。だから、一石二鳥をねらって、山中にそういうふうに行ったのです。結果的には山中を酷使したようなことになったけれども、ある程度、十分の自信を山中も持ったんじゃないかと思うのです。

北村 アメリカの選手はどうか、谷口君がいると面白い話が聞けたと思うのですが、赤樫君、その方面を研究されたというのが、チーム全体としてはどういうことだったのですか。

赤樫 私より古橋君がよく練習は見ておりましたから

北村 コチコチになっていたという話がさきほどちょっとありましたが……。

古橋 ケーシー監督は、今まで日米対抗にきた経験もないし、大きなチームを連れて来たこともない。そういう一つの未経験から来たんだろうし、もう一つは、概して新しい選手が多かったので、これの扱いに多少てこずっていたようで、チーム全体が、どちらかという、不安というか、言葉はちょっと悪いかも知れないが、非常にそわそわした試合運びが多かったと思う。いろいろ聞いてみても、ケーシー自身、"それほど自信はなかった"というような、言葉じりが多かった。だから、"やってみなければ分らん、ともかく最善を尽すだけだ"というようないい振りだったし、そういっては失礼かも知れないけれど、どうだ、こうだといって選手を動かすほどの力もなかった。そういう感じにとれました。新聞記者な

んかに聞いても、今度の監督は、物を考えるのが非常に神経質な感じだ。これも、そういった未経験とか多少自信がなかったところから来ているのじゃないか、というようにこともいっておりましたが、大試合ですから、そういうことが大きく影響するだろうと思うのです。

北村 ソマーズにしても、若い選手が多かったですね。長谷とか、吉賀とかいうふうな、ベテランで中心になるものがいなかった。グリーンがおったけれども、自分自身が少しだめになったというようなことで、ああいふ場合には監督としても、まとめるのになかなか大へんだったでしょうね。

古橋 練習なんか見ても、ほとんど自由で、強制はしていなかったんですね。

赤樫 ちょっと聞いたのですが、宿舎に帰っても普通監督と選手の間では、悪いことをしても、「バカヤロウ」——それで済む。ところが、「これこれこういうことがあるから、そういうことをしてはいけない」いちいち理由をつけていうんだそうですね。やはり監督と選手にそれだけの親しみというか、なじみというか、ツウといえればカアというようなところがなかったんじゃないかと思えますね。

北村 おそらく日本のように、監督と選手がチームになる前からのつき合いというものはないんでしょうね。だから、他人行儀的な注意になって来るんだらうな。

北村 アメリカの選手の泳ぎを見ていると、アルカイアがいい泳ぎですね。ソマーズはどうですか。

太田 人から聞いたのでよく分らないが、あれはトラジオンクロール、ちんばの抜手をよく研究している。彼のはトラジオンクロールのダブルだ。両方で使っているという。水中から見た形が……。足が普通のビートみたいの下へ行くのではなく、横へ入れている。

北村 トラジオンは豪州のチャールトンがやっておった。片一方のあおり足といって、片一方であおったような形だが、ソマーズは両方使っておった。

赤樫 私も彼の練習中に良く注意して見たが、この間の水中写真よりすると、あおりというよりは、むしろ横に流れているという感じの方が強かった。

南 90cmから1mくらい、足のビートの位置が違いますね、まうしろから見ていると。

北村 松沢さんのフィルムを見て研究しなければいけないが、だれも彼もまねしてということではなく、よほど特殊な泳ぎなんでしょうね。彼、来年はどうなるか。あれで猛烈に伸びれば、相当の旋風を巻き起すでしょうが……。

古橋 日米対抗を見ていまして、これはオール・ジャンとも関係があるのですが、多少苦言めいたことにな

りますけれども、日米対抗では優秀な成績で、これは喜ぶべきことだと思いますが、泳ぎが非常にくずれて来たように感じるんです。こういったところをなお一層研究して行けば、どんどん進んで行くんじゃないか。一人一人の泳ぎをずっと見ていたが、大体手の突込みでも、深く、うまいぐあいにキャッチしている人はやはり強い。むだなく泳いでいる。他の連中は、相当がんばっているけれども、何かむだがある。インターバルでバンバンやるもんだから、そういったところで、それをカバーしているというのが多い。ちょっとヒントを与えてやれば、非常に大きなプラスになって来るという感じがするんです。せっかく、インドア・プールができて、インターバル練習なんかもちろんあるんですから、こういった機会に、少しずつ優秀な方々で見せてあげて、ヒントを与えてやれば、よく伸びるだらうと思うんです。悪い人を見ていると、手のキャッチが非常に浅い。山中なんか見ていると、非常にいいキャッチをしている。外国の選手を見ても、やはりそんな感じがする。もちろん、日本の選手も、外国の選手よりすぐれている人もいるし、まだ伸び切っていない人ももちろんありますけれども……。

北村 その点たしかに日本の選手はまだまだフォームに気をつけなければいかん。特にオーストラリアの選手に比べると、研究の余地がたぐさんある。しかし、少なくとも、一昨年より去年、去年より今年は格段によくなったような気がする。ここしばらくあった、手を振り回して行くという、いかにもロングらしい泳ぎというような泳ぎが影をひそめて来て、シャープになって来ている。

古橋 そういうことはいえる。従って、そういうことをやればなお強くなる。せっかくあれだけの強い練習をやっているのだから、むだな力をやっていたら効果は上らない。ちょっとしたヒントを与えるだけでいい。それがああいふ練習とマッチして、ぐっと伸びて来るんじゃないかという気がする。もう一つは、細かいことだが、スタートとターニングのへたなこと、これは上で見ていると非常にはっきりしている。こういった点を何とかしなければならぬと思う。

太田 ケージ監督と話したときも、その話が出て、日本はターニングとか、スタートの練習をする時間を持っているかと聞かれた。こっちはリレーの引継ぎなんかレースの前にやる。スタートは、このごろインターバル練習をやるようになってから割合そういう機会が多くなったが、特別にスタートとかターンに練習時間を割いてやるようなことは、どこのチームもやっていないといったら、日本にも短水路のプールがあるんだから、冬の間なんかは短かいプールでジャンジャンやれば、ターンなんかの練習もどんでんできるから、そういうことでやった

らどうかといっていました。国内の選手だけでは分らないけれども、ああいうふうに一緒にやってみると、たしかにターンはまずいということが分りますね。

北村 一昨年くらいから、短距離で水中ターン、クイックターンをやらんやつは失格にするといいいながら、今年初めて短距離選手が全部やった。それはいいことはいけれども、二年もかかった。まして長距離の選手のターニングをよくするには、相当努力しなければいけませんね。

太田 この間アメリカの連中は400くらいでも盛んに使っていましたね。400くらいでも使うようにしなければいかんと思うのですが。

古橋 もう一つは、彼らはよく考えて泳いでいるということ。もちろん、日本の中にも考えて泳いでいる人もあるが、そういう面が多少欠けているような気がするが……。

北村 その点、朝日新聞に座談会記事が出て、「頭で泳げ」というようなことが出たけれども、あれについて私のところへ友人から大分抗議めいたことをいって来た。それは、しろうとですから、単に頭で泳げというあの記事の印象に、日本人として感情を悪くして行って来たんだらうと思うのです。あの記事を引用するのは何だけれども、私、ローズがメンタルだとは思わない。私自身、牧野と泳いでおったけれども、あれは非常にやり易い勝ち方なんです。相手のペースについて行って、1200からずっと抜く、これは私が牧野に勝ったやり方です。それは、私が牧野の後をついて行って、追い抜くまではそれで通用するでしょう。しかし、新しい記録を出すというふうなことはできない。だから、相手に勝つのはうまいかも知れぬけれども、将来性ということについてはローズには非常に疑問を持っている。片や山中は、おそらく1500は自信がない。メンタルなものというよりも、1000mくらいになれば、またおれは落ちるんだというふうな気持ちが先になって来ているんじゃないだろうか。たとえば400の試合を見ていると、メンタルなものはどうかといえば、ローズの試合ぶりなんていうものは400の試合ぶりではない。山中君の方が400としては、もっと理想的だ。だからメンタルなものというのは、非常に結果論的でもあり、将来の伸びということを考えてみると、私は一概にそうはいえないと思う。

古橋 勝負だけを考えてやるのと違って、練習の時にもう少し考えて、たとえば、親指の問題でもそうだと思う、細かいことだが。これだけ記録が出て来たんだから細かいことでも相当注意して泳がないと置いて行かれるような気がする。みんな親指一つ離して泳いでいるでしょう。ここをちょっと考えて泳いたら、非常なプラスに

なるだろうと思う。ちょっとつけたらいい。そこまで気をつけなければ……。

北村 それはむしろ、コーチ、監督の責任でしょう。さっきもターニングの話が出たが、どうもターニングのような、些末な技術で勝つのは恥だという考え方があったり、ただがんばりさえすればいいという間違った泳法があったけれども、それは日本水泳界全体のことで、個々の選手のメンタルな問題ではないと思うのです。

古橋 日本の場合には、理くつ抜きだ。ともかくこうだ、とよくいわれるけれども、これからの選手はやはりいまいったようなことを考えてやれば、もっと伸びて来るような気がする。

小柳 弱い選手はどこかが悪いに決っている。強い選手だったら、泳ぎがいい。弱い選手が手の突込みが浅いとかい場合、それをどう指導して行くかということになるね。

古橋 それは後のことだ。

小柳 フォームを直すには、ゆっくり泳げばできるが、力を入れるとフォームがくずれる。手を深く突込んでも、そこからかき切る力がない。

古橋 ぼくはある過程に於てはくずれてもいいと思う

小柳 腕を深く突込むということは、腕にそれだけ力をつけなければならぬ。力がないのに、そういうフォームで泳がしたり、教えたら、すぐくずれますよ。昔流に、むちゃくちゃに泳がしてはいかんということはいえるけれども、やはりフォームを比較的楽に直すためには、足の力、手の力をつけなければいかん、手に力、足に力をつけるためには、ある程度泳がせなければいかんということになる。

古橋 それは一つの例だ。いろんなことを加味してやらなければならぬ。強くなるためには……。

小柳 強くなるためには、うんと練習させなければならぬ。頭で考えることはある程度無視することが必要だと思うが……。

古橋 しかし、考える時には考えなければならぬと思うね。

北村 われわれだって研究不足なんで、去年から根本的に練習法も変えなければいかん、泳ぎも、今までの日本の泳ぎは間違っておったのではないか、さらに検討する余地はないかということで、大いにはり切ってやってあるわけなんです。終戦後から今までわれわれ日本の水泳が遅れていたということについて研究が足りなかったという意味で、メンタルなものがなかったことは事実だと思う。しかし、山中とローズの泳ぎを見て、日本人はもっとメンタルなもので泳げということは当然のじゃないのか。

太田 古橋君のいいってことは、その瞬間だけのことではない。センスをもって泳げということはその前の練習の過程においても考えなければいけません。たとえば、前に豪州の連中が来て話をしたときに、日本は腕の力が弱いから、どうしても足で泳がなくちやならぬといったときに、初めから腕が弱いことが分っているなら、まず腕を強くする運動あるいは体を強くする運動をしなくちやいけないんじゃないか、そういうことをまず取上げてやったらどうだということをいっていたが、そういうことをいっているんじゃないか。受取る人は、ああいうレースをみて、その結果レースそのものにそれだけの差があるということを受取ったかも知れないけれども、ほんとうはそうじゃなくって、その前にまず体作りからやらなければならぬ。練習の過程の時にもいろいろ考えて、山中なら山中が何秒で泳ぐためには、どういうペースで泳がなければならぬということを考えなくちやならぬということをいっていると思うのです。

北村 泳法についてさらに考えなければいかんということは、当然のことなんです。だから、メンタルという言葉が悪いのですよ(笑)。

太田 結局、そういう練習の結果、努力の結果がある程度レースで見られるのじゃないかということだと思っております……。

小柳 豪州の、猛烈に突込んですぐかくというような腕にするためには、日本はまだ冬のトレーニング、夏の練習からやらなくちやいけません。まだまだ基礎的なものができていない日本の選手に、手を突込んで、こうかけといった。てかけるもんじゃやない。ゆっくりならできるが……。

古橋 しかし、やることは今後やらなくちゃならぬ。

赤樫 誰が考えてもいい事はすぐやらなくちやならぬ。従って体作りもやらなければならぬ。

小柳 そのためには、冬の間にはトレーニングをやる、夏の間もやらなければならぬ。一つや二つの試合を投げても、せっかく合宿に行くんだから、思い切ってやる。目標を必ず一つ持って、東京なら東京、ローマならローマに目標を持ってやる以外にない。やれ早慶戦だ、三大学だ、オール・ジャパンだ、やれオール九州だといって一つ一つ、その試合のために合宿練習で調整して行ったらだめです。間に合わないですよ。だから、多少考えることもいいけれども、猛練習も必要じゃないかとも思うのです。

赤樫 たしかに、記録の限界——というときかられるが、人間の限界がどこにあるか分からないけれども、記録が高度なものになっているから、つまり泳げる最高の環境を作ってやるということでしょう。たとえば、短距離

では1回のターンだ、だから失敗したら終わりだ。長距離は1500なら29回のターンがある。これは1回の失敗よりも29回の失敗です。そういう考えになるように、小さなことでも粗末にしないように、親指をつければ水が逃げない、そういうことまで考えないと、これからの世界の強豪に勝つとか、肩を並べることはなかなかできませんね。

北村 古橋君のいわれることは、水泳界に対する全般的な苦言で、その点についてはわれわれとしては、少なくとも去年からいろいろ目に見えて改善しつつあると思う。この一年間の進歩は、われわれは単に否定するだけではなく、この成果を買った上で、さらにその上に立って研究を進めて行くことが必要だと思う。話が横道にそれてしまったようですが、種目ごとにやりたいと思います。去年山中がアメリカに行ったときに、非常にローズが強いように感じたというのが、私の印象としては、コンラッズの方が強いような気がします……。

古橋 ローズは今年は調子がよくなかった。限界が来たのかどうか知らんが、泳ぎはとてよくずれておった。もっと浮いていたのが、今度は寝ちやっている。

太田 息をするのにアゴが上っていた。

古橋 ラストでも全然身体が浮いて来ないでしょう。

太田 あんな泳ぎじゃなかったと思うが……。ぼくはびっくりしてしまった。

小柳 記録的には。

古橋 少しよくなっている。しかし、一度も本気に泳いでいないんですよ。強い選手に会えば伸びて来るんだが……。

北村 われわれは初めて見るのですが、あの試合ぶりを見て、あれならコンラッズだと思ったな。ペースの配分にしても、あれじゃ伸びませんよ。

太田 練習は一カ月くらいしかやって来なかった。

古橋 仕上げが10日間だといっていた。

北村 山中は400は自信持っているが、1500では1000くらいになると、自信をなくしたようなことになるのですが、どうなんですか。あの辺のところはいろいろ苦心されていると思うが。

小柳 ぼくは1500でも強いと思う。47秒くらいの選手じゃやないと思う。

太田 あんなところにどうしているか。あなたのいるところで申訳けないが(笑)。400、200の泳ぎを見て、3年くらい前にそういったのだが、30秒は出ておって不思議じゃやないです。

小柳 1500はどちらかという、非常に苦しい。孤独の泳法とか、時間と競争しているとかいうんで、ちょっと気をゆるめると1秒や1秒半は違うわけですよ。やはり

精神力でしょうね。山中が精神が悪いというわけじゃないけれども、さらに意思の強固さがなくちやいかん。

太田 長距離の選手が一番つらいといわれる900,1000ぐらいの所でペースが落ちるのは、精神力がもう一本必要じゃないかと思う。

小柳 たとえば、1100,1200から非常にへばって来るという一つの先入観があるということ、非常に不安を持って泳いでいる。最初の飛出して行く10秒から11秒ぐらいのあれが、ほんとうの最後から行く泳ぎです。しかし、自信がなくなると、ここでへばるからがんばらなければいかんと思って、肩に力が入ってしまう。肩に力が入ればよけいにへばってしまう。

太田 山中君は半回転半回転といって、半分しかかかないといっていたが、ほくらが教わった齋藤さんや新井さんの泳ぎ方でも、100の初めの50までぐらいは、手は全然かかない。足は打たないで肩だけ動かしているような調子で泳げるのだ。それで泳いでもちゃんと浮いているし、手は一杯かいているのだから、そういう気持で行く練習をしると何回もいわれておった。それは自分でもマスターできなかったが……。山中が200を泳ぐときなんかは、初めから——メルボルンの時にもそうだったけれども、力を入れて泳いだ。800の時は見ている気も毒なくらい、ピッチは上って、よく浮いているのだけれども、スピードが全然出ない。ところが、力を抜いて楽な気持で行くと、あまりピッチを上げなくてもするすると伸びて行く。そういうことも今度は山中君に強調してやったわけです。

古橋 1500だというので、どうも初めからセーブして泳いでいるような気がする。前半もう少し飛ばしたら、案外調子づいて行ってしまふのじゃないかな。

太田 普通、常識では、1500のラストを1分6秒で泳ぐことができるくらいなら、途中もう少しがんばればよいのに……。

小柳 去年一年は、足の幅とピッチの間隔が1500に対する山中の課題だと思って、足の幅をもう少し狭くしたらどうか、そしてピッチを上げたらどうかということでやった。だから、去年よりも1500のピッチは上っている。それだけ記録が上っているだけの話で、まだ思うような記録には行っていない。これが果して誤りであるかぜうかということ、まだ考えなければならぬことだと思います。

北村 山中君は考えてみると、運の悪い試合をやって来たんですよ、メルボルン以来。

太田 ラストでスプリントを利用してやれば追いつけるのだというようなレースが多かったからね。

北村 そうはいいながら、大きな試合ではわずかの差

で負けて来た。世界記録を作っても、その年のうちにコンラッツが、またその上を出したりしてね今年も彼はとしては、400,200はまことに会心だにでしょう。これで、自信を持ってローマでもやってくれるといいのですが……。

小柳 1500も山中はやれるんだという自信は失っていない。

古橋 自信は持っていると思う。でも、もう少し前半泳げたらなという気がする。

小柳 それは400だって同じです。16秒6は会心の泳ぎかも知れないが、ペースをよく研究してみると、300の6秒、あそこがまだ縮まるはずだし、前半の1秒だって、まだまだ縮まるはずだと思うのです。ペースにしたなら、そう立派じゃない。とにかく大阪の1500なんてもってのほかですよ。あれなんか一番彼の弱点を暴露しています。前半13,4秒かかっている。せっかく、11秒、12秒のペースを苦心して作ったんだから、それはそれで泳げばついて来るんだから……。800でも20m離されることはない。

太田 400でいつも泳いでいるペースより10秒遅い。それくらい遅く泳いでいることが自分で分らないというのでは……。

小柳 前半ゆっくり行ったら、後半そんなに記録が上るもんじゃないね。

赤樫 途中から調子変えることはできない。落すことはできるが上げることはできない。

太田 その点では、レースには負けたけれども、自分では相当こたえたと思うのですよ（笑）。

小柳 コンラッツに勝つ方法は一つしかないとほくは思う。そのための練習は猛烈にやらなければいかんけれども……。

北村 ひとつ小柳さんお願いしますよ、来年は。

小柳 全力は尽します。

北村 長距離で石井、梅本。梅本は短距離という感じがしたが、よくあれで伸びましたね。

小柳 なぜ長距離やらしたかという、彼の体が非常に固い。特に足首が固い。あの足はバタバタ打っているけれども、実際はきいていない。腕の力が全体的に弱い。ただ泳ぎとしてのコンビネーションは非常にいい。それである程度行けるのですが、まだまだ彼には課題が多い。長距離泳げば彼の力にもなるし、山中がひっぱって行きますからね。15,6秒のペースで泳げば、どうやらこうやら1500くらいまでは何とかついて行く。励ましてくれる人を得ることができたのだから、この際思い切ってやらしたわけです。短距離にするなら来年からでもいいのですからね。しかし、彼には、100から1500の選

手にならなければならんといっておるのです。おれは1500だから100はいかん、というのではだめだ、100の選手でも「1500に出ろ」といわれたら、「出ます」といって18分そこそこで泳ぐような気持でなければならんといっているんです。はじめはいやがりました。何とか自分の好きな200、400といっていました。そういうふうにして、選手自身の気持を調整することも、一つの練習方法だと思います。

北村 結局、本人の体とか、性格を考えて決めて行かなければならんのですね。

石井はずいぶんフォームが変わりましたね。

小柳 あれは変わった。

北村 村上さんから聞くとはっきり分るのですが、村上さんの考え方としては、ああいうふうな体があまりがらんじょうではない、腕に力のないものは、曲げた方がいいという考え方でしょう。もう一つは、インターバルでたたき上げると、ピッチが上って来る。その結果、ああいうことになったと思うのです。やはり体のがらんじょうでないことが影響しているのでしょうか、腕は曲げたけれども、肩が非常にぎこちないですね。

太田 ピッチを上げるために、ヒジがなせている。もちろんピッチは上げなくちやいかんけれども、ああいう体力のない人はないので、やはり引いてしまって全然かかないんじや記録が出ない。短い距離を早くすばとかく。もちろん、その前の腕の練習にもなるが、やはり泳法としても、疲れないように短い距離を確実にかいてしまうということをやらないと、ピッチが上っても、あれじやそう伸びないんじやないか。

北村 去年の後半悪かったのに、よく盛返したね。その点、本人の努力、村上さんの指導があったと思うのですが、なお欲をいえば、打っているピッチに気を取られて、かくべき手をかかないという印象を受ける。しかしよく努力しました。ぼくはえらいと思います。

太田 今度、自分のベストを出さなかったのはあれだけだった、古賀と長谷は除いて。ところが、それを自分で意識して、旅行している間に何回か話なんかして、名古屋ではとうとう800で出した。それで全員ベストを出したことになりました。その時の泳ぎは、ピッチはそう上らなかつたけれども、やはり、かいていました。

北村 藤本君は今年成績よかったですね。去年のインターカッジの藤本の泳ぎを見て、大分われわれは落胆したこともあったのですが、山中を除けば伸びとしては一番よかったんじやないですか。

南 6月27日の日中戦で何か考えたんじやないかと思うんです。というのは、あの時の記録が400で石井が36秒、藤本が39秒近かった。400のレースでは、石井にく

っついて行けば最後に勝てるという、後半に非常に自信を持っていた。ところが350で完全に振切られて水をあげられて負けたわけです。それで、後半だけじゃ勝てないということで、今年インドアから大分ついて来たスプリントを利用して、前半から積極的なレース運びというか、そういうものを覚えたのではないか。大阪大会の200は結果的には2分4秒9で、彼のベストで非常によかつたのですが、そのラップが、前半2秒という、考えられないようなラップで、その点まだまだ飛出しが足りないんじやないか。それから泳ぎそのものでは、400、800になると、頭の前に手を持って来て、非常に長く浮き取っていた。むだな力というか、むだな遊びがあった。それがなくなって、ややキャッチ・ポイントが深くなって、すぐかくようになったということが、よくなつた原因じやないかと思うのです。

北村 浮きを取らないということは、腕が強くなったということもありましようね。

南 腕だけではなくて、足も全体に力が加わつた。

太田 足とのバランスでは、まだ腕が弱いんじやないかな。

太田 それは確かだね。だから、あの泳ぎのかっこうだけ見ていると、よく2分4秒9とれるというような気がするが、やはり南君のいうように、浮きを取っている遊びが少なくなったからでしょうね。それだけ早く泳げると同時に、腕の負担が軽くなる。余分に使っていたものがなくなったので、それだけ腕の力をかく方に使えるということじやないですか。

古橋 全般的に見ていると、前には大体足の方にポイントがあり過ぎたが、今度は手の方にポイントが来た人が多い。

山中でも、前から比べれば、足で押して行くというよりも、手の力の強さが目立って来たように思う。

赤樫 福井なんかも、今の泳ぎそのものもいいとはいえない切れないが、去年に比べればよくなった。

北村 福井はベスト・レコードを出しましたか。

赤樫 ずっと上回つた。

北村 800リレーの世界新記録にしても200のレースにしても、藤本、福井の力戦が光りましたね。ただ、福井がオール・ジャパンの予選でコース・ロープにひっかかりましたね。あれは、わたし、福井としては反省しなければいかんと思う。

太田 あれをレースでやられてはいけないと思って、何回となく注意した。

北村 ひっかつた時の様子を見ると、泳ぎが悪くて寄って行くというやり方ではなくて、何か精神的にギクギクして、ロープの下にもぐり込んだようなかっこうだ

ったね(笑)。

南 右でしたね。

古橋 あわてたんでしょう。それから離れる時がおかしかったね。

北村 徐々に寄って行くというでもなかった。あれは泳ぎに欠陥があるんじゃないか。油断というか、ちよつと気持ちにすきができる、どっちかの手が……。

太田 福井には直接いわなかったが、それがあるのでいつも壁のところを泳がした。壁じやもぐってこっちへ逃げるわけに行かないから……(笑)あれから全然なかったですね。

古橋 反省したんだね。

太田 あれをレースにやられたらたまらない。

北村 そういう点からいうと、福井のかきにはむりがありますね。

太田 やはり、キャッチしてからかき出すまでの流れが他の人よりも大きい。

赤樫 昨年のオール・ジャパンの特はひどかった。しかも流れが左右相当違っていた。あの頃にくらべるとうんとよくなったと思うのですが。

北村 全般的にシャープになったね。

その次は、ベテランは別にして、石原君。去年から室内選手権までの進境というのはトップだろうな。その割にはオール・ジャパンでは期待まで行かなかった。一つは彼は試合に弱いと思うんだが、日米対抗ではよくなったね。

太田 55秒で泳いだからね。

古橋 飛込んだあと、えらいバタバタやるね。ターンしたとき、力が入り過ぎる。

赤樫 最初のツー・ストロークがね。ちよつと浮き上る時に問題だと思うのですよ。短距離で最も重要なところかね。

北村 古賀にしても、ポルトガルに行った横地にして腕を伸ばして入れる短距離から、石原のように、腕を曲げるピッチ泳法になって来たような感じがするのですが……。

太田 石原の泳ぎを見ていると、田口さんとか、正憲さんのころの手の入れぐあいに大分似て来たような感じがするが、結果的にはああいう泳ぎの方がいいんじゃないですか。

北村 正憲はちよつと違うな。体をちよつとひねつた

古橋 もっと肩を入れてたね。

小柳 短距離は腕じゃないですか。日本人の腕が弱いということが、短距離に弱い原因です。

古橋 肩を使って泳いでいる選手は、腕の弱いのを肩で代わるとかという気持ちがある。

北村 早稲田にいた宮本君は肩を入れて泳いでいたね。それから遊佐正憲、新井さんもそうだった。ただ、去年のオーストラリアの短距離の選手を見た感じでは、肩をひねるとか何とかいうことでは、55秒合に追付かぬじゃないかという気持ちがある。逆にいえば、そういう昔の肩を入れるひねった泳ぎよりも、石原君のような泳ぎで行った方がいいんじゃないかと私は思うが……。

古橋 練習のときは、デビットもやはり肩をひねっていたね。

赤樫 ひねるというより、肩からかいている。

古橋 わざと肩を入れて腕を強くしているんじゃないか。試合になると、そうじゃないか。

太田 それにしても、腕が強くなければできない。

小柳 結局、腕ということになるね。日本の短距離は腕がよくなればいいが、いかにしても豪州の選手に比べて体力がないね。

北村 見上が残っているが、今の短距離では。古賀を外して考えると、石原、見上、十河、この3人でしょうが、いまいったように体がないね。

赤樫 見上も肩が固い。十河もそうじゃないか。

北村 しかし、十河は去年に比べてよくなった。

小柳 十河は腕が弱いから、足をしばって手ばかりやらした。腕が強くなって、58秒くらいはそれだけで行ける。

赤樫 これがスプリンターだといはれるには石原にはまだ何か一つ足りないものがある。その一つは短距離泳者として55秒合を出すには絶対必須の条件ですが……。何とってよいか言葉の表現がむづかしいが、只力だけでもなく又精神力とかいうものでもなく100m泳者のコツというのかその……鋭さを自分自身で完全にマスターしなければならぬのじゃないか。

北村 背泳では、長谷がよくやりましたね。

赤樫 富田もよかった。

北村 去年までは、そっくり返ったような泳ぎだったね。

古橋 しかし、ピッチが上らんね。

赤樫 あれでピッチ上げようとしても無理ではなからるか。200m向きの泳ぎで留まっては困りますが……。

北村 二宮と日大の渡辺。

赤樫 国清と石橋が7秒7出していたね。

小柳 九州対抗のときよかった。ものすごく弾力性のある泳ぎで、あんまりピンピン飛び上るね。あれをどうかしたら、もう少し出るんじゃないか。

菊池 新記録を出した高嶺。

赤樫 バックはたしかに、国清にしても、高嶺にしても、石橋にしても堅実に伸びていますね。しかし今や1

分1秒から2秒の時代ですからね。

小柳 ちょっと体が小さい。

北村 高校野球みると、いかついなあ。ああいう選手を入れたら強くなるぜ。みんな六尺近いからね(笑)。来年は高校三年生も入り乱れて伸びて行く、いうことではなければ困りますね。

平泳はどうです。問題なく日本が勝ったし、記録も上りましたね。

赤樫 収獲があったね。

太田 ぼくは増田にいったのですが、東大の生産研究所で研究してもらった結果、ギャザコールと、増田の泳ぎを比べますと、プレストですから、完全じゃないけれども、止る時期があるわけですが、その間隔が、日本の選手が非常に長いそうです。向うの連中は、足をけってぐっと伸ばして行って、また止るような瞬間、デッド・ポイントがあるのだけれども、そこからすぐ上って行くそうです。ところが、日本の選手はそうじゃないんだそうです。それを増田にいったら、二、三日考えて泳いでいたけれども、それから上下動が全然なくなって、レースにも勝った。

北村 わたしが見たときのあれでは、ギャザコールはスピードがぐんと止る瞬間がある。日本の選手はそれがない。面白いのは、われわれはスムーズに進まなければいかん、こう考えた。ギャザコールは瞬間止る。日本の選手の方がむしろスムーズである。これを私流に解釈すると、上下動でもって、止る瞬間をなしに行っているのじゃないか。

太田 私の考えでは、向うの選手は、手を胸元に持って来てすぐ出す。日本の選手は胸のところで呼吸しているので、胸で止っている。この間は足でけっているから完全に止る瞬間はないと思うが、この間が長い。

北村 頭の上げ方が長いし、胸の前で手を止めている時間が長い。

赤樫 平泳は他の種目と違って一番大きな推進力を生む手足の動作がそのタイミングを誤ると、一番大きな抵抗となってせっかく出たスピードを減殺してしまいますからね。すべての動作が水中で行はれるし、又ける為の足のひきつけ、次にかくための手のしまい方がうまくいかないと泳ぎにずい分無駄を生じる。何といっても足の推進力が一番大きい、それを100%生かすのは手の動作、呼吸動作だと思うのです。"手を かけ 出せ"でなくかきながら前に出せがコツではないのですか。

太田 グラブを増田に見せてやったら、胸のところからすぐ前に出して、前でのびをとるようにしましょう、ということをやったのですが……。

北村 小池さんの泳ぎは、おさめてすぐ出したような

感じがしましたね。

鶴田 あれは手のまとめ方ですよ。まとめ方がへただと止る。スピードが止ってしまふ。まとめ方をうまくやらなければいかん。頭を長く上げていると、それだけ胸がそりますから、抵抗も多い。うしろまでかくと時間が長くなる。かいてしまつてからまとめると時間がかかつて次のストロークの間にゆるみができる上る。

太田 とにかく早く出させるようにやったのです。

小柳 早稲田の大崎は胸のところで止ってしまう。

鶴田 まとめた時、休むつもりであるからいけない。出しながら休むようにしなければいけない。

太田 大崎にもそれをいった。足のキックが平らにけられない。どうしても胸の所で待っていないと、カカトが上ってヒザが落ちる。

小柳 44秒くらいで泳いでおったが、へばっていた。泳ぎはいいが足がだめだ。けた足はまっすぐではなく上に行っていた。

鶴田 ひざを横に開いて、足が内側に向いている。

あれは足が上に向いている。それからけるわけなんです。

太田 それが下にけってしまう。女の子によくあるが……。

小柳 今年、大崎くらい練習をやっていないものはない。室内のときは練習を3分の1休んでいる。まん中の早慶戦の前には1週間くらい休んでいる。オール・ジャパンの合宿の時は、試験があって遅れて来た。それで41秒5で行ったのだから、まあまあいいのじゃないかと思っている。

北村 われわれからみれば、増田にしても、木村にしても、潜水泳法の時からの選手で、二人とも大学の四年生でしょう。やはり期待するのは大崎だから、練習の割にはよかったということでは、承服できないな。(笑)

小柳 病気さしたことは申訳ないと思います。

太田 プレストはある程度泳ぎがよくなれば、強くなるんじゃないですか。

鶴田 平泳は世界的に停滞しておったのじゃないか。45秒というのは、ずいぶん前の記録ですからね。(笑)

小柳 増田が40秒切ったのは大きな収獲ですね。

北村 最後にバタフライ。那須が自信を持ったということ、開田がメドレーでがんばったね。今でも目の前に浮かぶ。残念なことには、せっかく石本があそこまで行って、世界でまっ先に1分1秒を切り60秒をだれが切るかという時に、とうとうアメリカに取られてしまった。日本の選手は1分2秒ですか。

赤樫 開田が1秒4でした。

北村 1秒まだ切れてないんだな。日本はバタフライ

については、後ずさりしたということです。オリンピックは200でしょう。

赤橋 200はよくなった。那須もいい泳ぎだ。

北村 バタフライのサイド・ブレッシングはこの前からの宿題でもあったのですが、これには一利があるので、なかなか決めにくいと思うが……。アメリカの選手は全部、前向きの息でしたね。

赤橋 前向きで、しかも呼吸がそう無理をしない、楽な位置で行っている。

北村 注意しなければいけないのは、開田でも、那須でも、肩の線がちよっと傾いて来る。だから、サイド・ブレッシングについては、なるほどなめらかに行く、つまり上下動が少なくなるという利点があるけれども、やはり斜めになったのじや……。

古橋 ときどき反対向きをやったらどうでしょうか、直すために。

鶴田 あれをやると、大分楽になるね。顔を上げると、波の山の方で呼吸しなくちゃならぬ。だからよけい顔を上げなくちゃならない。横でやれば、波の谷の所で呼吸ができるから大分得だ。抵抗も非常に少なくなる。

太田 ただ、平らになるということが、果して手をかくのに十分かけるかということは疑問だと思う。

古橋 足だって、けりが少なくなる。

北村 抵抗の面と推進力の面との兼合だが、腕をかくには、前へ上げた方が力が入るじやないかということですね。

南 サイド・ブレッシングを見ていて大分苦しんだわけですけども、サイドにして抵抗を少なくするという利と、前ブレッシングのまま、体全体、上半身も使ったのピートというか、足のバネ、その利と計算してみると、足のバネを強くした方が記録的には伸びるんじゃないかという感じを持っているのですが、この間来たトロイ選手が、"サイド・ブレッシングにしたい"と聞いていたことが非常に面白かったのでですけども、それでは"どうしてサイド・ブレッシングにしたいか"と聞きましたら、"ピッチが上る"そういう答えだったので。たしかに、開田の場合、よく見ていると、ちよっとウエートがつき過ぎたというのも十分動かない原因の一つだと思うのですが、腰のある一点をとってみると、前ブレッシングの時の方が、一点の動きというか、上下動が大きかった。今の場合ですと、上半身はずっと固定されている。ただ、足先だけ打っているという感じが非常に強い。その点、サイド・ブレッシングの場合は相当考えなければいけないんじゃないか。普通のサイド・ブレッシングはやや前向きのサイドですが、開田の場合、完全に寝てブレッシングしているということで、個人差が

相当出て来るのじゃないかと思う。

菊池 この間、関東大会に行って来たが、ほとんどがサイド・ブレッシングです。日本のトップ・レベルにあるものが、サイド・ブレッシングだということになって、今後、日本の一番上の方に行くためには、サイドをやらなくちゃダメということになって来ると問題だと思う。ですから、競泳委員会としてもある程度の結論を出して——もちろん、むりやりにまっ直に、むりやりに横に寝せる必要はないと思うが、若い連中はトップ・レベルを見ますからね。

鶴田 そうなっていますよ。みんなまねますからね。バタフライは横を向いてかまわんというが、正しいことからいうならば、やはり前へ上げて、正しくやった方がいいのじゃないか。そういうことをなぜ水連でやらないか、疑問だ。どこでやっても反則にならないからかまわんということで、ああいうことになってしまった。

北村 菊池さんの問題は、競泳委員会としても研究テーマです。南君の話は非常に参考になる。つまり、サイド・ブレッシングで抵抗をなくすという利、前で呼吸して胸から全身を使ってキックするということの利、それがいまいたように個人差がそこにあるので、南君としては結論が出ない。

南 前ブレッシングで上下動が非常に激しい選手に、上下動を取る過程として、サイド・ブレッシングをやらせるということにしたらいんじゃないかということをお願いしていた人もある。

小柳 吉無田の場合、ぼくは前ブレッシングがいいという自分なりの確信を持ってやりました。早慶戦では28秒か9で惨敗しましたが、この間やっと23秒まで行った。彼が足を打つ場合、必要以上に腰を使ってしまう。上下動のピッチングが激しい。手をかくとき、前へ持って行って、浮きをとってかいているようなことをやっていた。ですから、腰から下のうねりを少なくして、足を下にグッと打つということ、もう一つは腕の突込みを肩の幅に入れて、そこからすぐに体に平行してグッとかくようにした。そうしたらピッチは上るようになった。従来、彼は手先をすばめて、さらに浮きをとって、かく位置で流して、そこからかいておった——という違いでしょうね。

北村 アメリカの選手は、入れたときからすぐかいていたね。

小柳 アメリカの選手の足の打ち方は、あまり腰を使っていない。ほとんど腕に頼っている。しかし、ある程度、足の力を入れて、そうして腕に持って行く、そういう段階を踏まないと、日本はまだ腕が弱いから、そこまで持っていけない。

太田 那須が200やるのに前半の100が1分7, 8秒でしょう。トロイなんか4秒だから、とても前へ行けない。何とか前半を、腰くらいでもついて行けるようにしなければいかんというので、ぼくも前プレッシングの一応提唱者だけれども、那須にもときどき前に向いてやりました。それがためかどうか知らぬけれども、大体、100を4, 5秒で泳げるようになった。100一本でやると2秒くらいになったでしょう。やはりぼくの感じとしては、サイド・プレッシングをやると、スプリントがなくなってしまうのじゃないかと思う。那須の場合、初めからうねりが非常に多い選手だったが、横を向いても、割合にベツタリじないで、腰をうまく使っている。

小柳 うねりが少なくなると100が強くなる。うねりが多い場合はとてもだめですね。ましてや、手を深く突込んで遊んでいるバタフライでは、よく行って5秒程度です。

太田 補足になるが、今度の日米でも楽勝するのじゃないかというふうな感じを持っている人がいたと思いますが、また、今度の日米で勝つために、割合安易な考えを持っている人が多くなるんじゃないかと思うのですが、やはりぎょう幸にして対抗戦には勝ったけれども、もう少し世界の記録の面から考えて、相当腰を入れてやらないと惨めな結果になるんじゃないか、ということをもみんなが意識しなければいけないと思う。

北村 記録的に見ても、オリンピックで旗が上るのは1, 2, 3位でしょう。山中ぐらいなもんだらう。

太田 それにしても、コンラツもいますからね。

北村 でも3位まででしょう。日米に勝ったとはいえ、オリンピックということになると、山中を除いては今のところ期待できないという現実なんですから、楽観している人はおらないと思うけれども……。

古橋 もう少し二陣の人が出て来てくれるといいですね。

鶴田 ぼくの望みたいことは、もう少し精神的な面を強化すべき点がある。というのは、たとえば山中君は400だったら大丈夫という自信を持っただろうが、1500にはいくらか疑問を持っているのじゃないか。おそらく1500もやってくれるだろうけれども、1500にも、400ぐらいの意気ごみで、やればやれるんだという気持をもってやらせる。記録という面もあるが、日本民族は必ずしも大きな外人に負けるもんじゃない。日本民族の優秀性をもっと築き上げてもらうためには、いまま少し、より精進していただきたいと思います。

北村 その点、さきほど太田さんからもお話があったが、今度のチームを監督した体験からいうと、非常にうまく行ったそうです。それは結局、個々人の精進もよか

ったけれども、全体のレベルから見れば、若い人がだんだんよくなっている。それも民族とか、国家とかいう問題もあるけれども、個人の自覚というか、一つの記録を破るということも、人間の一つの理想だと思う。そういう自信というか、自覚を、鶴田さんもおつしやる通り、まだまだ高めて行く必要はありますね。

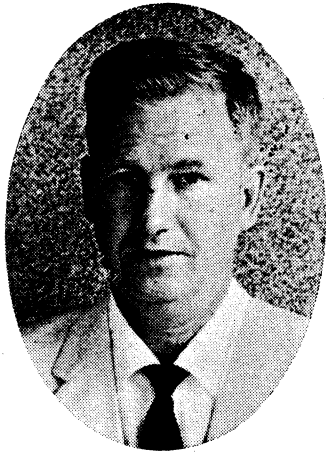
それではこの辺で終りたいと思います。

両 国 チ ー ム 日 程

月日 曜	米 国 チ ー ム	日 本 チ ー ム
7/10 金	全米選手権 (ロス, アルトス)	日本選手権 (神宮)
11 土	〃	〃
12 日	〃	〃
13 月		選手団結成 宿舎 (山の上ホテル)
14 火	ロスアンゼルス出発	〃
15 水		〃
16 木	東京到着 宿舎 (品川プリンスホテル)	〃
17 金	練習	〃
18 土	〃	〃
19 日	〃	〃
20 月		
21 火	日米対抗 東京大会 (神宮プール)	
22 水		
23 木	日光観光 金谷ホテル	休 養
24 金	14.50羽田発 (JAL) (新大阪ホテル)	16.45 大阪着 (山中荘)
25 土	日米対抗 大阪大会 (大阪プール)	
26 日		
27 月	京都, 奈良見物 京都泊	休 養
28 火	8.30 京都発 (かもめ) (かめふく)	14.09 広島着 (かめふく)
29 水	日米交歓 呉大会 (第二河プール) (新広ホテル) (松政旅館)	
30 木	正午頃 岩国発 (JALチャーター機) 午後3時頃 小牧着 (丸栄ホテル)	(栄栄ホテル)
31 金	日米交歓 名古屋大会 (振甫プール)	
8/ 1 土	11.37 名古屋発 (つばめ号)	現地解散
	16.30 東京着 (品川プリンス)	
2 日	22.30 東京発 (JAL) 帰国	

選手紹介

米国選手

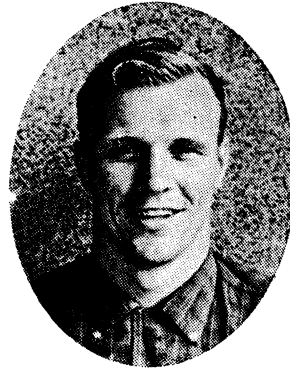


ウイリス・ケーシー
Willis Casey

監督 Manager-Coach

ノースカロライナ
州立大学コーチ

Coach at North
Carolina State
College



ジョージ・ブリーン
George T. Breen

(主 将) 25才

自由形 Free Style

教 職 インディアナ

ポリス体協所属

200m 2分07秒3

400m 4分32秒5

800m 9分19秒0

1500m 17分52秒9

身長180cm 体重84kg



ドン・ハーパー
Don Harper

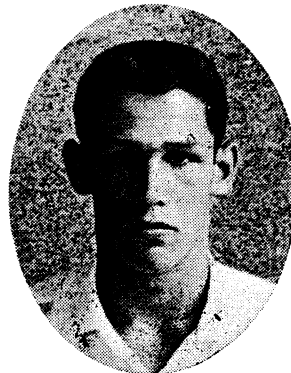
27才

飛 込 Diver

オハイオ州立大学出

同校体育教員

身長165cm 体重61kg



ジョセフ・アルカイア
Joseph R. Alkire

18才

自由形 Free Style

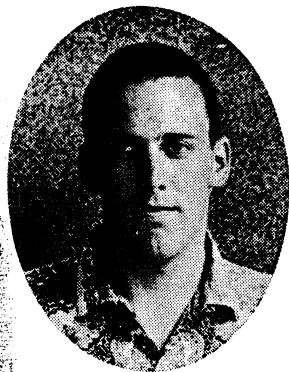
サンディエゴ高校生

サウスウェスト

水泳クラブ所属

100m 56秒5

身長180cm 体重84kg



ユージン・レンズ
Eugene C. Lenz

23才

自由形 Free Style

カリフォルニア州立大学

生(建築)無所属

200m 2分08秒1

400m 4分33秒4

1500m 18分30秒8

身長180cm 体重80kg



フェリックス・
ファーレル

Felix J. Farrell

23才

自由形 Free Style

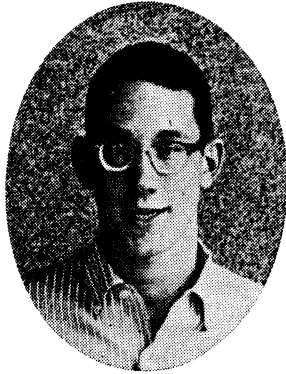
海軍少尉

エール予備将校訓練所

100m 56秒9

200m 2分06秒9

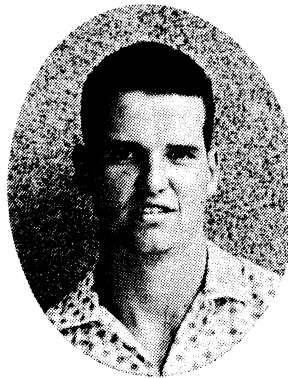
身長180cm 体重70kg



アラン・リマーズ
Alan B. Somers

19才

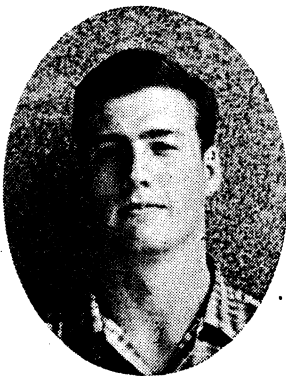
自由形 Free Style
インディアナ大学生
インディアナポリス体協
所属
200m 2分08秒0
400m 4分30秒6
1500m 17分51秒3
身長183cm 体重75kg



ミッシェル・トロイ
Michael F. Troy

19才

バタフライ Butterfly
インディアナ大学生
インディアナポリス体協
所属
100m 1分01秒4
200m 2分16秒4
身長183cm 体重79kg



エルトン・フォレット
Elton H. Follett

20才

自由形 Free Style
エール大学学生
100m 57秒5
身長188cm 体重86kg



ロバート・ベネット
Robert Bennett

17才

背泳 Back-stroke
バーミンガム高校生
クリス・クリテンソン
水泳クラブ所属
100m 1分04秒2
200m 2分26秒1
身長180cm 体重75kg



フランク・レガッキ
Frank Legacki

20才

バタフライ Butterfly
ミシガン大学生
デトロイト体協所属
100m 1分02秒2
身長180cm 体重79kg



フランク・マッキニー
Frank E. Mckinney

21才

背泳 Back-stroke
インディアナ大学生
インディアナポリス体協
所属
100m 1分03秒6
200m 2分17秒9
身長181cm 体重75kg



チャールス・ビティック

Charles G. Bittick

20才

背 泳 Back-stroke
サウス・カリフォルニア
大学生

ロサンゼルス体協所属

100m 1分05秒6

200m 2分23秒1

身長184cm 体重88kg



フレデリック・マンシュ

Frederick J. Munsch

20才

平 泳 Breast-stroke
ロング・アイランド大学生
グランド街少年クラブ所属

100m 1分15秒5

身長183cm 体重88kg



ウイリアム・バートン

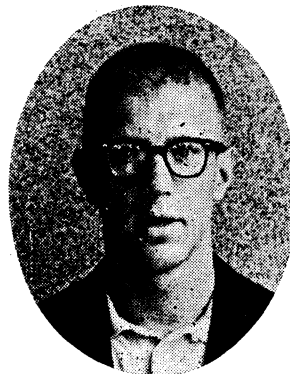
William R. Barton Jr.

21才

バタフライ Butterfly
インディアナ大学生
インディアナポリス体協
所 属

200m 2分20秒8

身長175cm 体重70kg



ロナルド・クラーク

Ronald L. Clark

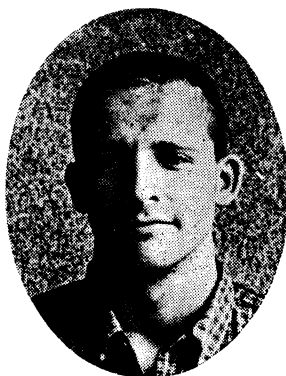
20才

平 泳 Breast-stroke

ミシガン州立大学生
デトロイト体協所属

200m 2分44秒7

身長185cm 体重85kg



ランス・ラーソン

Lance M. Larson

20才

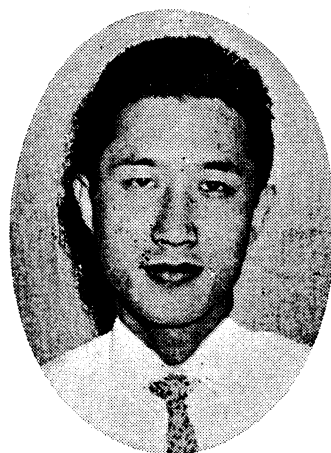
自 由 形 Free Style
バタフライ Butterfly
サウス・カリフォルニア
大学生

ロサンゼルス体協所属

100m (自) 56秒4

100m (バタ) 59秒6

身長183cm 体重79kg



谷 内 洋 一 郎

Yoichiro Taniuchi

23才

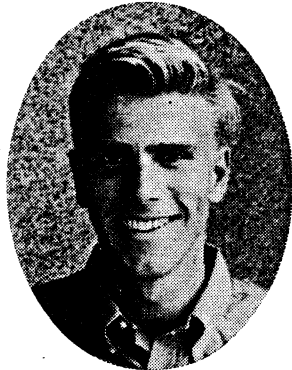
マネージャー

Manager

立教大学出身

日本通運勤務

特別招待選手



マレー・ローズ

Murray Rose

21才

自由形 Free Style

サウスカリフォルニア州立大学生

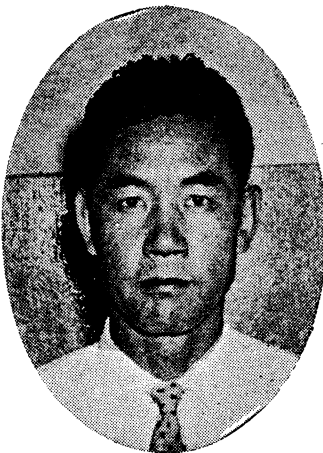
同大学所属

400m 4分23秒5

1500m 17分46秒7

身長 182cm 体重 83kg

日本選手



太田光雄

Mitsuō Ōta

監督 37才

Head Coach

静岡県出身

立教大学出

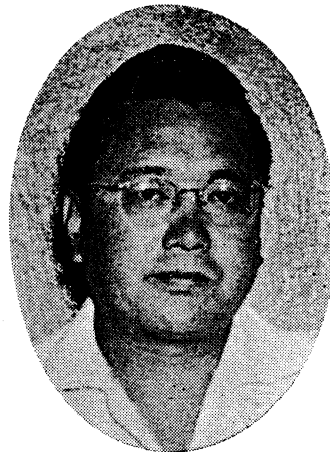
学生部会名誉主事

常務理事

メルボルン・オリンピ

ック・コーチ

187cm 75kg



柴原恒雄

Tsuneo Shibahara

飛込コーチ 42才

Diving Coach

石川県出身

日本大学出

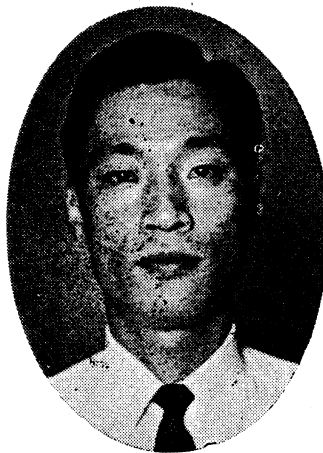
飛込委員会委員長

常務理事

ベルリン・オリンピ

ック 第5位

167cm 87kg



志村文一郎

Bunichiro Shimura

マネージャー 31才

Manager

東京都出身

東京商科大学出

常務理事

172cm 60kg



島田博史

Hiroshi Shimada

副マネージャー 31才

Sub-Manager

東京都出身

中央大学出

東京都水泳協会理事

164cm 56kg



長谷景治

Keiji Hase

(主将) 24才

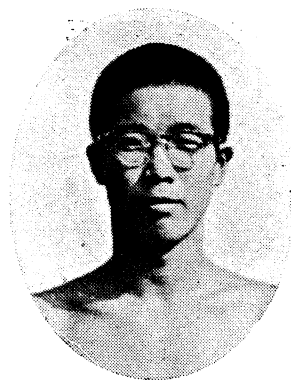
大阪府出身
早稲田大学出
倉敷レーヨン勤務

背泳

100m 1分04秒0

200m 2分23秒3

172cm 66kg



藤本達夫

Tatsuo Fujimoto

兵庫県出身 19才

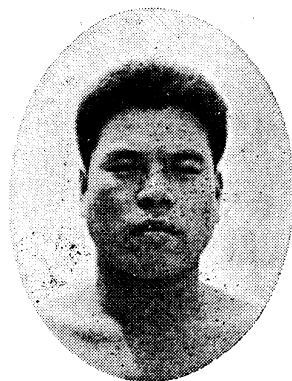
中央大学学生

自由形

200m 2分06秒4

400m 4分34秒6

174cm 62kg



古賀学

Manabu Koga

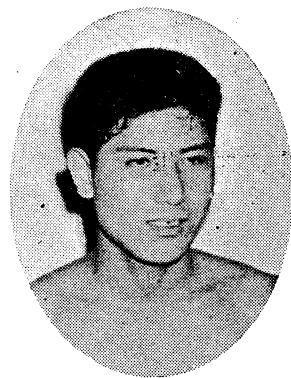
福岡県出身 24才

早稲田大学出
東京トヨペット勤務

自由形

100m 56秒6

172cm 78.5kg



福井誠

Makoto Fukui

島根県出身 19才

浜田高校出

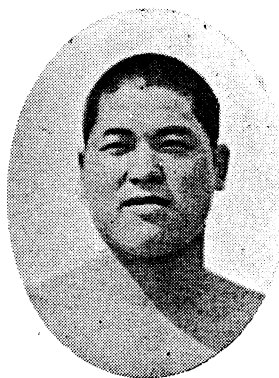
八幡製鉄勤務

自由形

200m 2分06秒2

400m 4分31秒0

168cm 70.5kg



石原勝記

Katsuki Ishihara

鹿児島県出身 20才

日本大学学生

自由形

100m 57秒1

165cm 64kg



山中毅

Tsuyoshi Yamanaka

石川県出身 20才

早稲田大学学生

自由形

200m 2分03秒0

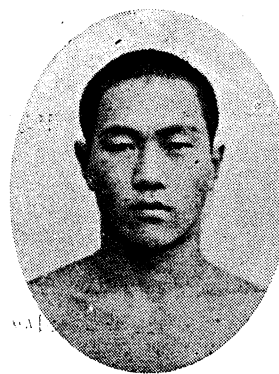
(世界記録)

400m 4分23秒9

800m 9分19秒7

1500m 17分51秒5

169cm 74kg



見上勝紀

Katsunori Kenjo

広島県出身 18才

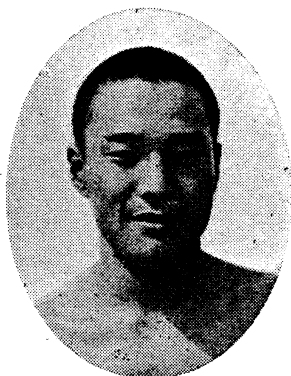
中央大学学生

自由形

100m 58秒0

200m 2分09秒8

167cm 69kg



石井宏

Hiroshi Ishii

東京都出身 19才

日本大学学生

自由形

800m 9分38秒9

1500m 18分27秒5

168cm 60kg



梅 本 利 三

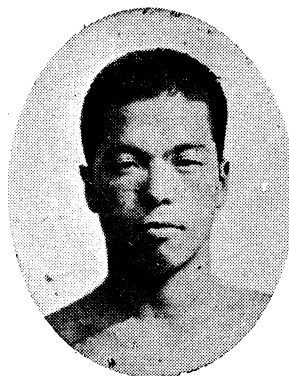
Toshizo Umemoto

奈良県出身 19才

早稲田大学学生

自由形

400m 4分36秒8
800m 9分53秒4
1500m 18分31秒9
173cm 68kg



開 田 幸 一

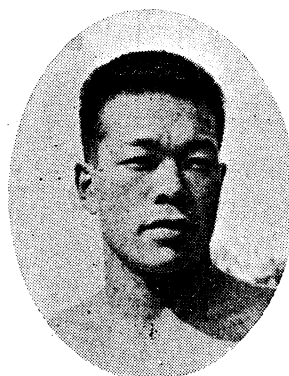
Koichi Hirakida

福岡県出身 21才

中央大学学生

バタフライ

100m 1分01秒6
200m 2分22秒1
169.5cm 68kg



木 村 基

Motoi Kimura

高知県出身 22才

日本大学学生

平 泳

100m 1分13秒5
200m 2分42秒5
168cm 67kg



那 須 純 哉

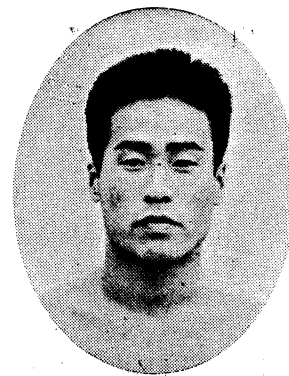
Junya Nasu

島根県出身 20才

立教大学学生

バタフライ

100m 1分03秒3
200m 2分21秒1
166cm 64kg



増 田 勳

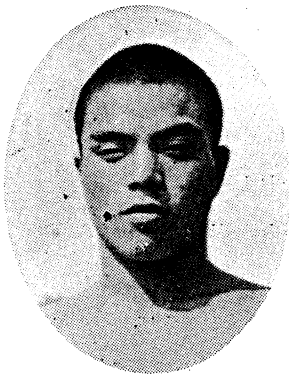
Isao Masuda

東京都出身 21才

日本大学学生

平 泳

100m 1分14秒1
200m 2分41秒8
169cm 68.5kg



富 田 一 雄

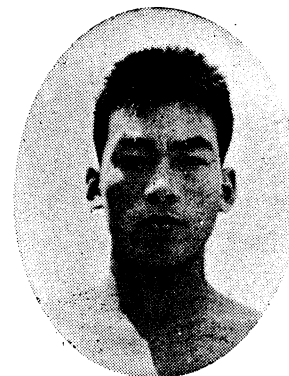
Kazuo Tomita

福岡県出身 20才

日本大学学生

背 泳

100m 1分06秒1
200m 2分22秒3
166cm 62kg



大 崎 剛 彦

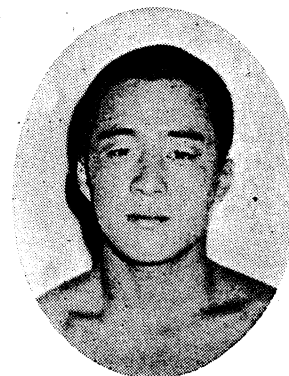
Yoshihiko Ōsaki

石川県出身 21才

早稲田大学学生

平 泳

100m 1分14秒3
200m 2分41秒8
175cm 65kg



金 戸 俊 介

Shunsuke Kaneto

石川県出身 19才

日本大学学生

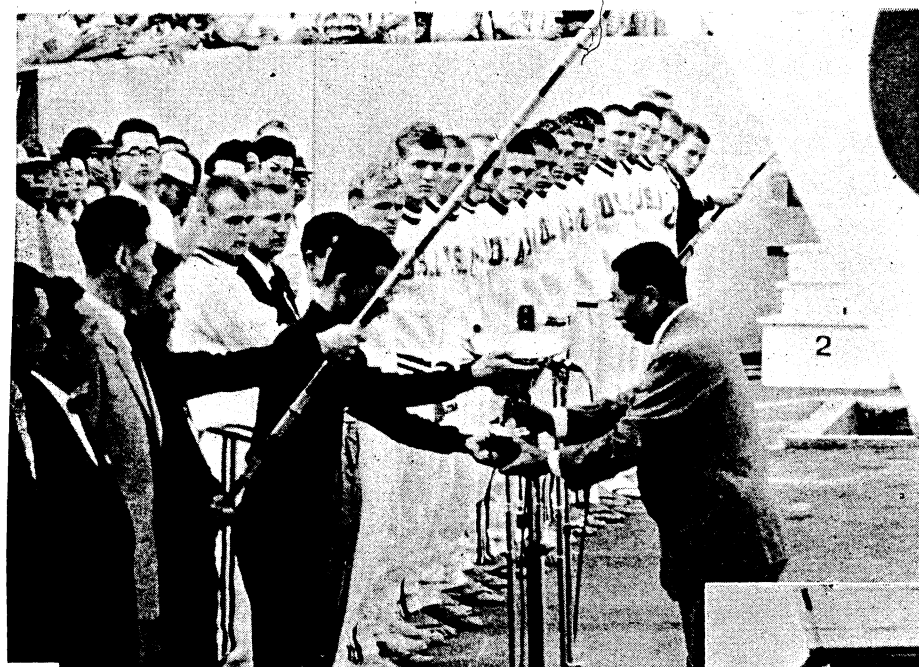
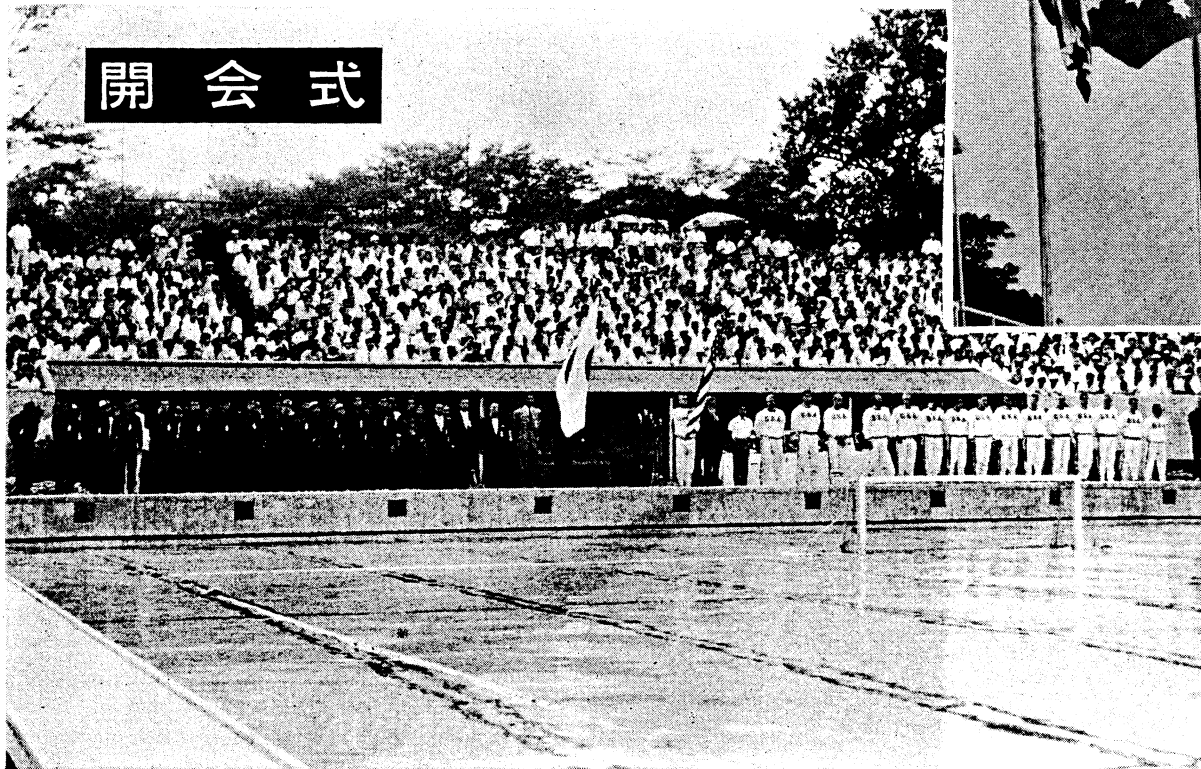
飛 込

本年度飛板飛込優勝
152cm 51kg

第5回日米対抗水上競技大会

7月20・21・22日

神宮プール



↑ 優勝杯返還 日本チーム長谷主将

↓ 両軍主将握手



競 技 経 過

日本チーム監督 太 田 光 雄

第1日 (20日)

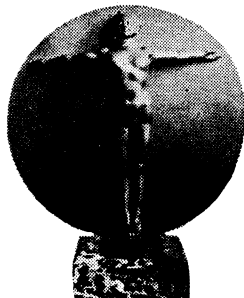
全員絶好の調子である。

飛板飛込 (米 2 日 0)

① ハーパー (米) 155.07点

② 金 戸 (日) 132.11点

現在の力では何ともできない2点のハンデキャップであるが、若い金戸に気を楽しんで飛び、彼の得意の高飛込の自信をうけ付けるよう声援を送ったが結果は予想通り。併し、今迄の日本選手には見られなかったダイナミックな飛び方をして呉れたのは大きな収穫である。



Lt. General
Mr. Robert W. Bnrns
Commander, U.S. Forces,
Japan, & 5th Air Force



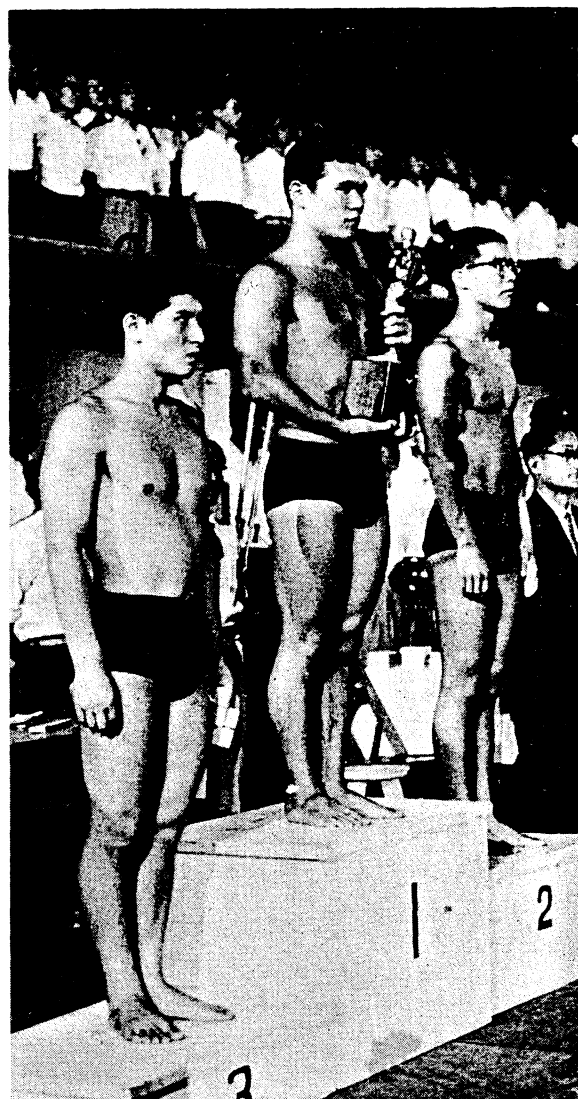
優勝したハーパー選手

200m自由形 (米 0 日 6)

① 山 中 (日)	2:02.3	世界新
	28.5 59.1	1:31.0
② 藤 本 (日)	2:05.5	
	28.6 1:01.0	1:33.6
③ 福 井 (日)	2:05.6	
	29.2 1:01.1	1:33.5
④ ファーレル (米)	2:08.3	
	28.4 1:00.3	1:34.0
⑤ レ ン ズ (米)	2:09.3	
	29.1 1:00.9	1:34.6

50分後に1500mを控えた山中を200mに起用するか否かは、最も頭を悩ました。ローズの来日以来、山中の頭にあったものはローズとの決戦でこのことが余りにも重くのしかかっているようで、見ている可哀想な程であった。この儘の気持でのレースをやったならば、必らず実力を出し切らないで敗れることは容易に想像できた。そこで、200mを泳がせて、幾分でも気持を楽しんでやることができれば、万一1500に敗れても、その後のレースに気持の余裕ができると考え、意を決してエントリーした。

山中には「ローズとの戦いは明年のローマでやることにして、こゝでは日本チームの山中としてレースをする」ように申渡した。山中も重くしい中からやっと解放されたように、喜んで200に出場した。200は楽に泳いでも勝てるから1500mのウォーミング・アップのつもりで泳げと置いていたが、いざレースになると、弦をはなれた矢のように、見事な泳ぎで、あっさり世界新で泳いでしまった。藤本、福井も期待以上によく、遂に2人共5秒で泳ぎ切り、完勝した。このレースはチームの盛り上りをいやが上にも増し、全員が振り立ったことはいふ迄もない。そして山中も自分の現在のスプリントを充分自覚する結果となった。

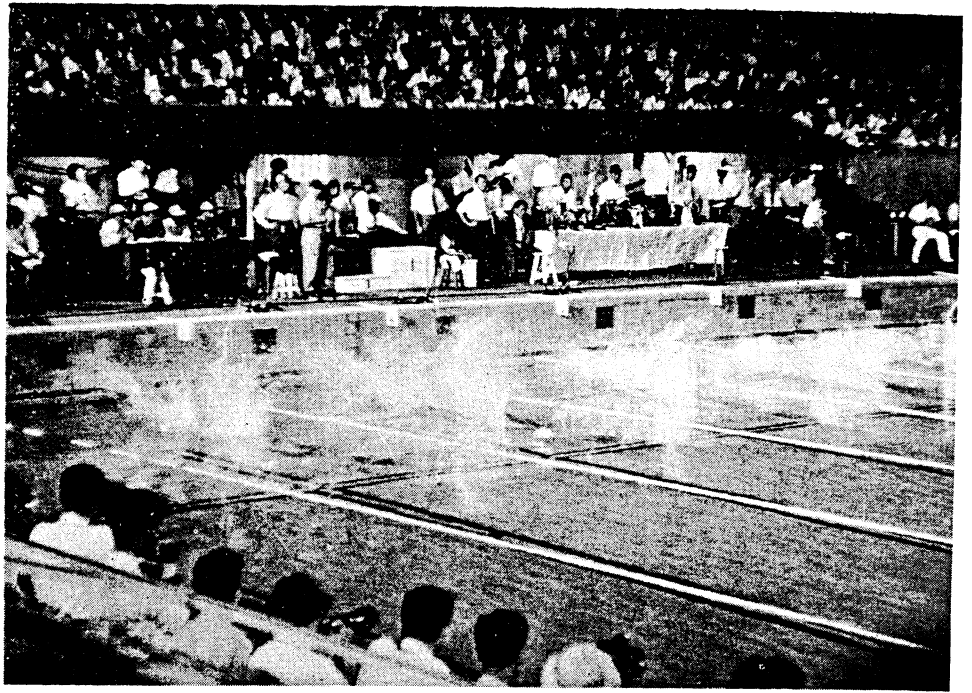


200 m 自由形表彰式

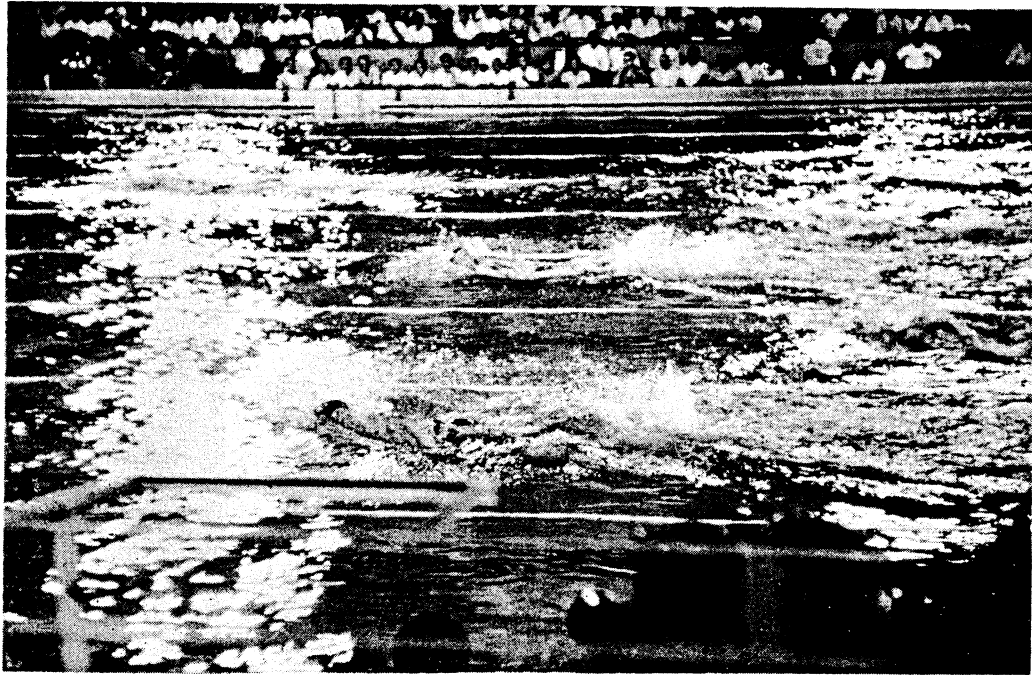
1位 山中, 2位 藤本, 3位 福井



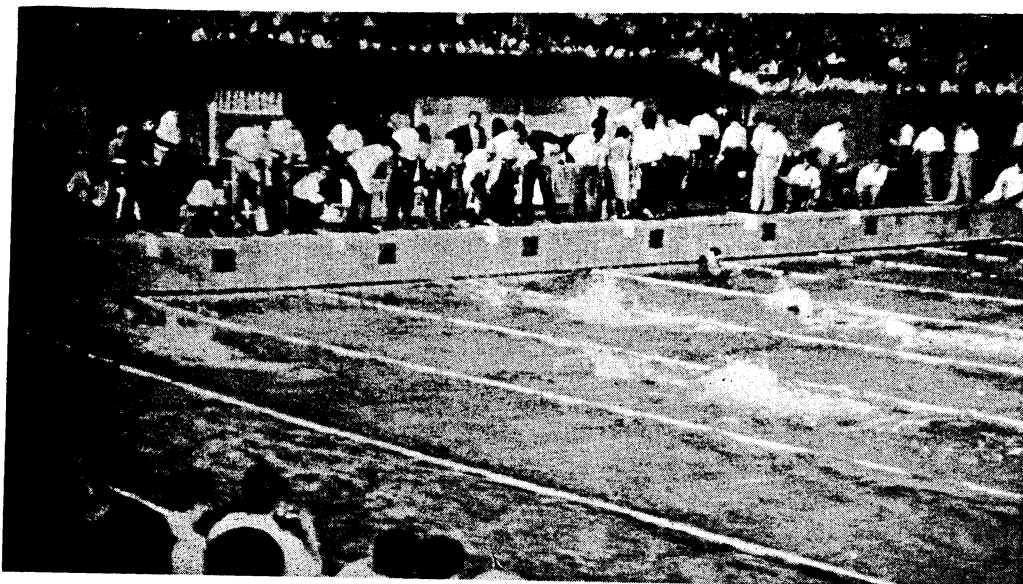
文部大臣
松田竹千代氏寄贈



スタート よく揃う →

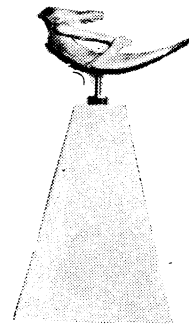
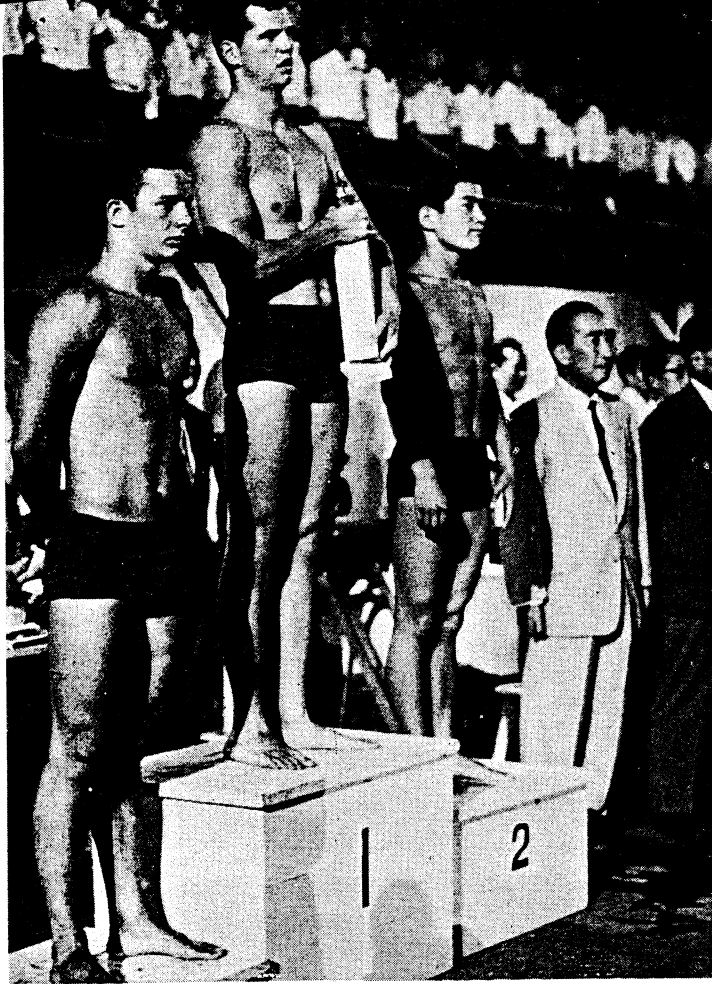


↑ 175m 附近 日本3選手
ード



← ゴール 幸先よし 日本全勝

- 6コース 山中
- 5コース ファーレル
- 4コース 藤本
- 3コース レンズ
- 2コース 福井



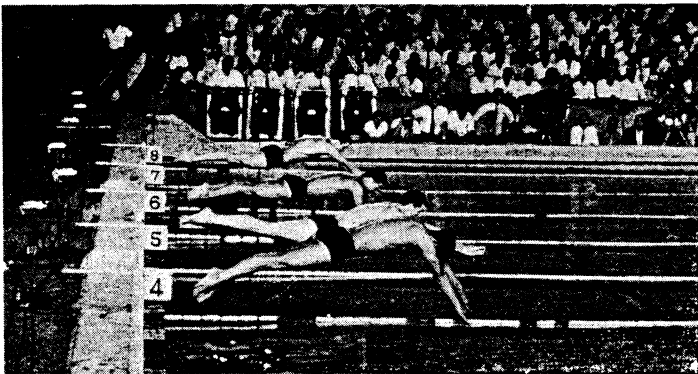
日本体育協会々長代理
竹田恒徳氏寄贈

200mバタフライ (米 4 日 2)

① トロイ (米)	2:17.2 (世界新)
	30.7 1:04.0 1:40.4
② 那須 (日)	2:19.3 (日本新)
	30.7 1:04.8 1:40.4
③ パートン (米)	2:21.5
	31.0 1:04.5 1:42.3
④ 開田 (日)	2:22.1
	30.8 1:05.2 1:42.4

2分16秒4の世界新記録を樹てたトロイを向うに廻して那須がよく善戦し、見事日本新で2着になった。合宿に入ってから那須は調子もよかったが、何としても前半が遅く、1分4秒で入るといふ米選手に大きく水をあけられてしまえば、勝敗はきまってしまうので、前半の研究をさせた。この結果を1分3秒位で泳げるようになったので、100迄一身長位について行けば相当な記録で泳げる見通しがついた。レースは予想通り、前半からよくついて飛び出し、多少つられた形になったが、これが却ってよく、遂に自己の記録を大きく破って米チームの一角を崩し得た。開田も4位になったが、前半の泳ぎ振りから見て100mは何かやれそうな予想ができた。

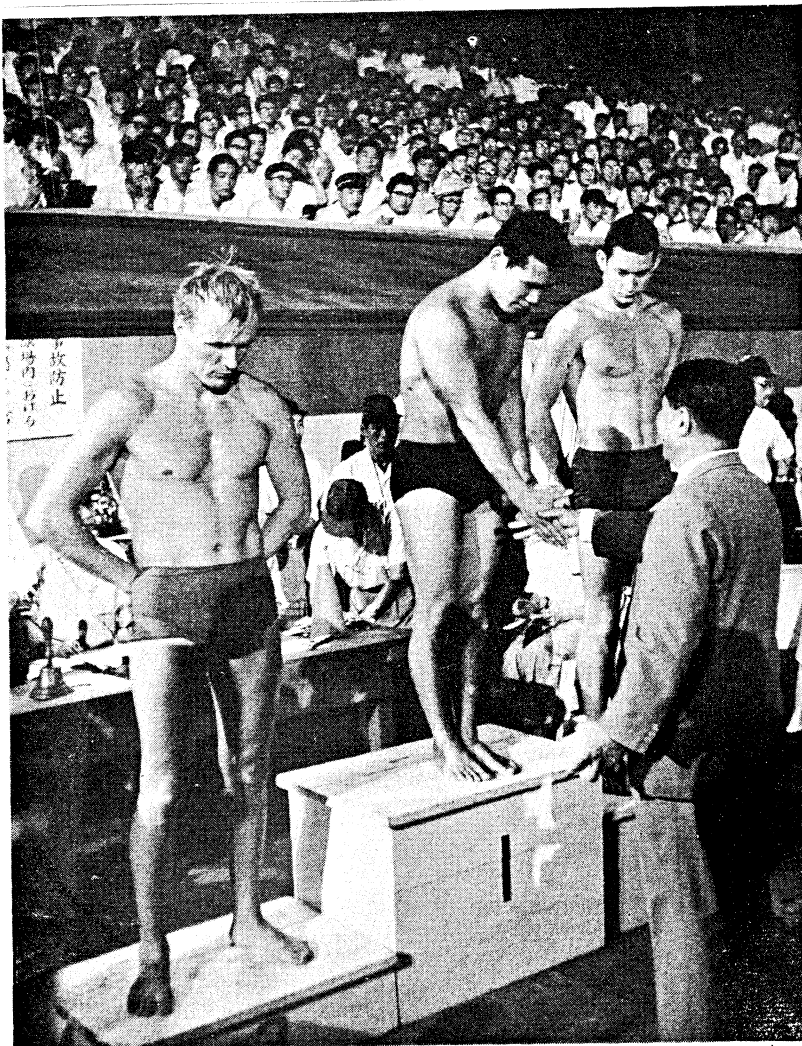
← スタート 3コースより那須、トロイ、開田、パートン



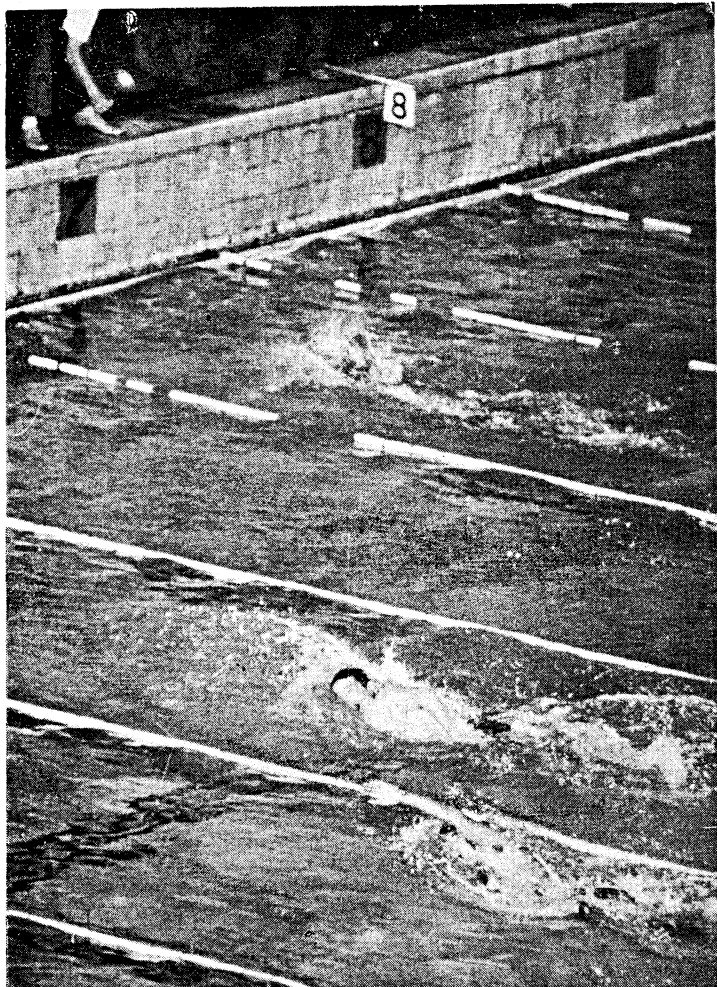
← 75m附近 那須は遅れている



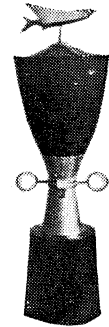
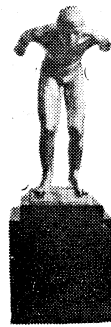
ゴール トロイ、続く那須、パートン、開田 →



↑日米対抗の表彰式 中央 山中, 2位 ソマーズ, 3位 ブリーン



↑ 1500mのターン 先頭ローズ続いてソマーズ, 山中, これから山中ラストスパート, ソマーズを抜いてローズが追つたが遂に及ばず



スポーツ振興国会議員
懇談会々長
松永 東氏 寄贈

ローズ選手に贈られ
た記念トロフィー

1500m自由形 (米 3 日 3)

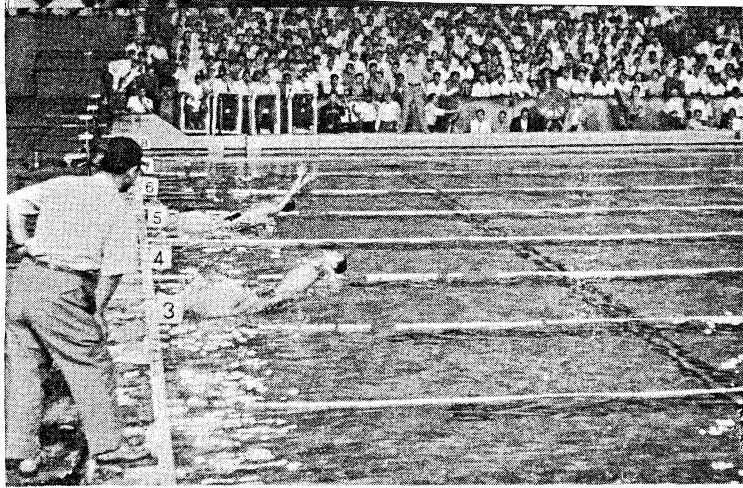
- | | | |
|---|----------|---------------|
| ① | ローズ (豪) | 17:46.5 |
| ② | 山中 (日) | 17:47.5 (日本新) |
| ③ | ソマーズ (米) | 17:48.9 |
| ④ | ブリーン (米) | 17:59.0 |
| ⑤ | 梅本 (日) | 18:28.1 |
| ⑥ | 石井 (日) | 18:31.0 |

メルボルンオリンピックの金, 銀, 銅メダルを得たローズ, 山中, ブリーンに加えるに新鋭のソマーズの四者で18分を割る大レースは, 全くすばらしいものであった。山中には, ローズとの勝負をあきらめさせ, あく迄ソマーズ, ブリーン相手のレースをするように置いて置いたが, 彼にして見れば苦しいことであつたに違いない。新聞等で色々と2人のレースを取上げてさわぎ立てるので, いや応なしに, その方へ押しやられ勝ちになる。これをこらえて得点に徹することは大変な勇気のいることであるが, よくこれに答えて呉れた。ローズとソマーズを追って歯をくいしばって頑張る1200mあたりの姿は涙ぐましいものであった。若い梅本, 石井も最初置いて置いた自己新記録で泳ぐことに努力して力泳した。

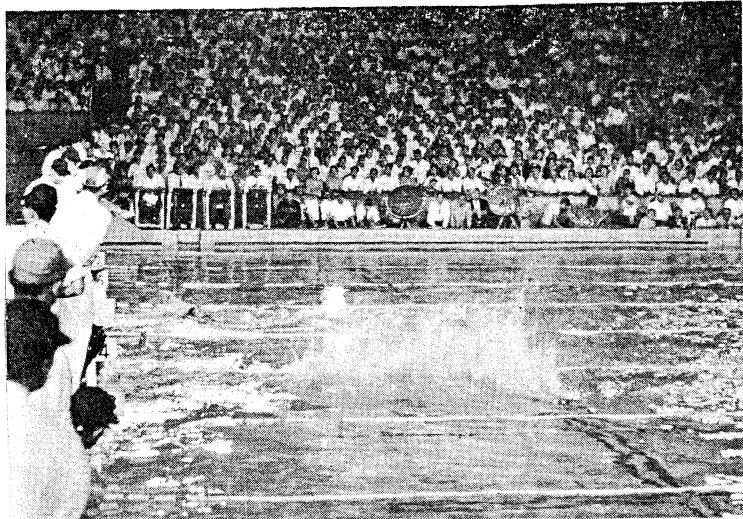
それにしても, ローズの物静かな勝ちっぷりと, 新鋭ソマーズの上り坂の威力と山中のラストスパートのスプリントの物凄さは, 後々迄の語り草になるだろう。

1500m ラップタイム

	ローズ	山中	ソマーズ	ブリーン	梅本	石井
100m	1:06.0	1:04.7	1:04.7	1:04.7	1:25.4	1:04.9
200	2:16.5	2:15.2	2:15.6	2:15.2	2:16.2	2:15.6
300	3:28.0	3:26.9	3:27.0	3:26.8	3:27.9	3:28.5
400	4:40.2	4:38.8	4:38.3	4:39.0	4:41.6	4:43.4
500	5:52.3	5:50.4	5:50.3	5:51.0	5:56.0	5:57.9
600	7:04.0	7:02.6	7:02.3	7:03.0	7:10.5	7:13.5
700	8:16.7	8:14.8	8:14.7	8:15.5	8:25.4	8: 8.6
800	9:28.6	9:27.4	9:27.2	9:28.1	9:41.0	9:44.8
900	10:40.6	10:40.5	10:40.1	10:40.5	10:56.4	11:00.1
1000	11:53.1	11:52.9	11:52.4	11:53.2	12:12.6	12:15.8
1100	13:05.4	13:05.4	13:04.8	13:05.7	13:28.0	13:32.1
1200	14:16.3	14:17.5	14:16.7	14:18.7	14:43.5	14:47.8
1300	15:27.0	15:29.4	15:28.0	15:31.3	15:59.0	16:03.3
1400	16:37.1	16:41.3	16:39.6	16:45.1	17:15.6	17:17.8



↑ スタート

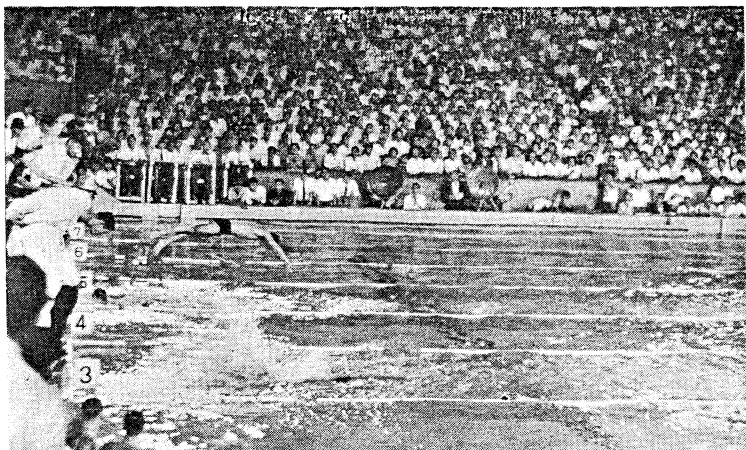


↑ アメリカ、リード



↑ 木村アメリカを抜く

↓ 開田少差を保つ



外務大臣

藤山愛一郎氏寄贈

400mメドレーリレー

(米0日3)

- ① 日本(長谷, 木村, 開田, 石原) 4:14.0
 1:05.1 1:12.5 1:00.6 55.8 (日本新)
- ② 米国 4:14.4
 マツキニー 1:03.7 マンシュ 1:15.1
 ラーソン 1:00.5 アルカシア 55.1

最初のレースから意気大いにして皆調子がよいので、"この勢で"とこの400メドレーにも捨身でぶつかった。

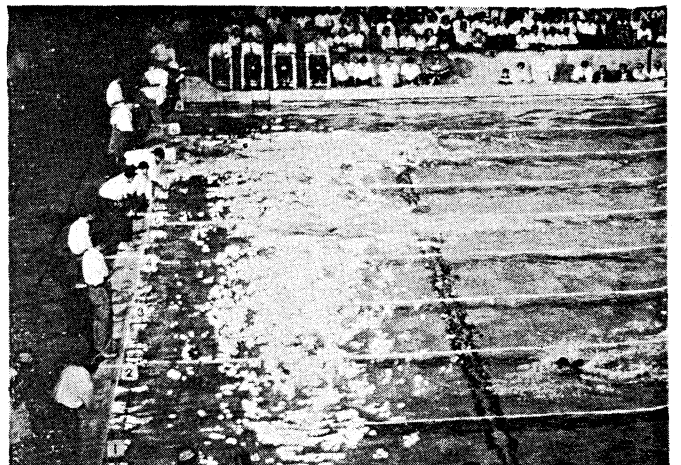
タイムの比較では勝味はないが、長谷がよく泳いで呉れれば何とかなんと、一同長谷の泳ぎに注目した。果して長谷がよく頑張る、水を開けられることなくマツキニーと一身長の差で木村と引継ぐ。木村はここで抜き返して置かなくてはと懸命の泳ぎでピッチを上げラストのゴール前では半身長の差を付けて入ってきた。3番は開田対100mの名手ラーソン。開田はピッチがよく上って.50のターンでは一旦追付かれたが、相手がオーバーペースでゴール前へバったのに比べて開田はよく伸びて再び半身長の差でアンカー石原に引継いだ。

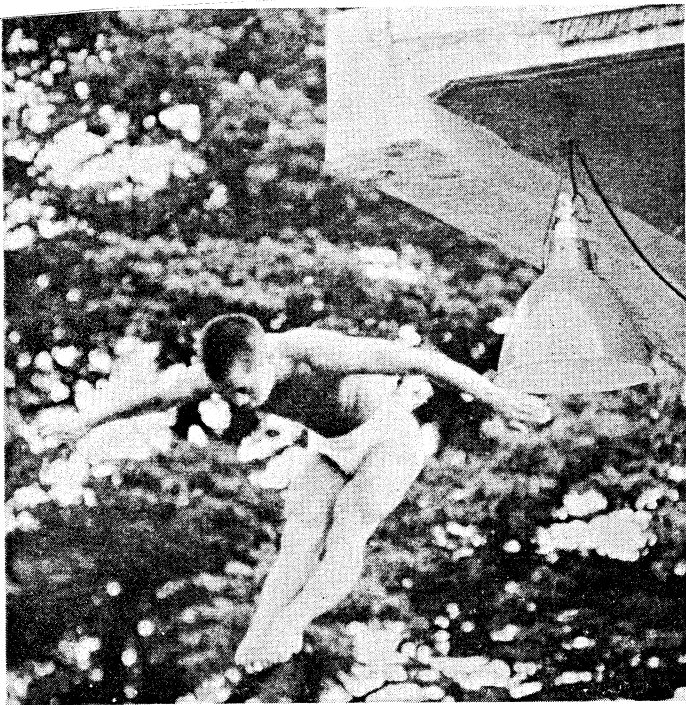
石原は引継ぎを入れたにせよ55秒台というダッシュでタッチの差でアルカシアを抑えて、よもやと思われたメドレーにも勝ち、幸先よい第1日を終った。

最初のレースから幸運につきまわっているといた感じであったが、合宿以来静かにこの日のために蓄えていた力を一気に爆発できたことは、チームの和による盛り上がりであって、全員がベストレコードで泳いでいることを見ても、このことは非常に大切なことであった。

レースが終って宿舎に引揚げた後は、これが先程迄あの激しいレースをやってきた選手達とは思えない程静かに、ねむりに入った。選手達とは別に吾々だけが、今日のレースを振り返って胸の高鳴るのをいつ迄も静めることができなかった。

↓ 石原遂に逃げ切る





第2日 (21日)

今日の種目は200m平泳を除いては日本の不利な種目が多く、非常に苦しいが、何とかこれを切り抜けなくてはならない。併し選手には楽な気持ちで泳いで、記録を出すことに専念するよう注意する。



高飛込 (米2日0)

日本航空KK
社長

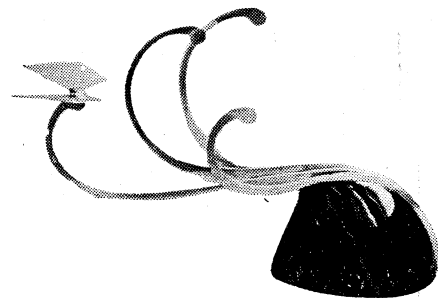
柳田誠二郎氏
寄贈

① ハーパー (米) 150.44

② 金戸 (日) 135.97

金戸得意な種目で、大いに張切って規定飛ではリードし、あわやと思はせたが選択飛で二つ失敗し遂に敗れる。

← 奮闘した金戸選手



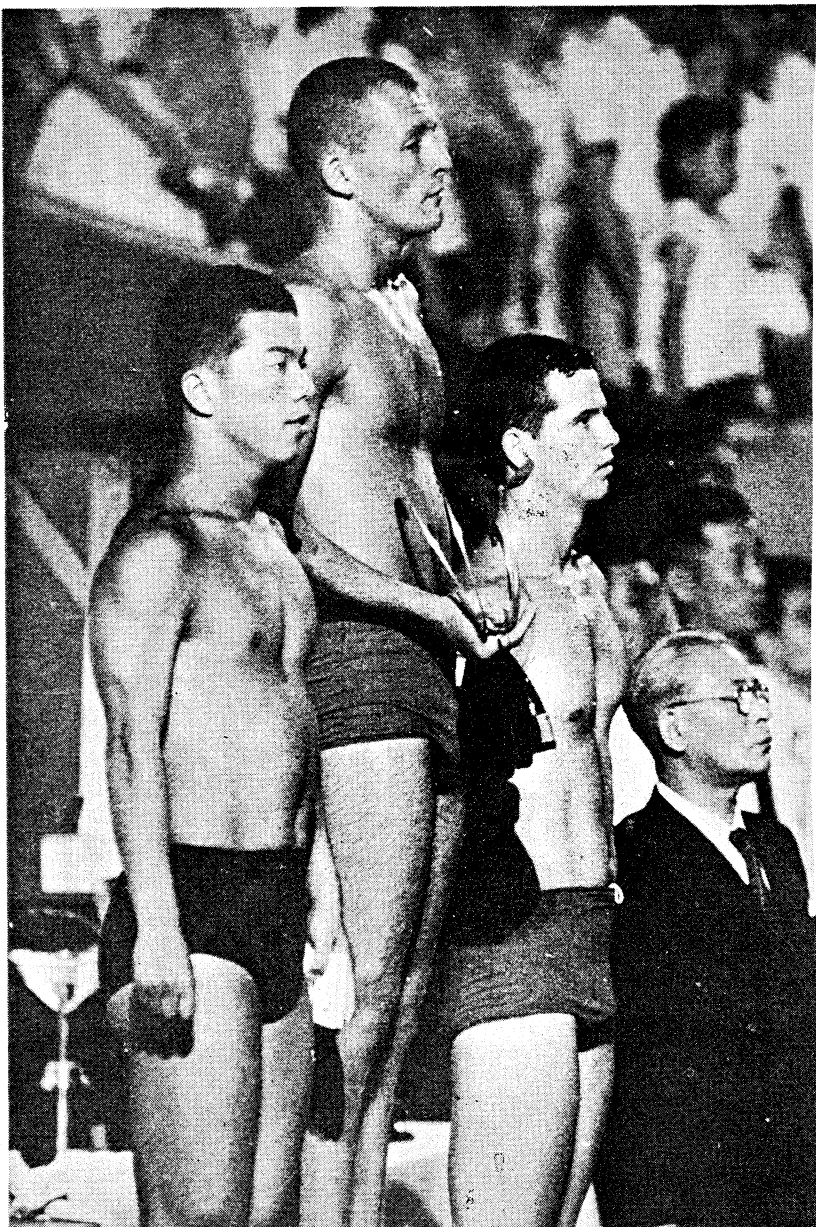
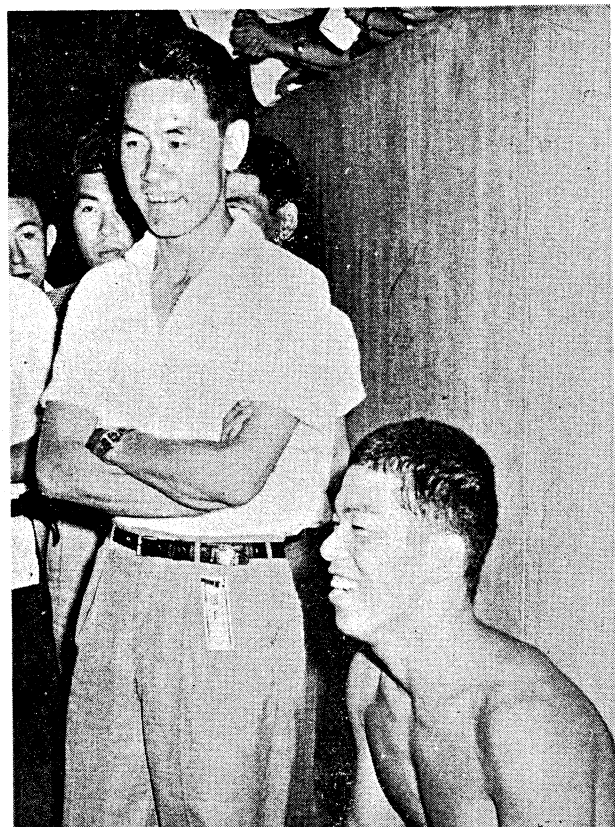
厚生大臣 渡辺 良夫 氏 寄贈

100mバタフライ (米4日2)

①	ラーソン (米)	1:01.1	28.4
②	開田 (日)	1:01.6	28.7
③	トロイ (米)	1:01.6	29.0
④	レガッキイ (米)	1:01.9	29.5
⑤	那須 (日)	1:04.9	30.2

100mバタ専門のラーソンは自信に充ちた泳ぎで飛び出し、他の米選手もこれに続く。開田、那須は少し遅れているので今度は完敗かと胸が痛かったが、ターン後、開田がでてきて前に行く三者の中に喰い込んで行った。ラスト10mからノーブレッシングの頑張りで遂にトロイ、レガッキイをとらえて同タイム乍ら2着になった。予定通り。

「2着にはならなきや駄目だぞ」「え、2着でいいんですか」太田監督と開田、顔見合せてニヤリ!



400m自由形 (米 2 日 4)

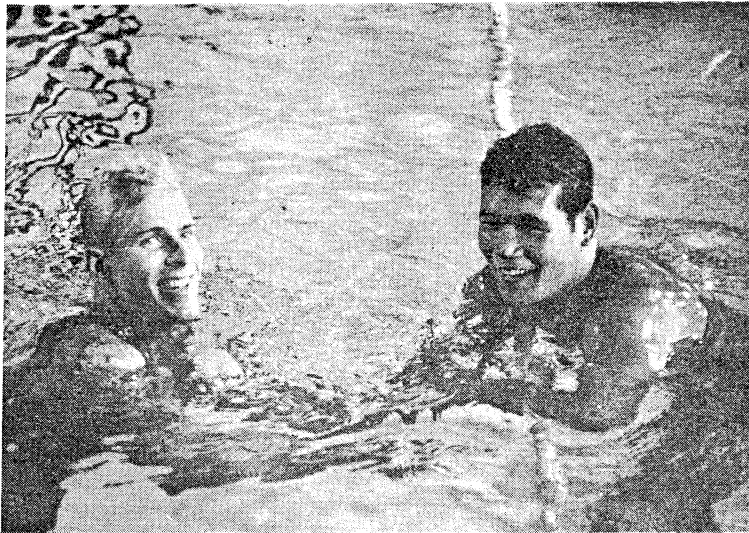
① 山中 (日)	4:22.3 (日本新)
	1:02.9 2:10.2 3:18.0
② ローズ (豪)	4:22.9
	1:03.3 2:10.4 3:16.9
③ ソマーズ (米)	4:30.5
	1:04.0 2:13.3 3:22.2
④ 福井 (日)	4:30.6
	1:03.8 2:13.5 3:22.9
⑤ レンズ (米)	4:31.2
	1:03.4 2:13.4 3:23.6
⑥ 藤本 (日)	4:31.5
	1:03.9 2:14.2 3:24.5
⑦ ブリーン (米)	4:36.9
	1:03.5 2:12.7 3:24.5



日本商工会議所会頭

足立 正氏 寄贈

"スタート台に立ったなら大きな深呼吸を三つ"と選手達に云い渡して置いた。これからはじまる大レースに



↑ 山中, ローズの祝福を受ける

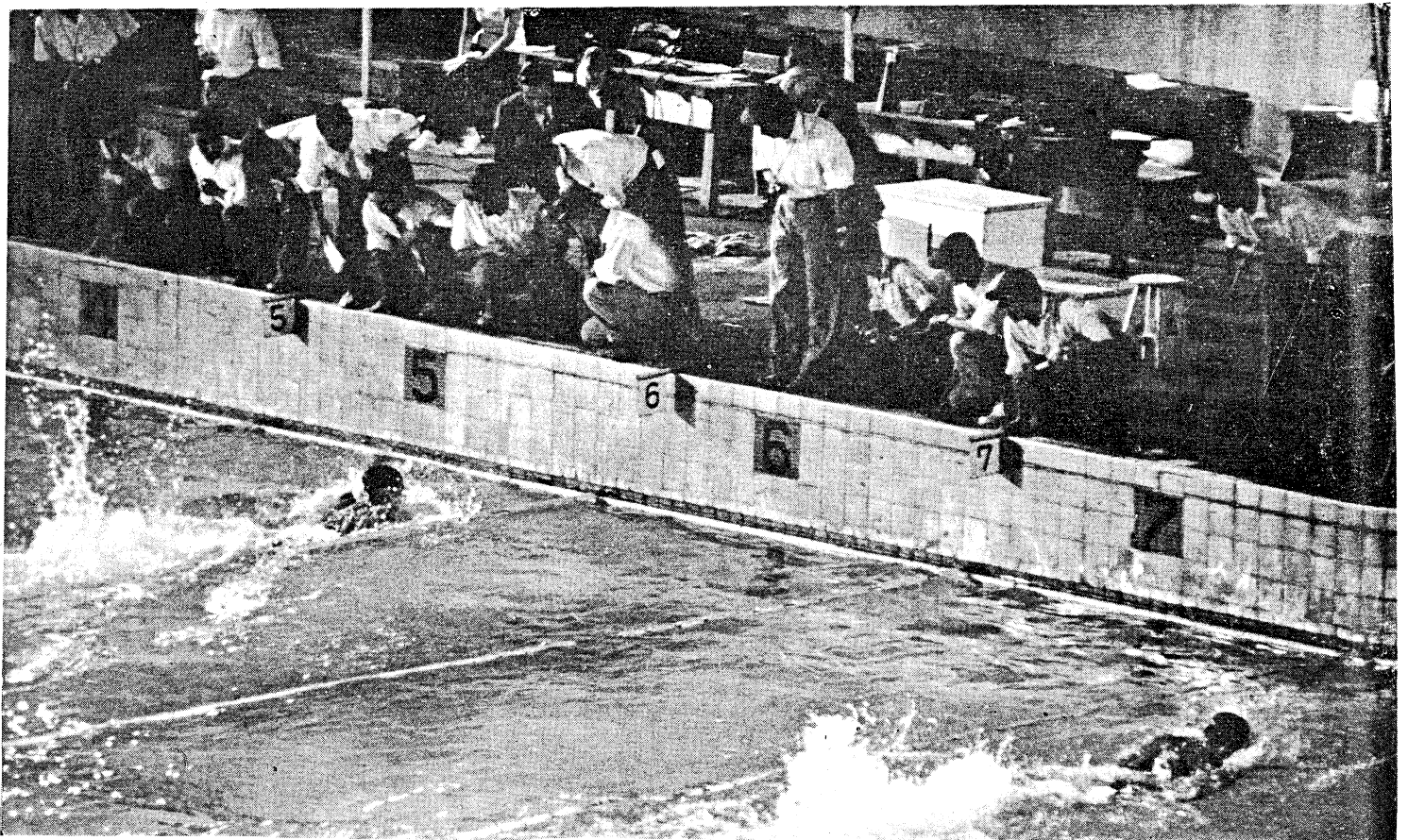
上らないようにと思って注意して置いたものだが、分厚い胸をふくらませて山中以下福井、藤本も忘れないでやった。嬉しかった。

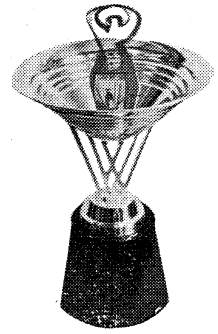
こうしてスタートした山中は、気持ちにも泳ぎにも余裕があり、軽いピッチ乍らグイグイ出る。いつもの山中は、意識して飛び出すと肩に力が入り、泳ぎが乱れるが今日はこれがない。ローズを意識しないで自分の気持ちのいゝように飛び出すことにしてあった。こうして前半は快調に過し福井、藤本もこれに続いて好調。(山中の200ラップ2:10.2彼としては少し遅い)

相手のローズも後半に自信があるので、序々に差をつけて来た、そして300mでは山中と肩をならべて抜き返した。併し山中は前半を楽に泳いでいるのでラストのスパートは大丈夫、懸命に逃げるローズを追って350でとらえ、物凄いわかりのスピードで遂に半身長の差でゴール。こうして日本選手の苦手とされた400に、しかもローズを相手にして勝つことができた。これで直ちにローマと考えるのは尙早であるが、或種の自信を持ち得たことは事実だ。

福井、藤本も後半よく泳ぎ、福井はソマーズを追い込んだが僅かに0.1秒の差で4位、藤本も0.3でレンズを破ることができなかったが、自己の最高記録で堂々と泳ぎ切ったことは立派である。

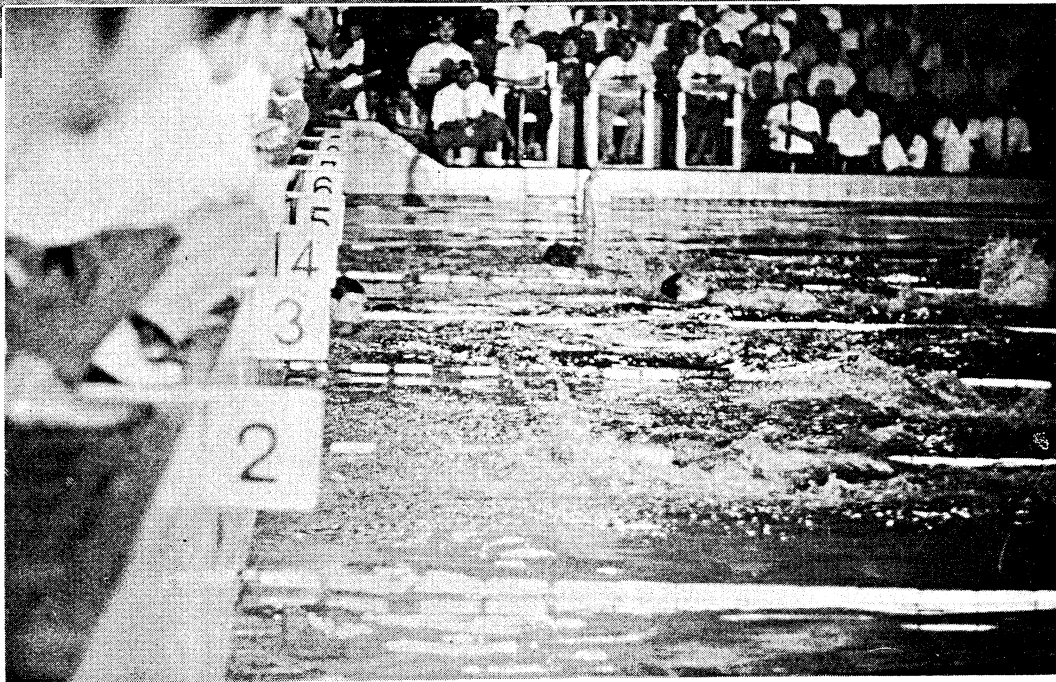
↓ 山中宿願を達す(5コース 山中, 8コース ローズ)





東京ロータリークラブ寄贈

← スタート 3コースより右へ
ビデック, 富田, マッキニー
長谷, ベネット



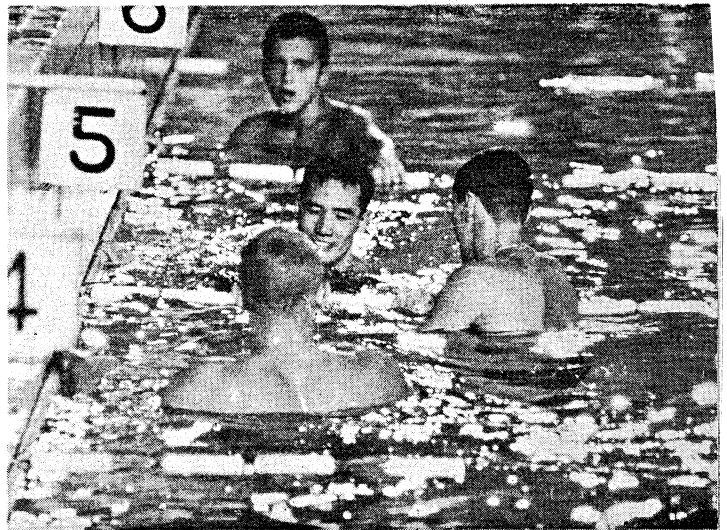
ゴール →

100m背泳 (米 5 日 1)

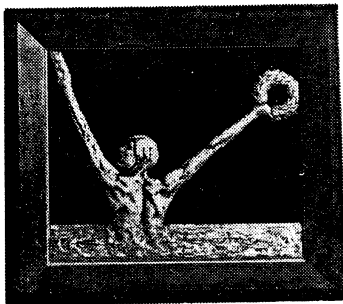
①	マッキニー (米)	1:03.7	30.6
②	ベネット (米)	1:05.6	30.7
③	長谷 (日)	1:06.1	31.7
④	富田 (日)	1:06.7	31.5
	ビチック (米)	失格	

100m 背泳の実力の差は何とも仕方ない。併し、長谷の老巧さに期待して何とか点を物にして貰いたかった。レースは予想通りマッキニーの独壇場で、長谷、富田もよく泳いだが遂に4、5着と0点に終わったと思って引揚げた処場内放送で、ビチックの反則による失格が発表され、ひろい物の1点を得た。ターンに手を触れないで廻ったためらしい。

吾々としては何ともいうことはないが、たとえ勝てたとしても相手の失格に依る1点で勝ったといはれないように、後のレースを頑張るようにと話し合った。



↑ 戦終って水中で握手



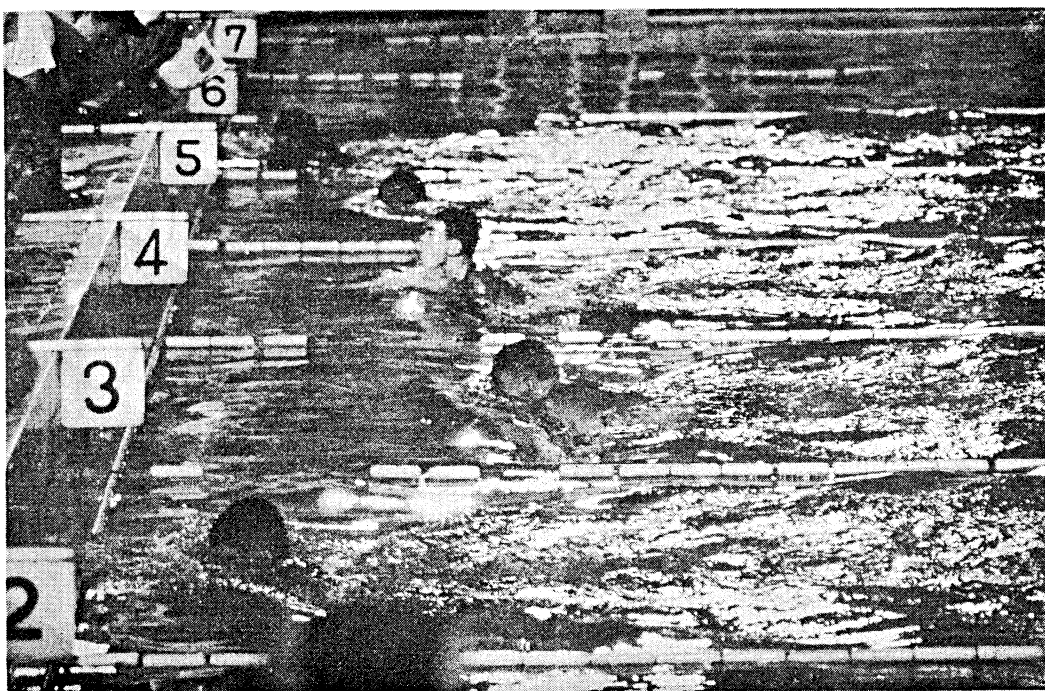
日米協会々長
小松 隆氏 寄贈

200m平泳 (米 0 日 6)

① 増田 (日)	2:39.3 (日本新)
	36.2 1:17.4 1:58.5
② 木村 (日)	2:40.7 (日本新)
	36.2 1:17.4 1:58.9
③ 大崎 (日)	2:42.2
	36.4 1:18.0 1:58.8
④ クラーク (米)	2:48.2
	36.8 1:17.7 2:01.1
⑤ マンシュ (米)	2:48.2
	36.7 1:18.0 2:03.2

完勝をねらえる種目だけに気は楽であるが、合宿以来、泳ぎが安定して来た増田の記録に期待していたが、遂にオーソドックスで、日本ではじめて40秒を割る好記録を出して気を吐いた。木村も40秒台に入った。若い大崎も力を付けて来て好記録を予想していたが、やはりレースに上ったか実力を出しきれなかったようだった。

← 日本3選手 向って左より増田, 大崎, 木村



100 m のターン 増田, 木村 ↑
リード



ゴール 7コース増田 3コース
木村, 5コース大崎 →

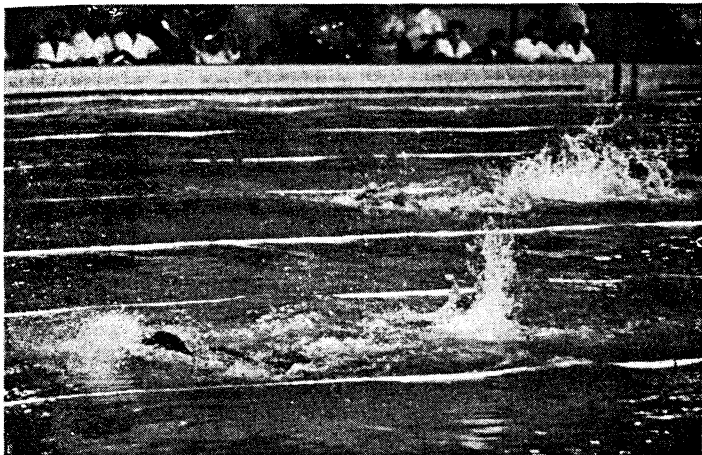
400mリレー

(米 3 日 0)

- ① アメリカ 3:44.4 (世界新)
 - フオレット 56.6
 - ラーソン 56.8
 - ファーレル 55.7
 - アルカイア 55.3
- ② 日本 3:48.0
 - 山中 56.5
 - 古賀 56.7
 - 見上 58.1
 - 石原 56.7

55.6秒の選手を4人揃える米チームは泳ぐ前から世界新を出して見せるといったので、よしそ

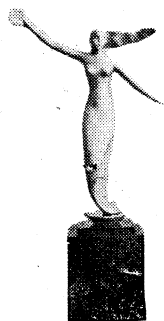
↓ 猛追もかいなし



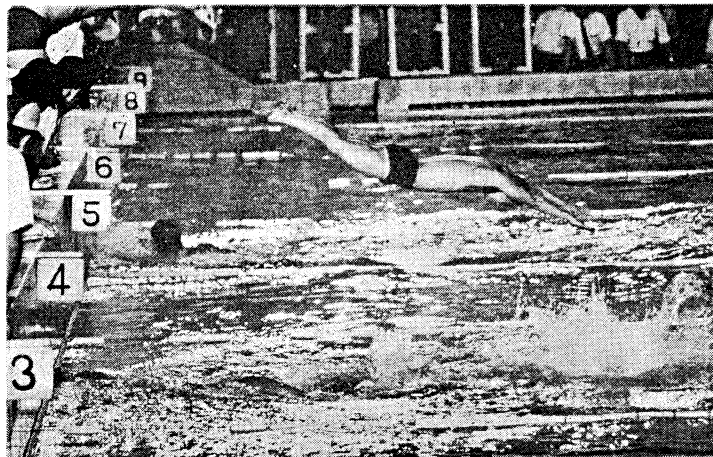
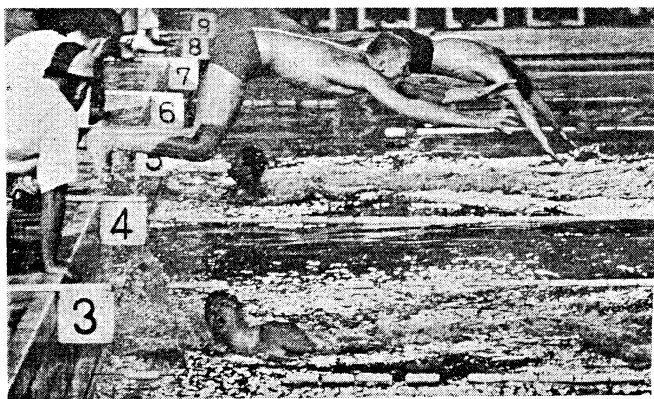
笑いのとまらない
↓ アメリカ監督



世界新で勝って大喜びのアメリカチーム



日本水泳連盟会長
樋口 一成氏 寄贈



↑ 100m引継ぎ
山中 56.5,
フオレット 56.6

↑ アメリカ リード

れではこちらでもと、泳ぎたがっていた山中をトップにして抵抗を試みた。併し、何としても歯が立たず3mの差をつけられてしまった。それにしても豪チームの記録を2秒近く破る世界新を作ったことは米チームの実力を発揮したものといえよう。

二日目の今日も山中を筆頭によく実力を出し切って泳いで呉れたので、苦手の種目もどうやら克服できて、僅か乍ら勝味がでてきたようだ。併し400mリレーに見せた、米チームの実力は恐ろしい。そしてレースにも馴れてきたので、明日も、最後迄頑張らなくてはならない。

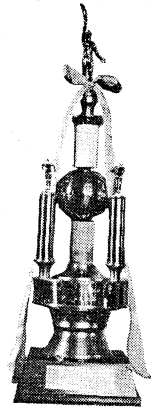
選手達も2日間の激斗で精神的にも大分疲れてきたようだが、至って元気。故障は1人もない。

第3日 (22日)

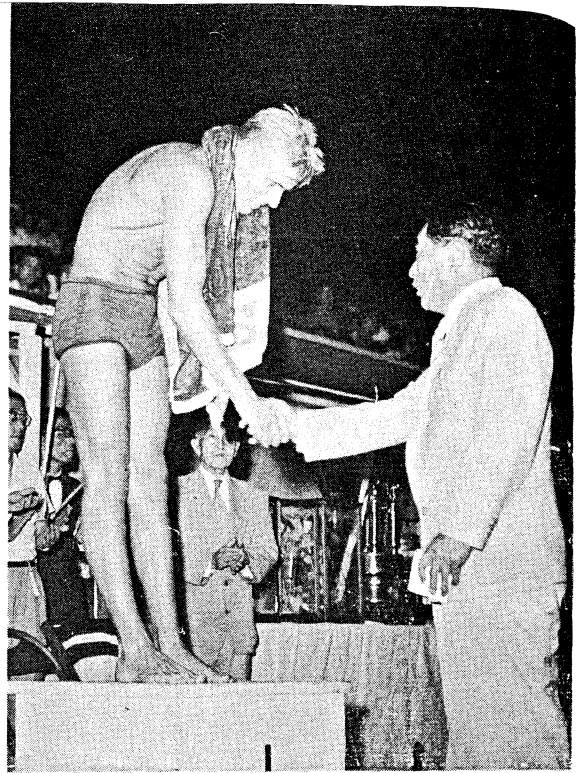
連日の好記録と、日本選手の活躍に、最終日の今日は朝から来訪者も多い。勝利の得点の予想も最後の800リレー迄に持ち込まれそうで、吾々としては一レース毎に全力を傾けるより方法はないので、余り考えないことにして、選手を休ませるために訪問客を断わる。午前中の練習は神宮プールで軽く水につかる程度にしたが、泳ぎそのものは余り疲れている様子もないようで一安心。7時からのレースに備えて午睡も充分とり5時半頃、宿舎を出発する。

800m自由形 (米 3 日 3)

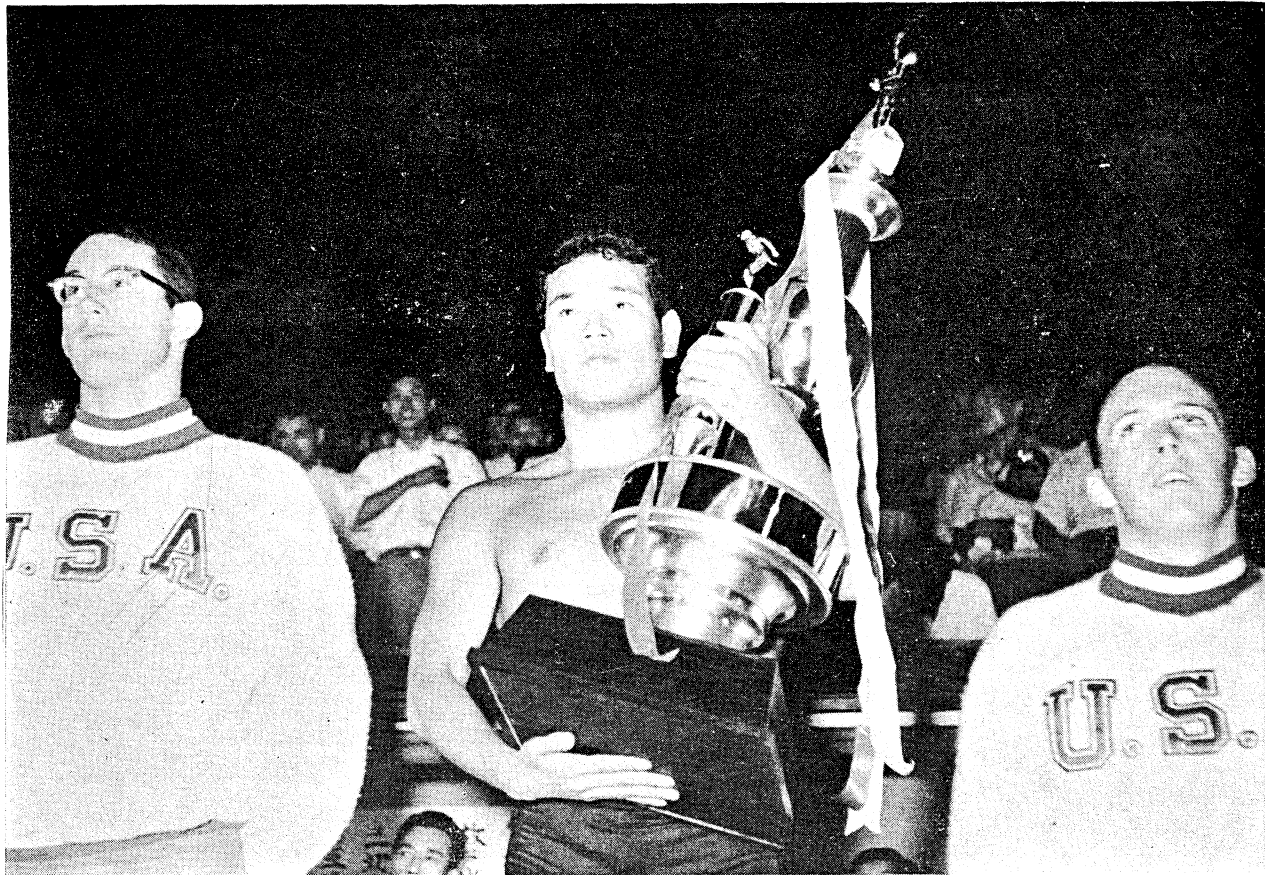
①	ローズ (豪)	9:08.6 (世界新)
②	山中 (日)	9:09.7 (世界新)
③	ソマーズ (米)	9:17.8
④	レンズ (米)	9:24.8
⑤	グリーン (米)	9:26.2
⑥	石井 (日)	9:39.2
⑦	梅本 (日)	9:44.1



明治神宮宮司
甘露寺 受長氏
寄贈

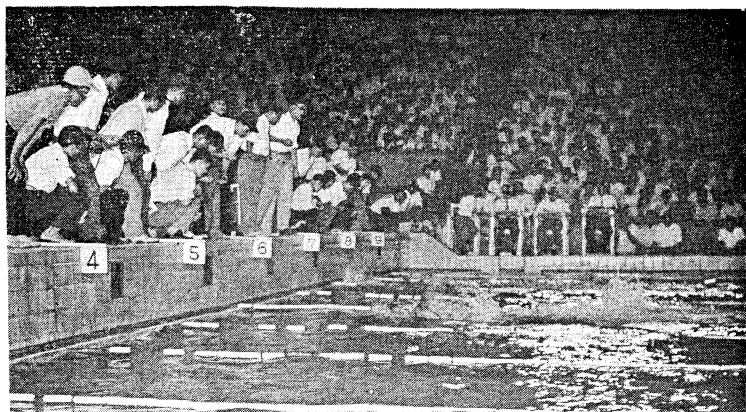


↑ 番外で優勝したローズ選手



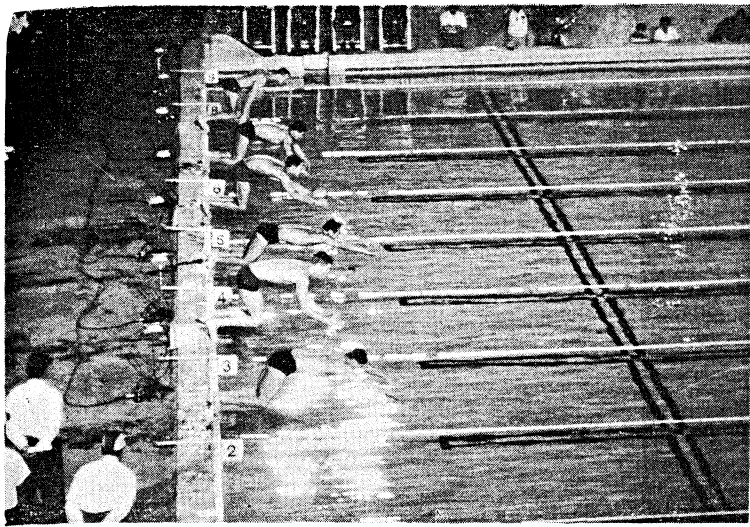
↑ 表彰台に立つ左より ソマーズ, 山中, レンズ

↓ ゴール

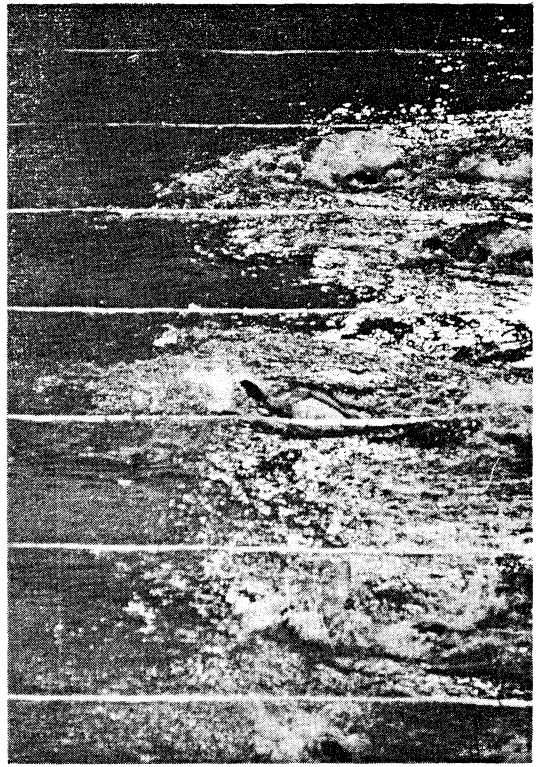


800mは前日の400mの結果から自分でも相当の自信を持って来て、"泳ぎ方も掴めたから、何とかして9分を切りたい"と洩らしている程で、元気だが、体の疲労は相当なものだ。うまく泳いで呉れば何とか、この記録も達成されるかも知れない。

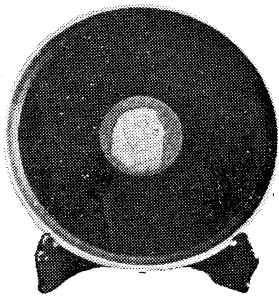
レースは例によって、ソマーズが飛び出したが、山中以下がうまくついて泳いでいる。ラップは相当よい。500迄はソマーズがトップで500からローズがトップに立ち山中とソマーズがこれに続き、激しいレースとなる。以下は相当離れた。前日の400にこりてローズは気をゆるめずぐんぐん飛ばして山中を3m程離れた。愈々最後



↑ スタート



70m附近の競り合い、手前2コースより石原、フォレット、見上、アルカイア、古賀、ファーレル

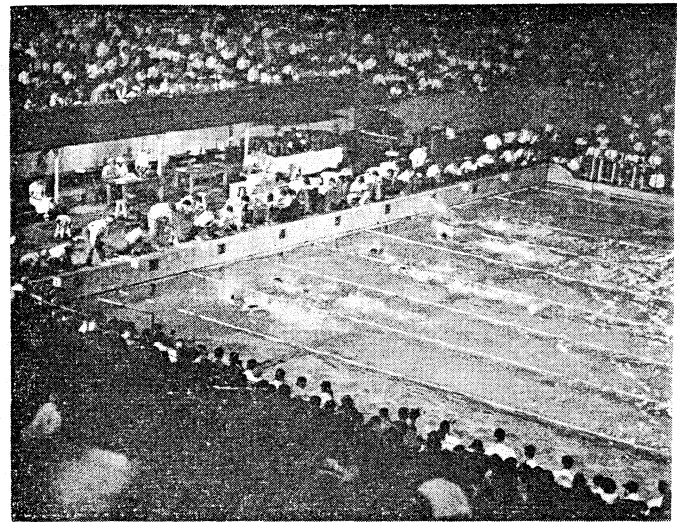


東京都知事 東 竜太郎氏 寄贈

100m自由形 (米5日1)

①	ファーレル (米)	56.1	26.6
②	アルカイア (米)	57.1	26.5
③	古 質 (日)	57.3	27.0
④	フォレット (米)	57.3	27.0
⑤	石 原 (日)	57.4	26.9
⑥	見 上 (日)	58.4	27.2

いつわりのない処、水物のこの100で1点でもと希望していたことが老練の古賀の奮斗によって実現した。やはりこのようなレースになると、競技経験が大きく物をいう。石原は実力を出し切れないで終わってしまった感じである。



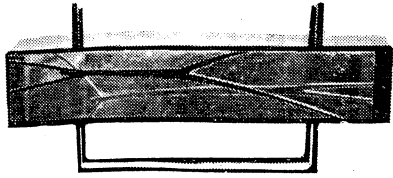
ゴール

のターン、山中の凄じい追撃がはじまったが、3mの差は大き過ぎ遂に1秒の差で敗れた。而し記録からいっても、レース運びからいっても、全力を出し切ったレースだけに、2人は満足そうだった。ソマーズは600から大きく遅れてしまった。石井、梅本もよく頑張ったが、米チームには及ばなかった。

昨日の400のローズは山中の実力を甘く考えて敗れたが、今日の800では山中の出方をよく見て泳いで居り、やはり依然としてその底力は測り知れない。

800m ラップタイム

	1 ローズ	2 山 中	3 ソマーズ	4 レンズ	5 グリーン	6 石 井	7 梅 本
100m	1:04.2	1:03.8	1:03.6	1:05.7	1:04.0	1:05.8	1:04.6
200	2:14.8	2:13.4	2:12.6	2:16.9	2:14.6	2:17.5	2:15.1
300	3:23.9	3:23.3	3:22.9	3:29.2	3:24.2	3:31.1	3:27.1
400	4:34.3	4:33.6	4:33.4	4:41.3	4:38.0	4:45.9	4:41.0
500	5:44.6	5:44.3	5:44.2	5:53.4	5:48.0	6:00.0	5:56.4
600	6:54.4	6:55.0	6:55.9	7:05.9	7:01.6	7:14.1	7:13.2
700	8:02.4	8:04.4	8:06.8	8:17.2	8:15.0	8:28.3	8:29.2
800	9:08.6	9:09.7	9:17.8	9:24.8	9:26.2	9:39.2	9:44.1



経済団体連合会々長

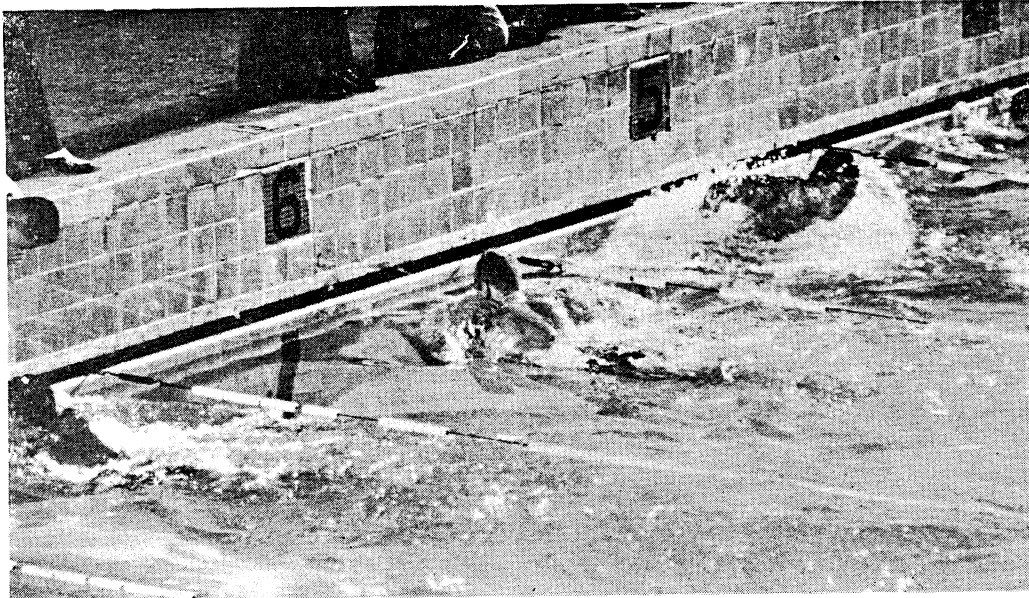
石坂泰三氏寄贈

100m平泳 (米0日6)

①	増田 (日)	1:13.4	34.9
②	木村 (日)	1:14.0	34.2
③	大崎 (日)	1:14.4	35.4
④	マンシュ (米)	1:15.4	34.5
⑤	クラーク (米)	1:17.0	

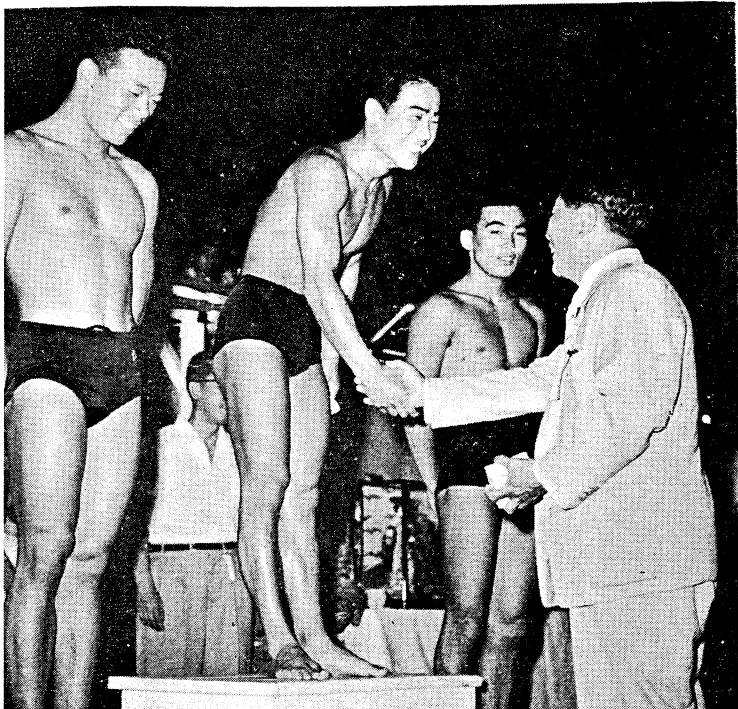
200で好記録を出した増田が依然として好調。100mになると力のあるマンシュも中々あなどり難いので、充分注意して置く。

而し200同様完勝した。増田は泳ぎもよく、鋭さも増して二種目に優勝。得点を重ねて行く。

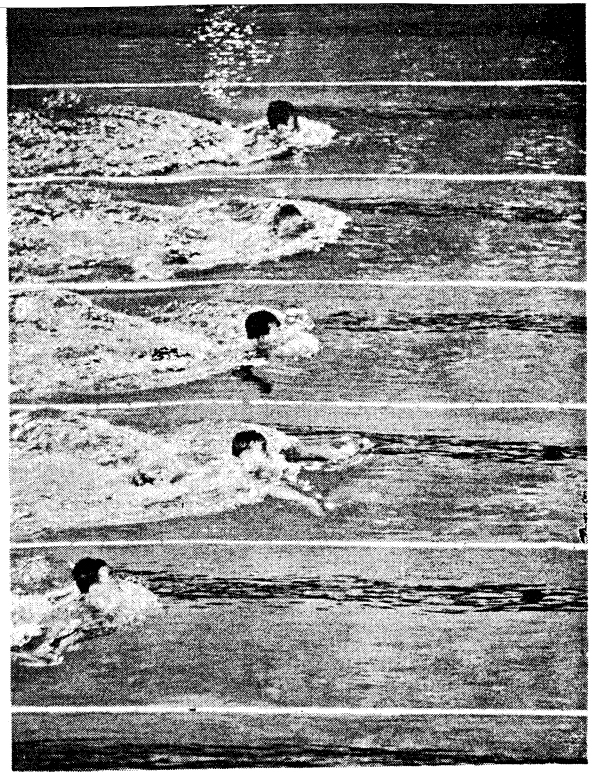


50mターン →

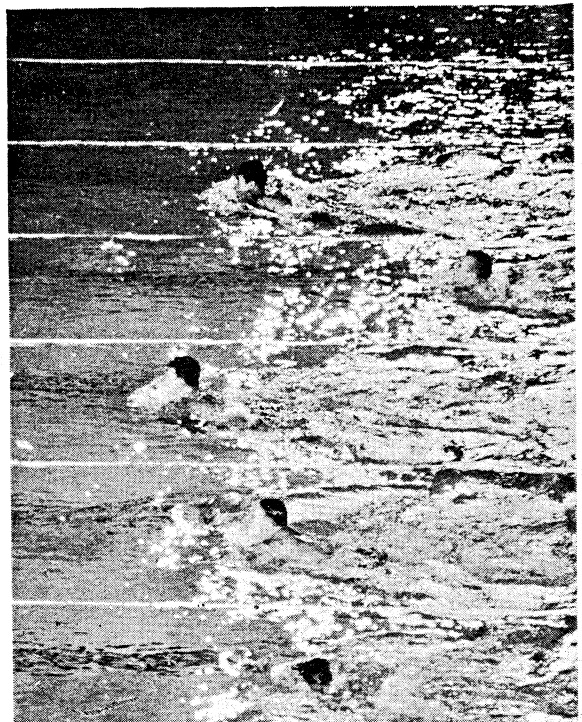
↓ 表彰式

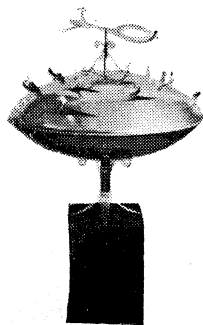


クラーク、増田
40m附近
手前より(3コース)
大崎、マンシュ、木村

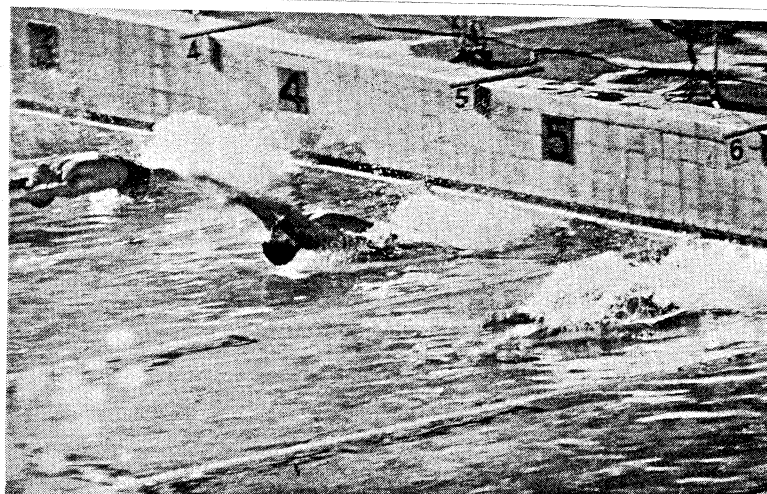


↓ 70m附近 大崎は遅れている





U.S. Ambassador
Mr. D. McArthur II 寄贈

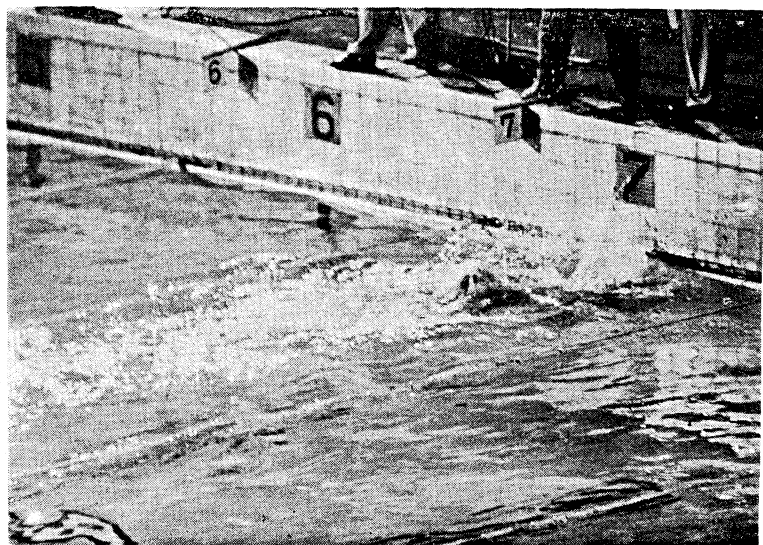


スタート 4コース富田, 5コースベネット, 6コース長谷

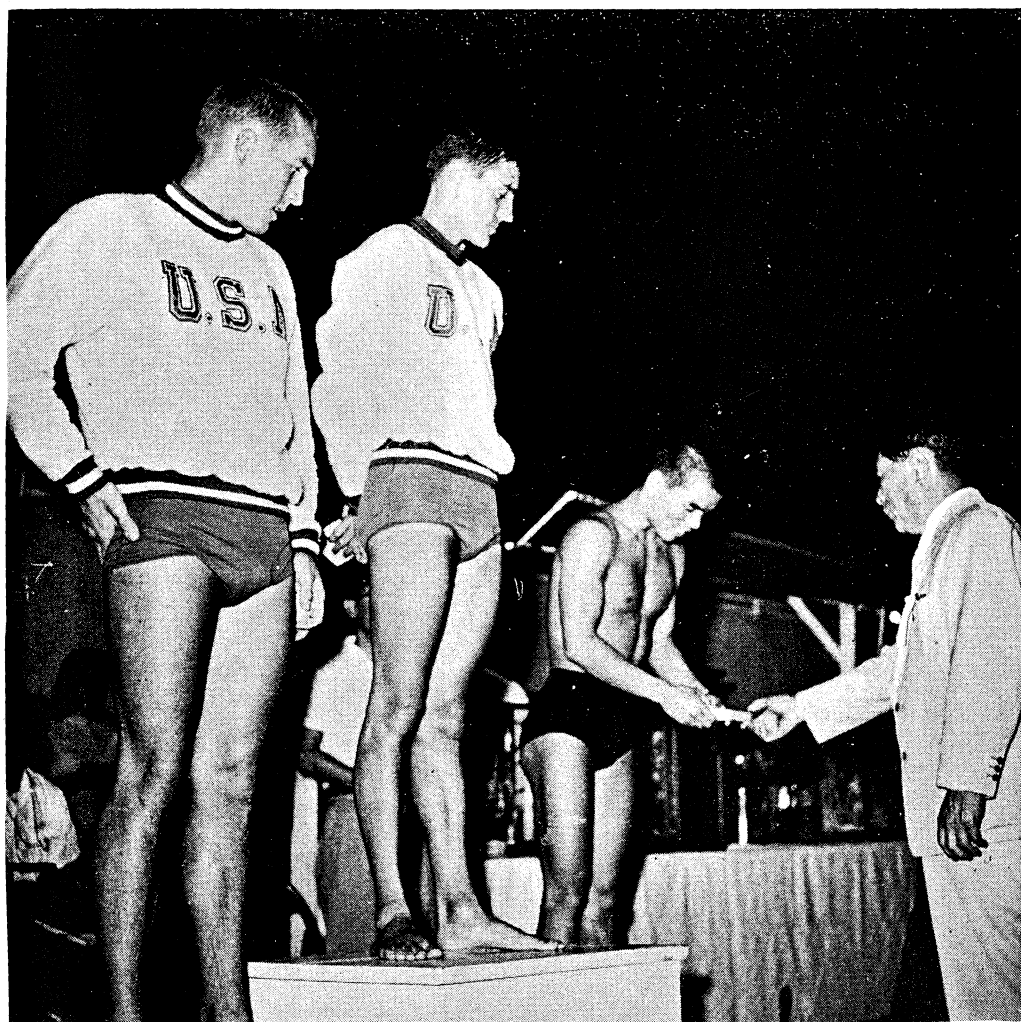
200m背泳 (米 5 日 1)

① マッキニー (米)	2:19.3		
	31.2	1:06.3	1:42.8
② ビチック (米)	2:23.2		
	32.3	1:08.2	1:45.1
③ 富田 (日)	2:24.1		
	32.6	1:08.9	1:44.9
④ 長谷 (日)	2:26.0		
	32.5	1:08.6	1:48.4
⑤ ベネット (米)	2:27.7		
	31.7	1:09.1	1:48.0

2分17秒9の世界新を持つマッキニーの力は傑出しているがビチックと富田は互格。こゝでも何とか



↑ ゴール 7コース優勝の
マツキニー (アメリカ)



一矢を報いたい処。こゝで1点とれば同点となってリレーで勝負がきまるので祈るようなつもりで結果を待った。富田は前半余りよくなかったが、後半よく出て遂に1点を獲得して、勝利を確定的にした。

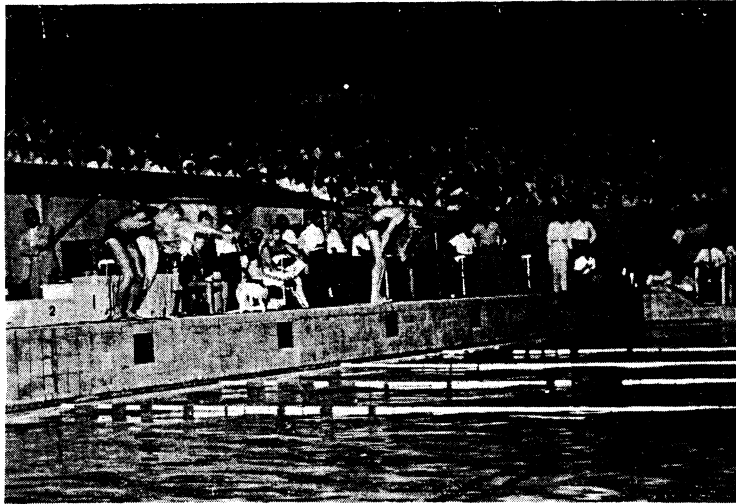
表彰式

800mリレー (米0日3)

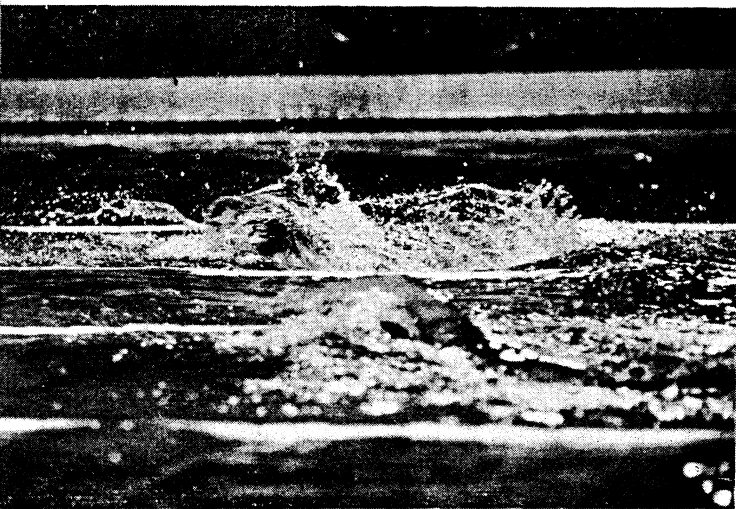
① 日本	8:21.6 (世界新)		
梅本	2:09.5	藤本	2:05.1
福井	2:04.8	山中	2:02.2
	1:02.6 2:09.5 3:10.2 4:14.6 5:14.4 6:19.4 7:17.7 8:21.6		
② 米国	8:31.2		
ソマーズ	2:08.7	フアーレル	2:08.5
グリーン	2:07.3	トロイ	2:06.7
	1:01.8 2:08.7 3:08.8 4:17.2 5:16.2 6:24.5 7:23.1 8:31.2		



↑ 表彰式

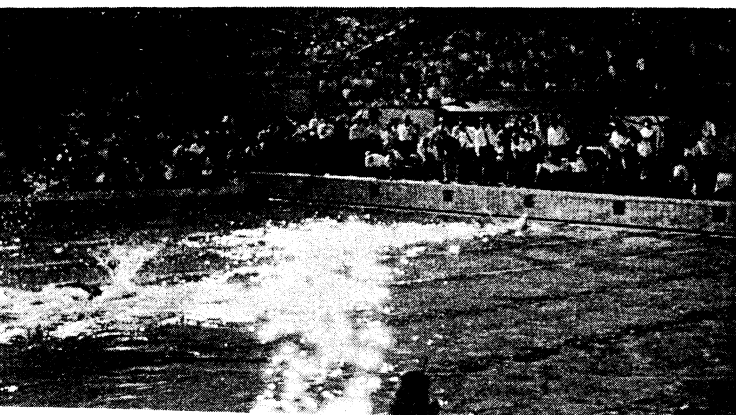


↑ スタート 4コース 日本 梅本 6コース アメリカ ソマーズ



↑ 80m附近 梅本, ソマーズ競う

↓ ゴール 世界新記録で優勝



内閣総理大臣

岸 信 介 氏 寄 贈

福井、藤本の調子から見て勝利は九分九厘間違いなく、こゝで更に慾を出して世界新をねらう。若い梅本をトップにして一発を試みたがよく泳いで2分9秒5でソマーズには遅れたが先づ順当。2番藤本は先行するフアーレルを直ぐにとらえて力泳し2分5秒1の好記録で福井に引継ぐ。このできでは世界新は固い。福井も依然好調2分4秒8で山中に引継ぐ。もう米チームは問題でない。山中は例によって水車のように頑張り2分2秒2でタッチ、世界新を樹立すると共に遂に四度目の優勝も成し遂げることができた。

↓ ガッカリ, アメリカ選手兼応援団

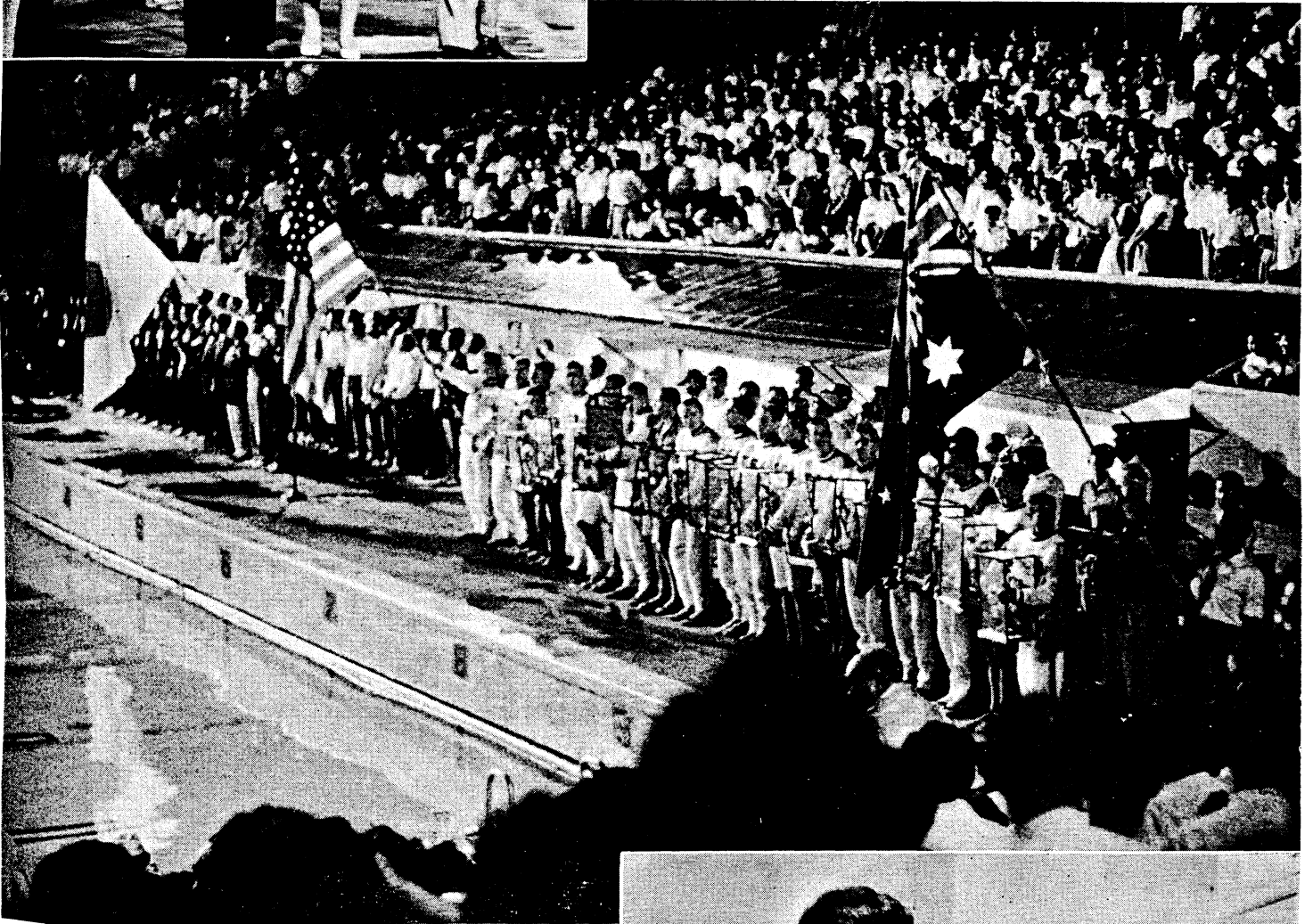


閉 会 式



← 秩父宮妃殿下を迎える

3日間を通じて尻上りの好調さでレースができ、しかも幸運にめぐまれて僅差のはげしいレースではあったが期待に応えることができたのは全くチームワークの勝利といえる。人は幸運というかも知れないが、合宿以来レースの終る迄の選手の努力は、幸運だけとはいえない。長谷主将を中心としたまあまりは全く素晴らしかった。これが地方への試合となって忙がしいスケジュールの終る迄一糸乱れず続けられたのは、1人の事故者もなく更に好記録を出すことのできた一事を見てもわかる。



↑ 閉会式全景

日米対抗には勝つことができたけれど、来年のローマ大会迄には、豪州はじめ、諸外国は急激な強化をして集るに違いない。これらと対等に戦える迄には更に一、二段の飛躍を必要とする。この勝利を契期として、大きな努力をしなくてはならない。



戦い終って両国監督の握手 →

第1日 清宮様ご台覧
(説明は小出専務理事)



← プリンスホテルにてレセプション

↓ 奈良に遊ぶアメリカ選手



(左下) どこへ行ってもサイン
攻め

(右下) 宿舎で歓談の日本チーム



得 点 表 S C O R E

種	Event	米 国 U. S. A.		日 本 Japan	
		得点 Point	累計 Total	得点 Point	累計 Total
第 1 日	飛板飛込 Spring board Diving	2	2	0	0
	200m. 自由形 Free Style	0	2	6	6
	200m. バタフライ Butterfly	4	6	2	8
	1500m. 自由形 Free Style	3	9	3	11
	400m. 混継泳 Medley Relay	0	9	3	14
第 2 日	高 飛 込 High Diving	2	11	0	14
	100m. バタフライ Butterfly	4	15	2	16
	400m. 自由形 Free Style	2	17	4	20
	100m. 背 泳 Back-stroke	5	22	1	21
	200m. 平 泳 Breast-stroke	0	22	6	27
	400m. リレー Relay	3	25	3	27
第 3 日	800m. 自由形 Free Style	3	28	3	30
	100m. 自由形 Free Style	5	33	1	31
	100m. 平 泳 Breast-stroke	0	33	6	37
	200m. 背 泳 Back-stroke	5	38	1	38
	800m. リレー Relay	0	38	3	41

採 点 法

個人種目 1位 3点
 2位 2点
 3位 1点
 飛込種目 1位 2点
 リレー 1位 3点
 総得点の多いチームを優勝とする同点
 の場合は1等数の多い国を優勝とする
 なお決定しないときは引分けとする

第 4 回 までの 結果

第 1 回 日本 40点 米国 23点
 第 2 回 日本 36点 米国 27点
 第 3 回 米国 46点 日本 17点
 第 4 回 日本 44点 米国 35点

日米対抗水上競技大会大阪大会

昭和34年7月25日 大阪プール 気温 26° 水温 29°4
7月26日 気温 28° 水温 29°4

1) 100m自由形

1. ファーレル (米 国)	55.8
2. フォレット (米 国)	56.2
3. アルカシア (米 国)	56.7
4. 石原勝記 (日 本)	57.4
5. 古賀 学 (日 本)	57.6
6. 見上勝紀 (日 本)	58.6
{ファーレル 26.5 アルカシア 27.5 フォレット 26.4	

2) 200m自由形

1. 藤本達夫 (日 本)	2:04.9
(29.2 1:02.1 1:34.0)	
2. 福井 誠 (日 本)	2:05.6
3. レンズ (米 国)	2:07.0
4. ファーレル (米 国)	2:07.0
5. 見上勝紀 (日 本)	2:08.4

3) 400m自由形

1. 山中 毅 (日 本)	4:16.6
山中 1:01.0 2:05.8 3:11.9 (世界新) 日本新)	
2. ローズ (豪 州)	4:25.2
3. 藤本達夫 (日 本)	4:28.4
4. ソマーズ (米 国)	4:29.0
5. レンズ (米 国)	4:32.6
6. ブリーン (米 国)	4:37.7
7. 福井 誠 (日 本)	4:44.8
{ローズ 1:02.4 2:08.3 3:15.5 藤本 1:02.9 2:12.1 3:21.5	

4) 1500自由形

1. ソマーズ (米 国)	17:44.4
(日本国際新)	
2. ローズ (豪 州)	17:48.3
(日本国際新)	
3. 山中 毅 (日 本)	17:48.5
(日本新)	
4. ブリーン (米 国)	18:14.4
5. 石井 宏 (日 本)	18:37.9
6. 梅本利三 (日 本)	18:44.3

ソマーズ	ローズ	山中
1:05.5	1:07.7	1:07.3
2:15.2	2:19.8	2:19.7
3:25.4	3:32.1	3:31.7
4:36.4	4:45.6	4:45.3
5:47.7	5:58.6	5:57.7
6:59.1	7:10.9	7:10.7
8:10.9	8:23.7	8:23.4
9:22.5	9:35.9	9:35.4
10:34.3	10:47.3	10:47.1
11:46.8	11:59.3	11:59.1
12:59.9	13:10.3	13:10.3
14:11.5	14:21.2	14:21.3
15:23.3	14:31.5	14:31.8
16:35.7	16:41.9	16:42.2

5) 100m平泳

1. 増田 勲 (日 本)	1:12.6
(34.3)	(日本新)
2. 木村 基 (日 本)	1:13.3
(34.7)	
3. 大崎剛彦 (日 本)	1:14.4
(35.0)	
5. クラーク (米 国)	1:14.7
(35.6)	
5. マンシュ (米 国)	1:14.7
(35.6)	

6) 200m平泳

1. 増田 勲 (日 本)	2:39.6
(37.5 1:19.1 2:00.2)	(日本新)
2. 木村 基 (日 本)	2:41.2
(37.0 1:18.9 2:00.3)	(日本新)
3. 大崎剛彦 (日 本)	2:42.1
(37.3 1:19.8 2:00.4)	
4. クラーク (米 国)	2:46.9
(37.7 1:20.8 2:04.8)	



山中選手 400m に大記録を作りローズ選手の祝福を受ける

7) 100mバタフライ

- 1. トロイ (米 国) 1:01.0
(28.3)
- 2. 開田幸一 (日 本) 1:01.4
(28.5)
- 3. ラーソン (米 国) 1:01.8
- 4. レガッキ (米 国) 1:02.2
- 失格 那須純哉 (日 本) (参考) 1:03.0

8) 200mバタフライ

- 1. トロイ (米 国) 2:17.0
(30.5 1:04.4 1:40.4) (世界新)
(日本国際新)
- 2. 那須純哉 (日 本) 2:17.8
(31.1 1:06.3 1:42.5) (世界新)
(日本新)
- 3. パートン (米 国) 2:18.7
(31.0 1:05.8 1:42.5) (世界新)
(日本国際新)
- 4. 開田幸一 (日 本) 2:20.6
(30.7 1:05.5 1:42.6)

9) 100m背泳

- 1. マッキニー (米 国) 1:53.5
(3.5)
- 2. ベネット (米 国) 1:04.5
(30.8)
- 3. ビティック (米 国) 1:04.5
(31.7)
- 3. 富田一雄 (日 本) 1:05.1
(31.0)
- 5. 長谷景治 (日 本) 1:05.8
(30.6)

10) 200m背泳

- 1. マッキニー (米 国) 2:17.8
(31.7 1:06.5 1:42.4) (世界新)
(日本国際新)
- 2. 富田一雄 (日 本) 2:22.4
(31.8 1:08.1 1:44.8)
- 3. ビティック (米 国) 2:22.5
(32.2 1:08.2 1:45.6)
- 4. ベネット (米 国) 2:24.7
(33.3 1:10.6 1:47.9)
- 5. 長谷景治 (日 本) 2:26.7
(32.2 1:08.5 1:46.9)

11) 400mメドレー・リレー

- 1. 米国(マッキニー,マンシュ,トロイ,アルカイア) 4:12.6
(1:03.0 2:16.7 3:17.3)
- 2. 日本(長谷,増田,開田,石原) 4:15.4
(1:05.9 2:17.6 3:18.4) (日本新)

12) 800mリレー

- 1. 日本(山中,福井,見上,藤本) 8:18.7
(世界新)
(日本新)
- 山中 58.5 (2:01.5) { 正式計時
世界新
日本新
- 福井 3:01.0 (2:04.2)
4:05.7
- 見上 5:06.3 (2:08.3)
6:14.0
- 藤本 7:14.6 (2:04.7)
8:18.7

- 2. 米国(ファーレル,グリーン,レンズ,トロイ) 8:32.6

- ファーレル 1:02.1
2:07.7
- グリーン 3:07.8
4:16.7 (2:09.0)
- レンズ 5:18.5
6:25.2 (2:08.5)
- トロイ 7:25.2
8:32.6 (2:07.4)



800mリレー世界新, アメリカチームに祝福される日本チーム

- 飛板飛込 1. ハーパー (米 国) 156.62点
- 2. 金戸俊介 (日 本) 136.75
- 高飛込 1. ハーパー (米 国) 162.87
- 2. 金戸俊介 (日 本) 141.07

得点表

種 目		米 国	日 本
第 1 日	飛 板 飛 込	2	0
	200m 背 泳	4	2
	200m 自由形	1	5
	200mバタフライ	4	2
	200m 平 泳	0	6
第 2 日	1500m 自由形	4	2
	400m 混継泳	3	0
	高 飛 込	2	0
第 2 日	100m 自由形	6	0
	200mバタフライ	4	2
	400m 自由形	1	5
	100m 平 泳	0	6
	100m 背 泳	6	0
	800m 継 泳	0	3
合 計		37	33

日米豪交歓水上競技名古屋大会

昭和34年7月31日

名古屋市振甫プール

気温38°

水温26°

1) 100m自由形

1. 山中 毅	(日本)	56.4
2. ファーレル	(米国)	56.8
3. アルカイア	(米国)	56.8
4. 石原勝記	(日本)	57.0
5. ラーソン	(米国)	57.8
6. 古賀 学	(日本)	58.2

2) 200m自由形

1. ローズ	(豪州)	2:04.2
2. 福井 誠	(日本)	2:07.6
3. 藤本 達夫	(日本)	2:08.3
4. 見上 勝紀	(日本)	2:08.8
5. ブリーン	(米国)	2:09.6

3) 800m自由形

1. 山中 毅	(日本)	9:17.0
2. ソマーズ	(米国)	9:28.0
3. レンズ	(米国)	9:33.4
4. 石井 宏	(日本)	9:33.4
5. 梅本利三	(日本)	9:44.0

(山中のラップ
1:04.1 2:13.2 3:25.0 4:37.5 5:49.8
7:01.9 8:10.9)

4) 200m平泳

1. 増田 勲	(日本)	2:40.8
2. 大崎 剛彦	(日本)	2:43.0
3. 木村 基	(日本)	2:46.4
4. クラーク	(米国)	2:46.4
5. マンシュ	(米国)	2:47.4

5) 200mバタフライ

1. トロイ	(米国)	2:19.2
2. 那須純哉	(日本)	2:21.0

3. パートン	(米国)	2:23.0
4. 開田 幸一	(日本)	2:24.2

6) 100m背泳

1. マッキニー	(米国)	1:04.0
2. 富田 一雄	(日本)	1:05.6
3. ベネット	(米国)	1:05.6
4. ビティック	(米国)	1:06.1
5. 長谷 景治	(日本)	1:06.4

6) 400mリレー

1. 米国(ラーソン, フォレット, アルカイア, ファーレル)	3:46.9 (57.7 1:53.6 2:50.3)
2. 日本(石原, 古賀, 増田, 見上)	3:52.4
3. 米豪(ローズ, ベネット, マンシュ, パートン)	3:56.7

8) 800mリレー

1. 日本(福井, 藤本, 梅本, 山中)	8:31.5
2. 米国(トロイ, ソマーズ, レンズ, ブリーン)	8:37.0

日本チーム ラップ

(1:01.5 2:08.0 3:09.6 4:15.0)
(5:16.6 6:24.8 7:26.4)

9) 400mメドレー・リレー

1) 米国(マッキニー, クラーク, ラーソン, ファーレル)	4:14.9 (1:04.0 2:18.3 3:18.3)
2. 米国(ビティック, マンシュ, トロイ, フォレット)	4:15.8
3. 日本(富田, 増田, 開田, 石原)	4:18.0

日米豪交歓水上競技呉大会

8月29日

呉二河プール(50m)公認

気温34°

水温27°

100m自由形

1. ファーレル	(米国)	56.6
2. フォレット	(米国)	57.4
3. 見上 勝紀	(日本)	57.4
4. 石原勝記	(日本)	58.0

5. 古賀 学	(日本)	58.3
6. アルカイア	(米国)	58.4
7. レガッキ	(米国)	58.6
8. 川岡長身	(広島)	59.3
9. 林 正夫	(広島)	59.9

400m自由形

- 1. ローズ (豪州) 4:27.6
(1:04.4 2:12.8 3:19.7)
- 2. 藤本達夫 (日本) 4:32.6
(1:04.8 2:14.9 3:24.2)
- 3. レンズ (米国) 4:34.0
(1:04.4 2:14.9 3:25.0)
- 4. 福井誠 (日本) 4:36.7
- 5. 梅本利三 (日本) 4:38.3

800m自由形

- 1. 山中毅 (日本) 9:13.3
(1:02.9 2:10.8 3:19.6 4:28.5)
(5:39.1 6:49.2 8:03.7)
- 2. ブリーン (米国) 9:32.3
(1:06.2 2:17.0 3:29.3 4:42.7)
(5:53.7 7:06.2 8:18.9)
- 3. 梅本利三 (日本) 9:37.4
(1:06.2 2:17.7 3:29.7 4:42.8)
(5:56.6 7:10.6 8:24.8)
- 4. 石井宏 (日本) 9:43.2

200m平泳

- 1. 大崎剛彦 (日本) 2:41.5
(1:19.0)
- 2. 木村基 (日本) 2:41.5
(1:17.0)
- 3. 増田勲 (日本) 2:41.6
(1:19.8)
- 4. クラーク (米国) 2:46.2
(1:20.8)
- 5. マンシュ (米国) 2:46.8
(1:19.5)
- 6. 和気統 (広島) 2:46.9
(1:20.5)

200mバタフライ

- 1. トロイ (米国) 2:18.4
(1:06.0) (世界新)
- 2. 那須純哉 (日本) 2:18.9
(1:06.7) (世界新)
- 3. パートン (米国) 2:23.1
(1:08.6)
- 4. 開田幸一 (日本) 2:23.2
(1:08.3)

100m背泳

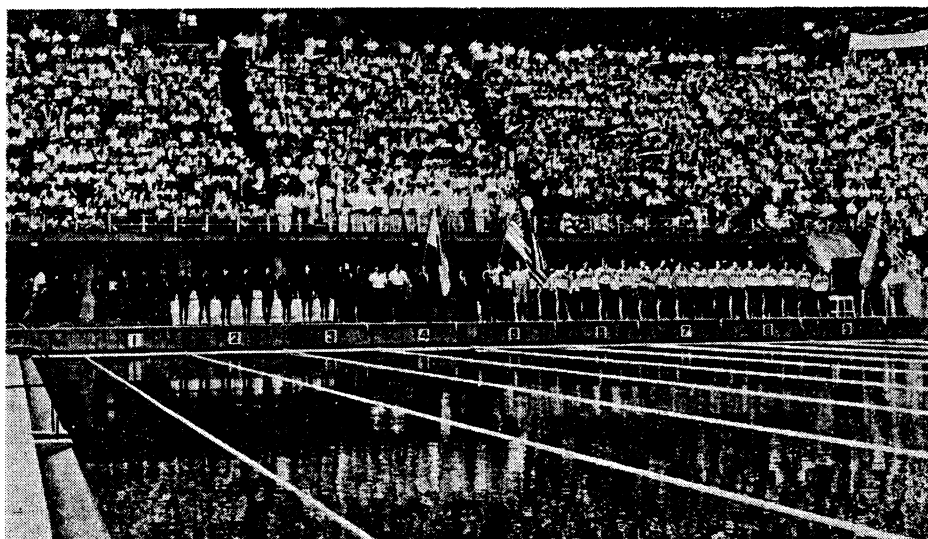
- 1. マッキニー (米国) 1:04.4
- 2. ビティック (米国) 1:05.6
- 3. 長谷景治 (日本) 1:06.4
- 4. ベネット (米国) 1:06.6
- 5. 富田一雄 (日本) 1:06.8
- 6. 才野武士 (広島) 1:09.4
- 7. 片岡輝男 (広島) 1:10.2

800mリレー

- 1. 日本 (山中, 福井, 藤本, 見上) 8:25.7
(2:02.7 4:10.3 6:17.8)
- 2. 米国A (ファーレル, レンズ, ブリーン, トロイ) 8:42.8
(2:08.7 4:19.2 6:30.6)
- 3. 米国B (ラーソン, レガッキ, ベネット, パートン) 9:06.9
(2:13.6 4:27.9 6:44.0)

400mメドレーリレー

- 1. 米国A (マッキニー, クラーク, トロイ, ファーレル) 4:14.2
(1:03.2 2:17.8)
- 2. 米国B (ベネット, マンシュ, ラーソン, アルカイア) 4:16.7
(1:04.9 2:19.6 3:30.4)
- 3. 日本 (長谷, 増田, 開田, 石原) 4:21.2
(1:06.2 2:20.1 3:22.4)
- 4. 日本 (富田, 木村, 那須, 見上) 4:32.8
(1:08.6 2:30.2 3:35.2)



盛会だった呉大会 (写真は入場式)

米チームに対するアンケート

- ① 日本滞在中楽しかった点、不愉快な点。
- ② 日米大会において気のついた点。
- ③ ローマ・オリンピックにおいて一番の強敵は誰か。

1) W. ケーシー (コーチ)

- ①日本人の親切が嬉しかったことと、プリンスホテルの日本式庭園。
- ②日本チームは試合前のウォームアップを始める時間が早過ぎるのではないだろうか。その他なし。
- ③すべての出場国。

2) G. ブリーン (キャプテン) (自・長)

- ①我々米国チームのために日本の多くの人が全力を尽くして呉れたこと。これで充分。
東京大会から大阪大会迄にもう少し時間の余裕が欲しかった。
- ②良いスプリンターが少ないのは惜しまれる。
試合の前に注射をうつことは理解できない。
- ③ローズ, 山中, ソマーズ, コンラッツ, ブラック。

3) J. ファーレル (副キャプテン) (自・短)

- ①競技会に大勢の人が見に来て呉れたこと。
- ②友好的であるし、競争相手としてもよい選手達。しかし注射を打つのは理解できない。
- ③デヴィット, チャプマン,

4) D. ハーパー (飛込)

- ①競技会を見ることと、買物。満足。
- ②彼等との生活は楽しい。うまくやっている。
- ③トビアン。

5) A. ソマーズ (自・長)

- ①西洋文化と東洋文化の素晴らしい調和。多くの人々の親切、もっと東京の見物がしたかった。
- ②試合中に少し興奮し過ぎる。
- ③ローズ, 山中, コンラッツ, ブラックその他。新人が出て来るだろう。

6) B. パートン (バタフライ)

- ①我々のために尽くして呉れた素晴らしい人が多かったこと。
- ②非常に良いコンディションで試合に臨んでいる。
- ③トロイ, 那須。

7) F. レガッキー (バタフライ, 自・短)

- ①競技大会が素晴しかった。
- ②すべて素晴らしいが、試合前に注射を打つのは好いとは思わない。我々は何もしないし、又注射をしようとは思わない。
- ③アルカイア, ファーレル, フォレット, デヴィット, チャプマン。

8) E. レンズ (自・長)

- ①日本人の親切と競技会、すべて素晴らしいし、別に変えるところもない。
- ②試合前に注射を打つということはやるべきことではないと思う。競争者の互のけんせいが競技の興味をなくすのではないだろうか。
- ③山中, ソマーズ, ローズ, コンラッツ, ブリーン。

9) F. マンシュ (平)

- ①競技会に多くの人が見に来て呉れたこと、すべて満足。
- ②医師から競技の前に注射を受けているが良いこととは思えない、その他の点ではすべて素晴らしいし、親しみやすい人達だ。
- ③増田。

10) E. フォレット (自・短)

- ①国際劇場で見た夏の踊り。
順序立て、東京見物がしたかった。
- ②別がない。
- ③デヴィット。

11) J. アルカイア (自・短)

- ①親切な日本の色々な人に会えたこと。
- ②皆好い選手だ。
- ③デヴィット, ファーレル。

12) F. マッキニー (背)

- ①4年前に来た時の日本と今度の変化に興味があった、練習プールとして神宮プールをもっと充分に使用させて欲しかった。(以下78頁へ続く)

春期強化合宿の医学的考察

医 事 委 員 会

は し が き

3月29日より4月8日まで10日間にわたって行われた春期競泳強化合宿で、一般検査、背筋力、握力、尿PH、尿蛋白、ドナチオ反応、フリッカーテスト等について測定を行い、4月7日参加水泳部長と座談会を開き水泳医事に関して懇談したが、その時の質疑等を参考に簡単に検査結果をとりまとめて報告し、二、三の意見を加えて見たいと思う。

検 査 結 果

表1, 2はそれぞれ身体計測値である。これを一般平均(表3)と比較してみると、勿論平均より上廻っているし当然そうならなくてはならない。しかし水泳に必要な比胸囲($\frac{\text{胸囲}}{\text{身長}} \times 100$)、肺活量に2, 3名平均に近い者或

は平均以下の者が見られる。参考迄にスポーツマンの肺活量をあげてみると、一般人3,250, 蹴球4,200, 体操4,500, 拳斗4,800, 水泳4,900, ボート4,450 c.c. (100名同一身長平均, ウォリングゲンによる)であって、今回の参加選手が若年者とはいえ肺活量の平均が水泳人としての平均以下であることは遺憾である。

表4は体重の増減であるが、男子は一時増加後減少、女子は一時減少後徐々に増加の傾向にある。(毎日、一定時間に測定)しかしこれを各個にみると表5の如くで体重減少の傾向、或は毎日不定の者が女子によく認められた。

背筋力、握力については昼食後、フリッカーテストは午前練習終了直後、尿は毎朝及び午前練習帰舎後に排尿測定した。

背筋力は男子平均134.4kg, 女子92.1kgで、これを他

(表1)

参加選手の身体計測値 (男子)

氏名	年令	種目	身長(cm)	体重(kg)	比体重	胸囲(cm)	比胸囲	胸囲差(cm)	肺活量(cc)
森 本	14.7	自由形	164.0	60.1	36.6	87.0	53.0	6.5	4300
松 本	15.6	平 泳	169.0	58.3	34.5	84.0	49.7	9.0	4160
山 田	15.9	自由形	167.2	60.7	36.3	93.6	56.0	7.0	5000
葉 室	15.9	〃	170.5	62.5	36.7	85.5	50.1	8.5	3800
乾 野	15.10	バタフライ	162.8	64.0	39.3	84.0	51.8	5.5	4200
富 沢	15.11	自由形	157.6	54.7	34.7	84.5	53.6	12.5	4200
崎 久 保	15.11	〃	172.1	63.1	36.7	83.0	48.2	9.3	4780
岩 本	16.11	バタフライ	172.2	67.3	39.1	93.0	54.0	6.0	5120
松 木	17.2	自由形	163.7	58.4	35.7	85.0	51.9	5.0	4060
国 清	17.4	背 泳	173.6	66.2	38.1	98.0	56.4	8.5	4800
樋 口	17.5	平 泳	166.3	54.8	33.0	86.0	51.7	7.5	3600
和 気	17.5	〃	173.5	69.9	40.2	91.0	52.4	5.0	4560
島 田	17.6	自由形	169.1	63.0	37.3	86.5	51.2	6.5	4100
中 坊	17.11	〃	170.3	66.3	38.4	89.5	52.6	5.0	3840
小 我	18.1	バタフライ	162.2	60.8	37.5	88.0	54.3	7.5	4700
竹 本	18.3	自由形	168.0	71.9	42.8	89.5	53.3	7.0	4800
広 瀬	18.3	背 泳	175.8	62.8	35.8	88.5	50.3	7.5	5100
見 上	18.4	自由形	167.7	70.1	41.8	89.0	53.1	6.5	4840
梅 本	18.5	〃	172.6	64.1	37.1	91.0	52.7	4.5	5120
古 木	18.7	〃	165.3	58.0	35.1	87.5	52.9	2.5	4900
西 沢	18.8	〃	172.0	70.9	41.2	91.5	53.2	3.0	4400
浅 野	18.9	〃	170.6	58.3	34.2	85.5	50.1	7.0	4520
平 均			166.8	63.0	37.8	88.2	52.9	6.2	4536.3

(表3) 年齢別身体計測値(33年度学校衛生統計による)
男子

年齢	身長	体重	比体重	胸囲	比胸囲	肺活重
12	140.2	33.8	24.1	68.5	48.9	2380
13	146.3	38.5	26.3	71.7	49.0	2520
14	153.0	43.8	28.6	75.6	49.4	2890
15	159.8	50.1	31.4	79.6	49.8	3200
16	162.4	53.3	32.8	82.1	50.6	3430
17	163.9	55.3	33.7	83.7	51.1	(3746)
18	163.5	55.8	34.1	84.4	51.4	(3824)
19	163.5	56.2	34.3	84.4	51.4	(3866)

女子

年齢	身長	体重	比体重	胸囲	比胸囲	肺活重
12	142.2	36.0	25.3	69.5	48.9	2000
13	146.6	40.4	27.6	73.1	49.9	2100
14	149.6	44.3	29.6	76.1	50.9	2190
15	152.1	47.3	31.1	78.3	51.5	2260
16	152.8	49.1	32.1	79.8	52.2	2320
17	153.3	50.1	32.7	80.7	52.6	2350
18	153.9	50.4	32.7	81.5	53.0	(2590)
19	153.9	50.7	32.9	82.0	53.3	

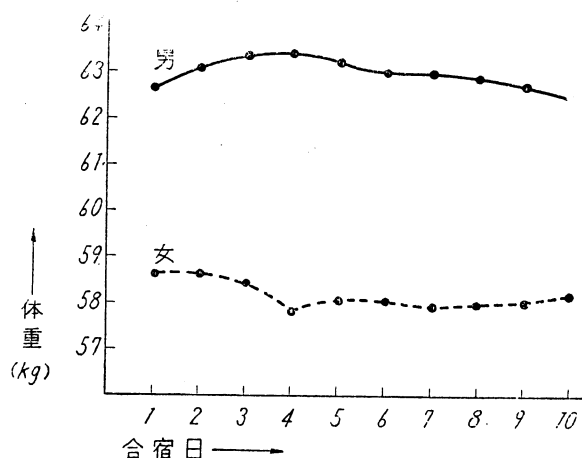
()内は吉田氏統計による

と比較してみると一般130, ボート151, 陸上競技168, 柔道167, 力士171kgでスポーツマンとしては大変劣っている。

背筋力の増減に関しては, 合宿2第日目やや低下し, その後大体漸増の傾向(表6)を示しており, 握力は(7表)同じく第2日目にやや低下の後, 大した変動は見受けられない。この第2日目の低下は, 練習や合宿そのものに不馴れのために起った現象ではないかと考えられ, その練習後によって特によく使用される背筋群が漸次強くなってきたと考えられる。次に尿の測定結果であ

表4. 表体重の変化

男62.6 63.1 63.3 63.4 63.2 63.0 63.0 62.9 62.7 62.5
女58.6 58.6 58.4 57.8 58.1 58.0 57.9 58.0 58.0 58.2



(表2) 参加選手の身体計測値(女子)

氏名	年齢	種目	身長(cm)	体重(kg)	比体重	胸囲(cm)	比胸囲	胸囲差(cm)	肺活量(cc)
斎藤	14.1	自由形	156.0	52.1	33.4	77.5	49.7	4.5	3000
大岩	14.11	背泳	163.2	59.1	36.2	82.0	50.2	5.5	2940
江坂	15.4	自由形	163.5	61.0	37.3	85.0	52.0	4.0	3400
浜中	15.7	平泳	169.0	61.0	36.1	79.5	47.0	4.0	3220
松永	15.8	背泳	158.7	53.9	34.0	79.0	50.8	5.0	3200
森下	15.11	バタフライ	153.4	54.1	35.3	80.5	52.5	5.5	3020
虎野	16.5	自由形	164.6	61.8	37.5	90.0	54.7	6.5	3800
田中	17.1	背泳	156.0	58.0	37.1	80.5	51.6	3.0	2800
芝原	17.2	自由形	164.1	66.9	40.8	92.0	56.1	4.0	4000
千葉	17.2	"	161.1	57.4	35.6	81.5	50.6	4.5	2400
西田	17.3	平泳	150.4	56.9	37.8	83.5	55.5	6.5	3000
小畑	17.5	自由形	163.2	61.3	37.6	85.0	52.0	8.0	3560
青木	17.11	平泳	155.7	55.7	35.8	85.0	54.6	3.0	2420
恩地	18.2	"	153.7	52.3	34.0	78.5	51.1	3.0	3220
中西	18.5	自由形	157.8	58.1	36.8	89.0	56.4	3.0	2720
田淵	18.6	背泳	154.5	59.4	38.4	83.5	54.0	3.0	2300
平均			159.0	58.1	36.5	83.3	52.4	4.6	3062.5

表 5

型	特徴	男	女
I型	体重増減なきもの	3	1
II型	一時減少後増加	7	0
III型	途中増加後減少	0	2
IV型	徐々に増加のもの	1	0
V型	徐々に減少のもの	4	7
VI型	毎日増減不足のもの	7	6

表 6 平均背筋力

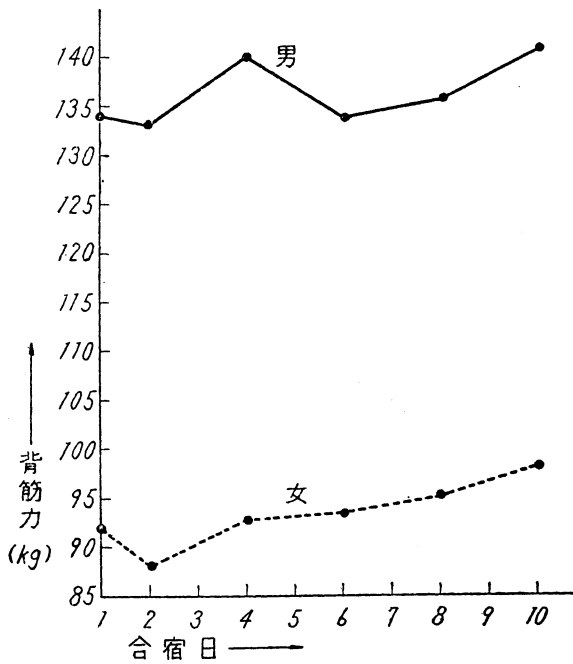
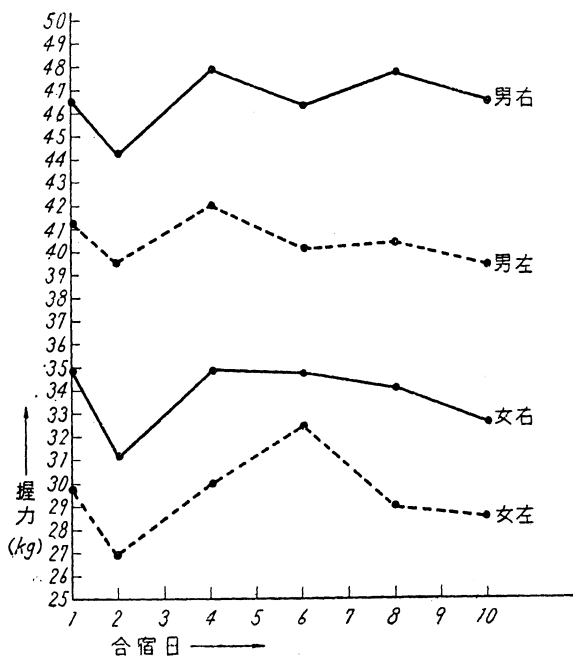


表 7 平均握力



るが、測定方法として、尿の酸度 (PH) (疲労すると尿は酸性に傾く) は PH 試験紙, ドナチオ反応 (1936年 Donaggio の発表したもので、疲労測定法中重要なもの。尿または脊髄液にチオニン色素溶液及びモリブデン酸アンモン溶液を加えると色素は完全に沈澱するが、疲労した人では沈澱は阻止されて液柱に色がつく。種々変法あり) は佐藤氏法, 尿蛋白 (疲労すると尿に所謂疲労性蛋白が現われる) はズルフォサリチル酸スピーグレル氏試薬を用いた。その結果は、PH は (表 8) 漸次酸性に、ドナチオ反応では (表 9) 漸次高位点に上昇し、その内合宿第 1 日より 2 日目朝に到る変化が比較的是げしくあらわれ、体内代謝物質蓄積の増加を示している。尿蛋白 (表 10) については著しい変化は見られなかった。

又フリッカー値 (電気閃光を發し、その反応を眼のちらつきによって判定するもので一種の精神的疲労を測定するもので、中等度の運動では上昇の傾向を示し、強度の運動では低下するといわれている) (表 11) はやや上昇の傾向を示している。

その他睡眠状況については、大部分よく眠れたといっておるが、第 1, 2 日目に、風が強く窓の音がする、ふとんが落ちる、暑い、馴れぬ等の理由でよく眠れなかった者、或は合宿中理由なく眠れなかった者も居った。睡眠の環境に注意すると共に充分睡眠をとって疲労を回復する方法を考える必要がある。

食事は、男子はうまくて適当であったといっているが、女子に量が多すぎる者がいた。カロリーは 1 日約 4,000 カロリー前後と思われるが 献立表の提出のみで、この点栄養士とも連絡をとって、スポーツマンの栄養面の研究を進めたいと思う。女子の月経に関しては水泳による悪影響はないと思われる。

ま と め

以上検査結果を総括してみると、一般検査上、水泳に

表 8 尿 平均 PH (毎朝検査)

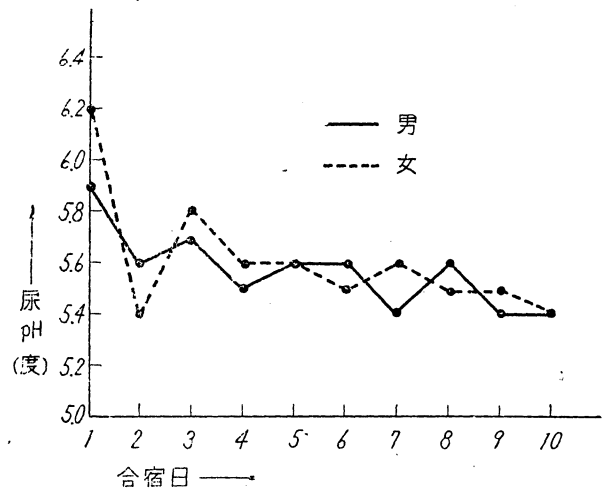


表9 ドナデオ反応 (佐藤氏法)

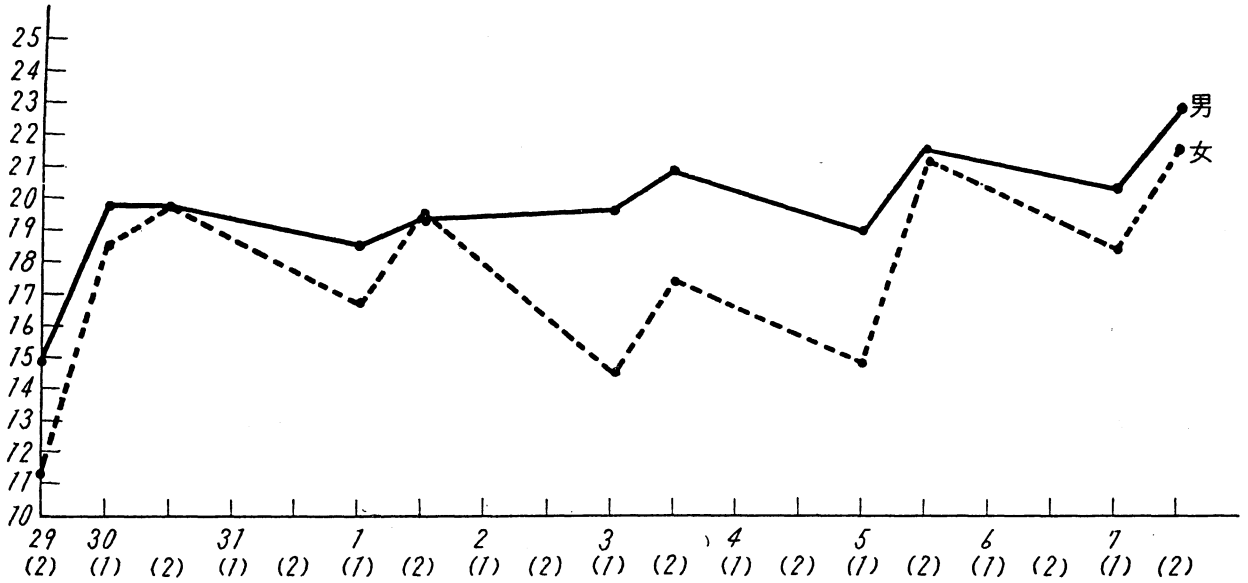
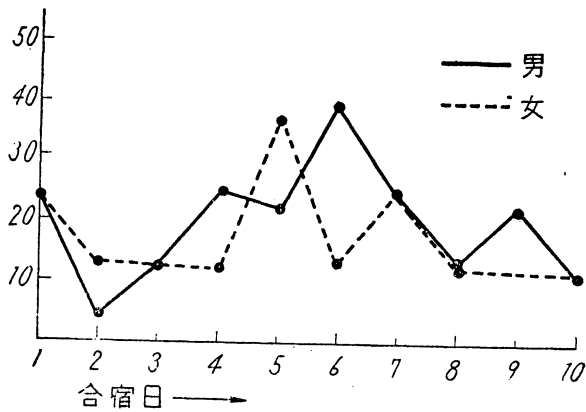


表10 尿蛋白出現率



強調した体操の不徹底を痛感する。

今年のシーズンオフには充分このことに意を用いて頂き度いと思う。

又今回の合宿全体にわたってみると、今回の強化合宿によって体内代謝物質の蓄積は漸増する傾向は認められたが、筋そのものは逆に強化合宿によって大いに鍛錬されたように思考される。

医事委員構成メンバー

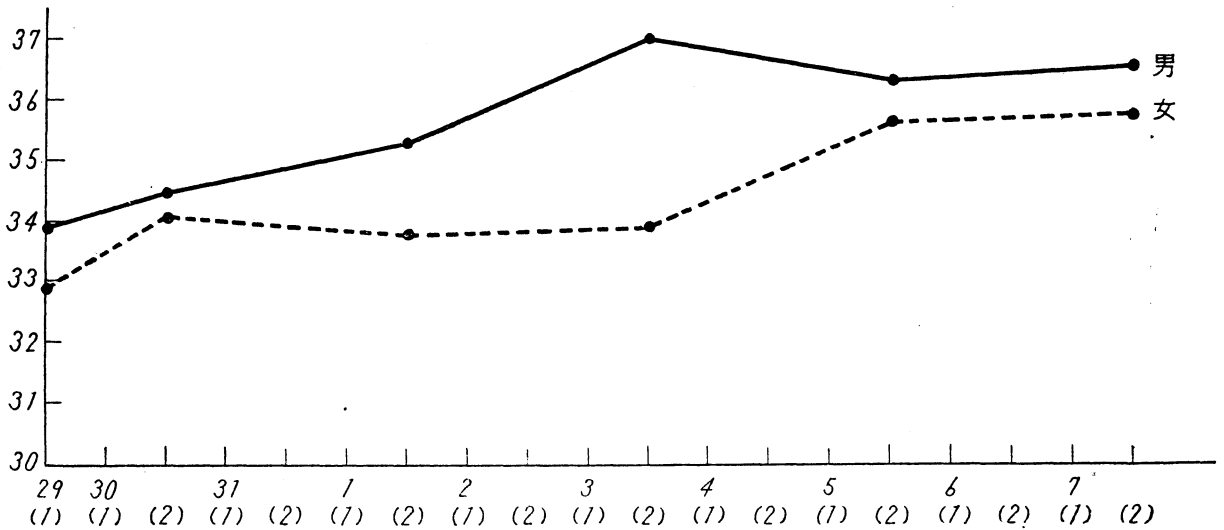
東京教育大学体育学部運動医学研究室
 教授 豊田 章
 助教授 平井 淳
 助手 勝村 竜一

日本医科大学整形外科

清川 誠一
 柄田 幸徳
 (常務理事 医事委員長)

必要な胸囲、肺活量、背筋力が他のスポーツと比較して一般に劣っているのみか、中には一般平均以下の者が二、三認められ、冬の間のトレーニングの不足、昨年来

表11 フリッカー値



早慶・三大学・日中の三対抗競技をみて

宍 道 洋 一

今年は室内選手権大会が4月に行われたので、これから述べる三対抗競技がシーズン始めとはいえないが、青空の下で行われる競技としては今年最初であるし、やはり早慶、三大学といえば本格的なシーズン開幕といってよいだろう。つゆ時にもかかわらず、三試合とも比較的好天に恵まれコンディションは先づ良い方であった。

第31回早慶対抗 慶応は昨年より選手がぐっと少なくなり新人の補充も取上げていう程のこともないので、勝負は最初から問題ではなかった。たゞ4月の室内選手権で元気だった主将二宮の活躍と、早稲田のホープ、山中の出来栄や新人梅本（五条高出）、北原（伝習館高出）等の初陣振りが期待された。特に山中は合宿中既に1500mで17分台をマークしていたので、或は希望ももたれたのであったが、期待通り彼は見事日本新を出して万丈の気をはいた。公認記録を僅か0.7秒縮めただけであるが、この公認記録は昨年彼が絶好のコンディションにあって、強敵コンラッズと対したときのものであり、今度の日本新はシーズン早々で水温も彼としては苦手な22°

位であったことを思えば、十分賞讃に値するものといえよう。今回の記録は左に示すように前半が極めて好調であるのに反し、1000m以下が落ちているのが特徴だが、今夏宿敵ローズと対戦しなければならない彼としては、前半のペースを如何にして後半にもちこたえるかが大きな課題である。このことはコンラッズの世界記録をみる時更にその感を深くする。

梅本は大学生としては新人だが五条高校時代から頭角を表わし、昨年はアジア大会の代表選手にもなったベテラン的風格の新人である。4月の室内選手権では余りさえなかったが、今回は400、1500に出場、4:41.5、18:56.8の好記録で2着となった。シーズン始めとしてはともに堂々たるものであろう。体に恵まれ、豪快な泳ぎであるが、もう少しピリッとしたところがほしい。何れにしても福井、藤本等と共にローマ大会の有力候補であるから、山中等にもまれて大成してもらいたいものだ。

期待された新人北原も梅本と同じく高校時代から第一線の存在であったが、昨年より進歩が止ったようだ。高校時代に強かった選手で大学に入ってからシボんでしまう選手がよくあるが、そんなことにならないよう折角精進してもらいたいものである。

自由形の100、200は両校とも同じような実力の選手ばかりだったので試合として面白かった。100は慶の古川が早の十河、福井に対して善戦を期待したが、その古川が振わず、かえって新人の清水（長崎東高出）が予想外の活躍をして2位に喰いこんだのは、番狂わせであった。200でも清水は早の福井、北原を抑えて3位に喰いこむなど、仲々の善戦振りであった。彼は一般にはあまり知られていない新人だが、泳ぎもするどく、試合負けしない度胸は見上げたものである。人の少い慶応チームの貴重な存在だから大いに奮起してもらいたい。

100背は慶応唯一の優勝種目であったが、優勝者二宮は100自にも出るなどの無理があつてか、記録は低調であった。

慶応は少い選手ではあったが、一人一人が善戦してレースを棄てなかったのは好感もてる。だが出場者僅か

	山 中		コンラッズ
	今 回	33年 8 月	(公認世界記録)
100	1:05.1	1:07.3	1:04.5
200	1:11.6	1:12.3	1:10.3
300	1:11.6	1:12.4	1:09.2
400	1:12.2	1:12.5	1:10.5
500	1:12.1	1:14.5	1:10.0
600	1:11.9	1:11.0	1:10.0
700	1:11.9	1:13.0	1:10.3
800	1:11.3	1:12.1	1:09.7
900	1:12.5	1:13.2	1:10.4
1000	1:13.0	1:12.6	1:10.3
1100	1:13.4	1:12.3	1:10.6
1200	1:13.1	1:12.4	1:10.7
1300	1:13.7	1:13.4	1:11.5
1400	1:13.8	1:12.3	1:11.3
1500	1:08.8	1:05.4	1:09.6
	17:56.0	17:56.7	17:28.9

1名という種目が二つもあったことは何といっても淋しい限りである。かつてはインターカレッジで覇をとったこともあるチームである。何とか再建の方法はないものだろうか。

第24回三大学対抗 早慶戦の気風を山手夫人の乙にすましたものだとすれば、これは又下町のあんちゃんが鉢まき姿で踊り出てくるような気分の競技会である。勿論第一線選手を豊富に揃えた日大の優勝は不動のものであって、興味はむしろ立明の2位争いと、石原、石井(日)、那須(立)等がどのような力を示すかが問題であった。勿論新人も可なり出場するのだが、彼等が活躍するのは、旧人が少し強すぎるようだ。

本大会のヒーローは日大の石井であった。彼は今年から泳ぎに改良を加え、腕の突込みが非常にうまくなった。400に4:36.3、800に9:38.9の大会新を出したのもこのおかげでともに彼のベストである。すべり出しが快調でピッチも上るから、山中同様後半の落ちを是正すれば、相当なところ迄行けそうである。800のラップは次の通り。

100	1:04.8	500	1:14.4
200	1:11.4	600	1:14.6
300	1:13.4	700	1:15.0
400	1:13.5	800	1:11.8

ただ彼は古橋や山中のような体力を持ち合せてないから、技術の改良と精神力の涵養を人一倍心がける必要がある。

自由形の100、200は石原(日大)が特に光っていた。100では久し振りに57.6の声を聞いたし、200でも林を完全に抑え2:09.9で優勝した。これはともに彼のベストであるが100の57.6は昨年の世界ランキングで漸く20位であるから、国際的にもう一步というところまで来たわけだ。併し、スプリンターらしい泳ぎをするのは彼一人であり、今後の精進如何では57秒の関門を割ることはそれ程難事ではなからう。昨年のインターカレッジの勝者山本(明)が1分も切れずに5位に止ったのはどうしたことか。

200バタの那須(立)は大出来であった。100で増永に一長身おかれていたのを、150でとらえ、みるみる中に抜いて鮮かに優勝した。極めてスムーズな無駄のない泳ぎで、往年のスタスフォース(米)を思わせるものがあるが、前半の1:07.9は何としてもおそすぎる。20秒を切るにはどうしても1:05.0ではいねば無理であろう。増永(日)は不出来だったというより他はないが、日大の

新人中島(鹿本農出)が2:26.4の好記録で3位に喰いこんだのは注目してよい。上下動の多い泳ぎであるが、積極果敢に泳ぐ気持は大いに結構である。4月の室内選手権でも100バタに1:04.7のベストを出しているから今年も増永、開田、那須につづく勢力として注目されよう。

200平は日大のトリオが圧勝した。この一角を崩し得るものは以前なら豊池(立)であるが今の彼は元気なく、50秒も切れずに5位となった。増田(日)はギャザコールばりの浮き沈みのない安定した泳ぎで優勝したが、2:44.4はちよつと物足りない。増田あたりが早く40秒の線を割ってもらわないと、日本の御家芸も安たいとはいえない。39秒から秒41前後がヨーロッパにひしめいているから。

100背は本命富田(日)が病後で元気なく渡辺(日)が代って優勝した。彼は元気に泳ぐが昨年より余り進歩したとは言えないようだ。3着となった立大の才野は記録は1:09.1で大したことはないが昨年から見ると非常な進歩である。選手の少い立大では那須、山口等とともに大事な人であるから、大いに精進してもらいたい。

日大が106点の大量得点で優勝したことは別として選手の少い立大が明治を10点も引きはなして2位となったのは賞されてよい。明治は相当数の選手を擁し乍ら、斗将大谷の病氣、山本、俵口の不振がひびき個人種目で3位以内になったのは800の坂梨一人という状態であった。これに反し立教は豊地の不振は別として、那須の殊勲と、林、山口、胡井、大野等の活躍で昨年と同じく38点で2位となった。なお最近10年間の本競技の得点は次の通りで本年は日、立は戦後のベストであり、明治は最も不成績の年であった。

昭和25年	日	104	明	33	立	13
" 26年	日	90	明	55	立	5
" 27年	日	86	明	35	立	29
" 28年	日	84	立	37	明	29
" 29年	日	68	明	46	立	36
" 30年	日	88	明	52	立	32
" 31年	日	81	明	55	立	36
" 32年	日	98	明	38	立	36
" 33年	日	102	立	38	明	32
" 34年	日	106	立	38	明	28

第4回中、日対抗 本対抗も回を重ねること今年で4回となり前述の対抗戦とともに漸くその重要性が認められて来たようである。中央大学は今春新人の大量入学があってその勢力を大いに増大し、対抗競技としては最も

充実したレースを展開するものと期待されたが、結果は142-86の今迄と同じような成績に終わってしまった。日大は三大学の余勢をかって臨み、石原、増永、富田の不振等があったが、元氣一杯の石井を始め、自由形の石原、北畑、一色バタの中島、背の渡辺等が順当に働いたのに反し、中大は新人見上の発熱、古木の不元氣などが祟り、バタの開田、平泳の篠田の奮斗もむなしく、予想外の低点で日大に名をなさしめた。

石井は三大学当時に劣らず元氣に泳いだ。1500は次に示すような15秒前後の安定したラップで泳ぎ18:27.5のベストを記録した。昨年のアジア大会でも大体同じような18:28.8を出したがそのときのラップを今回のと比べてみると、ペースが安定したことがよく分る。

昨年のアジア大会		今回
100	1:05.0	1:05.0
200	1:11.4	1:11.3
300	1:13.3	1:13.1
400	1:13.9	1:15.2
500	1:14.6	1:15.0
600	1:14.2	1:14.9
700	1:14.6	1:15.1
800	1:14.4	1:14.8
900	1:14.6	1:15.2
1000	1:14.9	1:15.4
1100	1:15.6	1:14.9
1200	1:16.1	1:15.1
1300	1:15.9	1:14.8
1400	1:16.5	1:15.9
1500	1:13.8	1:11.8
18:28.8		18:27.5

この種目では新人の一色(日)浅野(中)が3,4着を極めて注目を引いたが、期待された古木(中)は昨年の軽快な泳ぎが崩れ記録もよくなり5位に止まった。400の石井は藤本(中)との接戦が予想されたが、100, 200, 300と少差で藤本につづいた石井は350から一気に抜き、2米半の水をあけて藤本を抑えたあたり、堂々たる勝ちっぷりであった。2位の藤本も決して悪い出来ではなかったが、気力においても実力においても石井の方が一歩先んじていたといえよう。

200では藤本がはじめから石原、林の日大陣をリードして難なく勝ったが2:07.7は彼としては平凡な出来であった。100は期待された石原(日)が振わず中大の中谷に優勝をさらわれるという番狂わせがあったが共に58秒台というお粗末なものであった。新人の見上(中)は

発熱後のため振はず100で6位、200で5位をしめたに過ぎなかった。古賀、谷、鈴木等の引退後不振をきわめる短距離陣で、石原、中谷、見上の3人はとも角大きな期待をもたれているのであるから、大いに自重してもらいたい。

バタフライは両種目とも開田(中)が増永(日)を抑えて勝った。100も200も最初からリードして自信のある所をみせたが、200の前半1:07.9は三大学対抗の那須と偶然にも同じで、何としても遅すぎる。増永も開田につられて、おそいペースでつづいたが、開田は180位で稍浮き気味となり増永に大分つめられた。このあたりは、2人ともまだペースを呑みこんでいない証拠で、まだまだ研究の余地がありそうである。

平泳は中大の篠田が日大の誇る堅陣の一角を切り崩して、100, 200とも2位に喰いこんだことは大いに賞讃されてよい。彼の泳ぎは極めてバランスがとれており、ピッチもよく上るからシーズンが深まるにつれてよい記録が期待できるだろう。

背泳は100, 200をともに日大の渡辺、富田が仲よく分けあった形だが、100を1:06.6で泳げる渡辺が200となると2:33.5もかかるとはどうしてもうなづけない。

800リレーは第3泳者迄日大にリードされた中大がアンカー藤本の逆転で大会開始以来始めて勝ったが、その記録も8:42.4という単独チームとしては最優秀のものであった。

× ×

三対抗競技は大体以上のような次第であったが、4月に行われた室内選手権を含めてシーズン始めの総合成績をまとめてみよう。

先づ問題の自由形短距離であるが100では石原(日大)、見上、中谷(中大)の3人が稍抜きんで来たが、トップの石原が57.6だから国際的にはまだまだである。十河、福井清(早)古川(慶)の3人が58秒台でこれにつづいているが果してどうなるか、結局これら6人の中から日米選手、ひいては来年ローマの代表が選ばれることになるだろうが目前の日米を考えてみても少し心もとない気がする。

200は九州で福井誠(八幡製鉄)が早くも2分6秒台を出し、藤本が7秒台を確実にしているから、これに石井、石原、山中を加えた陣容は可なりのもので800リレーの世界新もあながち夢ではなさそうだ。

中長距離は山中を先頭に石井、藤本、福井誠、梅本等が着実に進歩しているから大いに楽しめる。これにまだ

(以下62頁へ続く)

千葉県水連の声

千葉県水泳連盟会長

川 名 正 義

東京オリンピックが決定されて御同慶の至りです。それだけスポーツ関係者は責任が増大し苦勞が加速されるだろう。殊にメーンスタンド受持の陸連と国民の最大の期待をもつ水連は成績の善悪が鼎の輕重を問われることが判りきっているだけ始末が悪い。

敗戦後の教育界の変制でスポーツの自由を失った生徒のため、当時地区水連会長で教育委員であった東京の松沢君、埼玉の大野君達と相談して古橋君の超人的スポーツによる日本再興に寄与した後継者をつくろうと水泳の弱い関東地区の各都県に公認プール建設と高校水泳大会開催を順次実現し、一般都県民の水泳熱を再興しようとまづ第1回大会を千葉県で開いてから10年になり、一応関東各都県にプールもでき、第2年目の第3回目の大会が本年栃木県で開かれることになったし、日本水連も全国的の行事に拡大されているので我々の初期の目的は一部達せられた。それと同時に小、中学生の水泳に力をそそぎ5年前、小学生2名をつれフィリピンに根上君と行ったが未だ小中学生の競技に対する成績が思うようにあがっていないのは残念である。現在の教育法では中

学生は全国大会が開けず小学生は他校と試合することを禁じられている始末でどうにもならない。今年は是非とも我々の数年来主張して来た中学生の全国大会が公然と開けるよう日本水連、体協共々国民の声として強力に文部省に働きかけ実現できるよう期待してやまない。又地方でも県下大会や地方大会をやって小学生に水泳競争の精神と体力を涵養し若い年代層の拡大が何より必要である。殊に水泳においては日本の先輩がオリンピックに示しており又世界水泳界の平均年齢を見ても明かである。層が厚くなれば誰かオリンピック級の子供が見出せる率が高くなる。最後に御願は水泳コーチについて高石君達と古くから考えていることだが地方によき指導者をより多くつくることである。この点日本水連から時々出張させてほしいが時間的にも経済的にも仕事の上からも困難であろうことは承知しているが実行してもらいたい。どうも私の処は小中学生は相当な成績をあげられるが、高校大学になるとどうも思ったようにのびてこない者が多いが何とか良い考えがあったら教えてもらいたい。直接でも紙上でも結構です。雑言多謝。

(61頁より続く)

調子が出ていない北畑、丸山、それに新人として一色(日大)、浅野、古木(中大)等にも期待が持てそうである。しかし太平洋の向う側では山中の好敵手ローズが素晴らしく元気で1500に17分40秒台の彼としてのベストに近い記録を出しているから山中も余程頑張らないと打倒ローズの念願を果せないことになる。

平泳は過去の歴史が花々しいだけに現状では心配だ。2分45秒前後でまごまごしていると日米はとも角来年のローマに間に合わない。新人の大崎(早)篠田(中)等に期待せざるを得ないが、今年のうちに40秒の壁を打ち破らなければ、ローマでの日の丸は六ヶ敷しい。

日本のバタフライは強いという定評であったが、その

頂点にあった石本が現役を退き、つづく増永、開田、那須が2分22~3秒を低迷している間に米国の新人トロイが2分18秒6の世界新を作ってアッといわせた。平泳よりは希望が持てるが、当面の日米対抗が試金石となる。

背泳は二宮(慶)の5秒台、渡辺(日)の6秒台では、米国に対しても太刀打できない。実社会に出た長谷がどの程度だか不明だが、彼を頼りにするようでは誠に不甲斐ない次第だ。といってこれといった新人も見当たらないのが現状だ。高校生の高嶺、石橋、国清、酒井等に期待するより他の手はなさそうである。

(筆者は本連盟常務理事、記録委員長)

昭和34年度日本選手権水上競技大会

7月10日11日12日 神宮プール (50m公認)

気温 水温

男子の部

100m自由形

予選 A組

1. 古川 徹	(三水会)	58.9
2. 福井 清	(稲泳会)	58.9
3. 遠藤 陸夫	(法泳会)	59.8
4. 稲垣 初穂	(桜泳会)	1:00.7

B組

1. 石原 勝記	(桜泳会)	57.7
2. 杉本 汎史	(桜泳会)	1:00.7

C組

1. 十河 英記	(稲泳会)	58.2
2. 古賀 学	(東京トヨベツト)	58.6
3. 簗原 友義	(桜泳会)	59.0
4. 見上 勝紀	(白水会)	59.1
5. 白井 克郎	(旭化成)	1:00.2
6. 岡田 洋一	(駿台ク)	1:00.6

D組

1. 近藤 至男	(勝村建設)	58.7
2. 清水 英利	(聖ポール)	1:00.2

E組

1. 中谷 庸彦	(白水会)	58.6
2. 中村 良三	(駿台ク)	59.5
3. 川岡 長身	(桜泳会)	59.7
4. 上田 尚孝	(法泳会)	59.9

F組

1. 清水 啓吾	(三水会)	58.6
2. 松岡 義郎	(桜泳会)	1:00.0
3. 林 正夫	(聖ポール)	1:00.0
4. 鈴木 英士	(白水会)	1:00.4
5. 山本 修	(駿台ク)	1:00.8

準決勝 A組

1. 中谷 庸彦	(白水会)	58.3
2. 石原 勝記	(桜泳会)	58.3
3. 清水 啓吾	(三水会)	58.9
4. 福井 清	(稲泳会)	59.1
5. 簗原 友義	(桜泳会)	59.3
6. 川岡 長身	(桜泳会)	59.9
7. 遠藤 陸夫	(法泳会)	1:01.1

B組

1. 十河 英記	(稲泳会)	58.1
2. 古賀 学	(東京トヨベツト)	58.1
3. 近藤 至男	(勝村建設)	58.7
4. 見上 勝紀	(白水会)	58.7
5. 古川 徹	(三水会)	58.9
6. 上田 尚孝	(法泳会)	59.8
7. 中村 良三	(駿台ク)	1:00.6

決勝

1. 古賀 学	(東京トヨベツト)	57.9
2. 石原 勝記	(桜泳会)	58.0
3. 見上 勝紀	(白水会)	58.0
4. 十河 英記	(稲泳会)	58.2
5. 中谷 庸彦	(白水会)	58.6
6. 近藤 至男	(勝村建設)	58.6
7. 清水 啓吾	(三水会)	58.6

200m自由形

予選 A組

1. 見上 勝紀	(白水会)	2:10.2
2. 山口 安司	(聖ポール)	2:12.8
3. 川岡 長身	(桜泳会)	2:12.8
4. 清水 啓吾	(三水会)	2:14.1
5. 上田 尚孝	(法泳会)	2:14.1

B組

1. 藤本 達夫	(白水会)	2:09.4
2. 清水 英利	(聖ポール)	2:14.1

C組

1. 福井 誠	(八幡鉄)	2:06.8
2. 松岡 義郎	(桜泳会)	2:13.2
3. 三栖 謙造	(白水会)	2:13.9

D組

1. 鈴木 高行	(聖ポール)	2:14.1
2. 吉村 喜平	(旭化成)	2:14.7

E組

1. 中谷 庸彦	(白水会)	2:13.2
----------	-------	--------

F組

1. 近藤 至男	(勝村建設)	2:10.5
2. 遠藤 陸夫	(法泳会)	2:12.3
3. 簗原 友義	(桜泳会)	2:14.5

G組

1. 林 利博	(桜泳会)	2:12.9
---------	-------	--------

2. 岡田 洋一 (駿台ク) 2:13.2
3. 北原 一彦 (稲泳会) 2:13.4
4. 望月 清一郎 (白水会) 2:13.8

H 組

1. 十河 英記 (稲泳会) 2:10.8
2. 三浦 重忠 (宇部興産) 2:12.4
3. 芳野 真任 (八幡鉄) 2:13.5

決勝

1. 藤本 達夫 (白水会) 2:07.1
2. 福井 誠 (八幡鉄) 2:08.0
3. 十河 英記 (稲泳会) 2:08.3
4. 見上 勝紀 (白水会) 2:09.8
5. 川岡 長身 (桜泳会) 2:11.5
6. 近藤 至男 (勝村建設) 2:11.6
7. 遠藤 陸夫 (法泳会) 2:12.0
8. 山口 安司 (聖ポール) 2:12.0
9. 三浦 重忠 (宇部興産) 2:14.1

400m自由形

予選 A組

1. 山中 毅 (稲泳会) 4:29.0
(1:01.6 2:11.0 3:21.0)
2. 松木 登八郎 (三瀨高) 4:47.5
3. 三栖 謙造 (白水会) 4:47.9

B 組

1. 石井 宏 (桜泳会) 4:36.6
(1:04.0 2:14.0 3:25.8)
2. 三浦 重忠 (宇部興産) 4:45.6
3. 徳永 征一 (八幡鉄) 4:50.3
4. 北村 忠夫 (聖ポール) 4:55.8

C 組

1. 林 利博 (桜泳会) 4:48.9
(1:06.0 2:20.4 3:35.5)
2. 古木 輝巳 (白水会) 4:50.1
3. 坂梨 公昭 (駿台ク) 4:54.0
4. 藤田 昌計 (伊都高) 4:56.0

D 組

1. 北畑 昌英 (桜泳会) 4:40.7
(1:03.4 2:14.5 3:28.5)
2. 梅本 利三 (稲泳会) 4:43.6
3. 中坊 昌美 (伊都高) 4:49.1
4. 小野寺 正志 (法泳会) 4:49.1
5. 浅野 純孝 (白水会) 4:53.1
6. 山崎 恵介 (聖ポール) 4:54.4

E 組

1. 庄司 敏夫 (BSタイヤ) 4:42.9
(1:03.5 2:16.1 3:29.9)

2. 小笠原 勝司 (稲泳会) 4:51.3
3. 八木 清三郎 (桜泳会) 4:51.8
4. 石田 修一 (白水会) 4:54.3

F 組

1. 藤本 達夫 (白水会) 4:39.3
(1:04.0 2:14.7 3:26.9)
2. 丸山 長敏 (BSタイヤ) 4:41.5
3. 一色 讓 (桜泳会) 4:43.3
4. 芳野 真任 (八幡鉄) 4:53.4
5. 鈴木 高行 (聖ポール) 4:57.1
6. 森江 重雄 (法泳会) 4:58.6
7. 北条 進一 (駿台ク) 4:59.8

G 組

1. 福井 誠 (八幡鉄) 4:34.1
(1:02.0 2:10.8 3:22.2)
2. 北原 一彦 (稲泳会) 4:48.6
3. 山口 安司 (聖ポール) 4:48.9
4. 吉村 喜平 (旭化成) 4:51.2
5. 坪田 暲 (白水会) 4:56.9
6. 南垣内 章文 (駿台ク) 4:57.8

決勝

1. 山中 毅 (稲泳会) 4:25.1
(1:01.6 2:09.3 3:18.0)
2. 福井 誠 (八幡鉄) 4:31.0
3. 藤本 達夫 (白水会) 4:34.6
4. 梅本 利三 (稲泳会) 4:36.8
5. 石井 宏 (桜泳会) 4:37.2
6. 丸山 長敏 (BSタイヤ) 4:38.3
7. 北畑 昌英 (桜泳会) 4:39.7
8. 庄司 敏夫 (BSタイヤ) 4:40.4
9. 一色 讓 (桜泳会) 4:44.1

1500m自由形

予選 A組

1. 石井 宏 (桜泳会) 18:32.1
(1:06.4 2:19.5 3:33.5 4:48.9 5:03.5
7:18.1 8:32.9 9:47.6 11:02.6 12:17.9
13:33.0 14:48.0 16:03.3 17:19.1)

2. 梅本 利三 (稲泳会) 18:51.9
3. 庄司 敬夫 (BSタイヤ) 18:58.6
4. 北畑 昌英 (桜泳会) 19:01.5
5. 一色 讓 (桜泳会) 19:14.8
6. 胡井 武人 (聖ポール) 19:17.7

B 組

1. 丸山 長敏 (BSタイヤ) 18:53.1
(1:06.0 2:19.0 3:33.3 4:47.4 6:02.3
7:17.0 8:33.4 9:50.7 11:07.1 12:25.4)

- 13:43.7 15:02.7 16:20.8 17:39.0)
2. 山中 毅 (稲泳会) 19:06.4
 3. 松木 登八郎 (三瀨高) 19:20.6
 4. 徳永 征一 (八幡鉄) 19:20.8
 5. 藤田 昌計 (伊都高) 19:31.4
 6. 南垣内 章文 (駿台ク) 19:34.5

C 組

1. 浅野 純孝 (白水会) 19:25.1
(1:08.1 2:21.8 3:37.3 4:55.0 6:13.1
7:31.8 8:51.0 10:10.7 11:29.7 12:49.8
14:09.3 15:29.6 16:48.9 18:09.5)

2. 古木 輝巳 (白水会) 19:26.0
3. 内山 敏 (駿台ク) 19:41.3

D 組

1. 八木 清三郎 (桜泳会) 19:24.0
(1:08.1 2:23.7 3:38.7 4:56.3 6:13.0
7:31.0 8:50.1 10:09.0 11:28.3 12:47.6
14:07.2 15:26.7 16:46.9 18:06.5)

2. 小笠原 勝司 (稲泳会) 19:42.3

決勝

1. 山中 毅 (稲泳会) 17:51.5
(日本新)
(1:04.5 2:14.7 3:25.2 4:36.6 5:47.5
6:59.8 8:12.0 9:23.8 10:35.6 11:48.7
13:01.2 14:14.5 15:28.2 16:42.0)

2. 石井 宏 (桜泳会) 18:35.3
3. 梅本 利三 (稲泳会) 18:36.9
4. 庄司 敏夫 (BSタイヤ) 18:36.9
5. 北畑 昌英 (桜泳会) 18:42.4
6. 松木 登八郎 (三瀨高) 19:04.1
7. 丸山 長敏 (BSタイヤ) 19:04.8
8. 一色 讓 (桜泳会) 19:11.0
9. 胡井 武人 (聖ポール) 19:24.5

100m平泳

予選 A組

1. 菊地 満隆 (富士鉄釜石) 1:15.9
2. 三木 圭三 (白水会) 1:17.8
3. 豊池 守 (聖ポール) 1:18.3
4. 木村 隆司 (川崎重工) 1:19.8

B 組

1. 和気 統 (瀬戸田高) 1:16.4
2. 杉山 明男 (北辰化学) 1:17.7
3. 中村 昌彦 (桜泳会) 1:17.7
4. 溝口 啓輔 (駿台ク) 1:18.1
5. 中田 馨次郎 (東筑高) 1:19.2

C 組

1. 山中 堂志 (白水会) 1:15.0

2. 中川 清 (稲泳会) 1:16.3
3. 高木 憲一 (五条高) 1:18.7
4. 木曾 雄吉 (聖ポール) 1:19.1
5. 鈴木 紘之 (三水会) 1:19.2

D 組

1. 増田 勲 (桜泳会) 1:14.9
2. 大崎 剛彦 (稲泳会) 1:16.2
3. 東 英明 (駿台ク) 1:18.9

E 組

1. 木村 基 (桜泳会) 1:16.1
2. 谷 讓二 (聖ポール) 1:18.1
3. 宮本 英 (白水会) 1:19.6
4. 杉山 隆 (伊都高) 1:19.9

F 組

1. 永井 正員 (桜泳会) 1:16.2
2. 篠田 博史 (白水会) 1:16.2
3. 宮下 宗重 (桜泳会) 1:16.6
4. 名倉 健藏 (SBタイヤ) 1:18.2

準決勝 A組

1. 増田 勲 (桜泳会) 1:15.4
2. 木村 基 (桜泳会) 1:15.6
3. 大崎 剛彦 (稲泳会) 1:15.8
4. 中川 清 (稲泳会) 1:16.2
5. 和気 統 (瀬戸田高) 1:16.4
6. 中村 昌彦 (桜泳会) 1:18.5
7. 三木 圭三 (白水会) 1:18.8

B 組

1. 永井 正員 (桜泳会) 1:15.8
2. 山中 堂志 (白水会) 1:15.8
3. 菊地 満隆 (富士鉄釜石) 1:16.0
4. 篠田 博史 (白水会) 1:16.3
5. 宮下 宗重 (桜泳会) 1:16.5
6. 溝口 啓輔 (駿台ク) 1:17.3
7. 杉山 明男 (北辰化学) 1:18.1

決勝

1. 木村 基 (桜泳会) 1:14.4
2. 増田 勲 (桜泳会) 1:14.9
3. 山中 堂志 (白水会) 1:15.0
4. 永井 正員 (桜泳会) 1:15.4
5. 大崎 剛彦 (稲泳会) 1:15.6
6. 中川 清 (稲泳会) 1:16.0
7. 菊地 満隆 (富士鉄釜石) 1:16.0

200m平泳

予選 A組

1. 永井 正員 (桜泳会) 2:48.1
2. 東 英明 (駿台会) 2:48.5

3. 佐藤行男 (稲泳会) 2:50.6
4. 西永清明 (法政二高) 2:51.7
5. 土居正克 (聖ポール) 2:54.6

B 組

1. 木村基 (桜泳会) 2:44.9
2. 中川清 (稲泳会) 2:47.3
3. 名倉健藏 (BSタイヤ) 2:50.9
4. 泉喜六 (法泳会) 2:52.3
5. 鈴木紘三 (三水会) 2:52.3
6. 福井甫 (清泳会) 2:54.9

C 組

1. 増田勲 (桜泳会) 2:42.7
2. 豊池守 (聖ポール) 2:51.5

D 組

1. 篠田博史 (白水会) 2:44.7
2. 大崎剛彦 (稲泳会) 2:45.3
3. 宮本英 (白水会) 2:54.1

E 組

1. 菊地満隆 (富士鉄釜石) 2:46.1
2. 山中堂志 (白水会) 2:46.4
3. 中村昌彦 (桜泳会) 2:50.5
4. 和気統 (瀬戸田高) 2:51.0
5. 溝口啓輔 (駿台ク) 2:51.2
6. 木曾雄吉 (聖ポール) 2:51.9

F 組

1. 宮下宗重 (桜泳会) 2:47.7
2. 高木憲一 (五条高) 2:50.3
3. 中田馨次郎 (東筑高) 2:50.6
4. 谷讓二 (聖ポール) 2:52.9
5. 木村隆司 (川崎重工) 2:53.6
6. 三木圭三 (白水会) 2:54.0

決勝

1. 大崎剛彦 (稲泳会) 2:43.3
2. 木村基 (桜泳会) 2:45.3
3. 増田勲 (桜泳会) 2:45.6
4. 篠田博史 (白水会) 2:46.9
5. 菊地満隆 (富士鉄釜石) 2:46.9
6. 中川清 (稲泳会) 2:47.2
7. 山中堂志 (白水会) 2:49.0
8. 永井正員 (桜泳会) 2:49.5
9. 宮下宗重 (桜泳会) 2:49.7

100mバタフライ

予選 A組

1. 那須純哉 (聖ポール) 1:03.6
2. 竹本克秀 (法泳会) 1:07.5
3. 三好恭弘 (白水会) 1:08.2

B 組

1. 小島英光 (法泳会) 1:07.1
2. 富安守弘 (三瀨高) 1:08.7
3. 富田紀久男 (桜泳会) 1:09.4
4. 小宮二三夫 (白木屋) 1:09.9

C 組

1. 増永文昭 (桜泳会) 1:05.0
2. 渡辺常也 (白水会) 1:06.5
3. 俵口頼康 (駿台ク) 1:08.2

D 組

1. 開田幸一 (白水会) 1:03.3
2. 吉無田春男 (稲泳会) 1:03.6
3. 中島功 (桜泳会) 1:06.1
4. 宮脇隆史 (法泳会) 1:06.5
5. 井上敦雄 (日大豊山) 1:07.2
6. 長谷川浩造 (八幡鉄) 1:08.1

E 組

1. 坂井逸次 (稲泳会) 1:02.5
2. 武市啓志 (桜泳会) 1:06.5
3. 吉田弘 (稲泳会) 1:06.5
4. 小戎紀一 (白水会) 1:06.6

F 組

1. 丸山高正 (BSタイヤ) 1:06.6
2. 水野信正 (法政二高) 1:08.9
3. 吉岡三博 (法泳会) 1:09.6
4. 若井英雄 (竜ヶ崎一高) 1:09.6

準決勝 A組

1. 坂井逸次 (稲泳会) 1:02.3
2. 増永文昭 (桜泳会) 1:02.3
3. 吉無田春男 (稲泳会) 1:03.5
4. 武市啓志 (桜泳会) 1:05.4
5. 丸山高正 (SBタイヤ) 1:05.7
6. 宮脇隆史 (法泳会) 1:07.1
7. 小島英光 (法泳会) 1:07.1

B 組

1. 開田幸一 (白水会) 1:03.2
2. 那須純哉 (聖ポール) 1:03.5
3. 中島功 (桜泳会) 1:05.3
4. 渡辺常也 (白水会) 1:06.7
5. 井上敦雄 (日大豊山高) 1:07.4
6. 小戎紀一 (白水会) 1:07.5
7. 吉田弘 (稲泳会) 1:07.9

決勝

1. 開田幸一 (白水会) 1:02.1
2. 坂井逸次 (稲泳会) 1:02.3
3. 増永文昭 (桜泳会) 1:02.9

4. 那須純哉	(聖ポール)	1:03.3
5. 吉無田春男	(稲泳会)	1:03.3
6. 中島功	(桜泳会)	1:05.6
7. 武市啓志	(桜泳会)	1:05.8

200mバタフライ

予選 A組

1. 増永文昭	(桜泳会)	2:29.3
2. 坂井逸次	(稲泳会)	2:33.8
3. 小戎紀一	(白水会)	2:36.2

B組

1. 中島功	(桜泳会)	2:28.1
2. 丸山高正	(BSタイヤ)	2:28.9
3. 吉田弘	(稲泳会)	2:30.6
4. 俵口頼康	(駿台会)	2:31.2
5. 渡辺常也	(白水会)	2:32.0
6. 小島英光	(法泳会)	2:34.1

C組

1. 吉無田春男	(稲泳会)	2:26.0
2. 開田幸一	(白水会)	2:26.8
3. 武市啓志	(桜泳会)	2:30.9

D組

1. 三好恭弘	(白水会)	2:33.5
2. 宮脇隆史	(法泳会)	2:38.3
3. 庄田信昭	(日大豊山高)	2:38.6

E組

1. 那須純哉	(聖ポール)	2:21.3
2. 富田紀久男	(桜泳会)	2:31.4
3. 長谷川浩造	(八幡鉄)	2:36.1

決勝

1. 那須純哉	(聖ポール)	2:21.1
2. 開田幸一	(白水会)	2:23.4
3. 増永文昭	(桜泳会)	2:24.6
4. 中島功	(桜泳会)	2:25.1
5. 丸山高正	(BSタイヤ)	2:25.6
6. 吉無田春男	(稲泳会)	2:27.5
7. 武市啓志	(桜泳会)	2:29.8
8. 吉田弘	(稲泳会)	2:30.3
9. 俵口頼康	(駿台ク)	2:32.8

100m背泳

予選 A組

1. 国清勲	(柳井商工)	1:08.7
2. 藤原浩	(法泳会)	1:10.2
3. 舟橋淑行	(稲泳会)	1:11.4

B組

1. 高嶺隆二	(宮之城高)	1:08.9
2. 広瀬俊之	(成城大)	1:09.2

3. 鈴木田順二	(桜泳会)	1:14.1
----------	-------	--------

C組

1. 園田和博	(旭化成)	1:10.0
2. 大宅秀明	(BSタイヤ)	1:11.8
3. 吉武慎博	(稲泳会)	1:12.7
4. 徳永誠哉	(桜泳会)	1:12.7
5. 沼忠慶	(駿台ク)	1:14.7

D組

1. 二宮英雄	(三水会)	1:08.7
2. 才野武士	(聖ポール)	1:09.2
3. 中田尹	(白水会)	1:11.8
4. 浜崎健	(本州菱興)	1:12.6
5. 高木忠之	(稲泳会)	1:12.6
6. 青山昌三	(稲泳会)	1:13.3

E組

1. 富田一雄	(桜泳会)	1:07.8
2. 徳武茂	(白水会)	1:08.5
3. 中島勝昭	(駿台ク)	1:10.2
4. 久保田隆雄	(聖ポール)	1:12.1

F組

1. 長谷景治	(倉敷レ)	1:06.9
2. 渡辺和夫	(桜泳会)	1:07.7
3. 酒井良明	(朝倉農高)	1:11.5

G組

1. 石橋幸男	(浮羽高)	1:09.7
2. 勝又完一	(駿台ク)	1:10.7
3. 片岡輝男	(瀬戸田高)	1:11.5
4. 林芳人	(八幡鉄)	1:12.6
5. 大滝正勝	(駿台ク)	1:12.7
6. 河田俊輔	(桜泳会)	1:13.3

準決勝 A組

1. 長谷景治	(倉敷レ)	1:07.0
2. 徳武茂	(白水会)	1:08.2
3. 広瀬俊之	(成城大)	1:08.3
4. 国清勲	(柳井商工)	1:08.4
5. 藤原浩	(法泳会)	1:09.5
6. 中島勝昭	(駿台ク)	1:09.8

B組

1. 富田一雄	(桜泳会)	1:08.3
2. 二宮英雄	(三水会)	1:08.4
3. 渡辺和夫	(桜泳会)	1:08.5
4. 高嶺隆二	(宮之城高)	1:09.1
5. 園田和博	(旭化成)	1:09.7
6. 勝又完一	(駿台ク)	1:10.3

決勝

1. 長谷景治	(倉敷レ)	1:06.4
---------	-------	--------

2. 二宮英雄 (三水会) 1:06.6
3. 富田一雄 (桜泳会) 1:06.9
4. 渡辺和夫 (桜泳会) 1:07.6
5. 国清勲 (柳井商工) 1:08.4
6. 徳武茂 (白水会) 1:08.4

200m背泳

予選 A組

1. 二宮英雄 (三水会) 2:29.0
2. 大宅秀明 (BSタイヤ) 2:35.6
3. 勝又完一 (駿台ク) 2:37.0
4. 吉武慎博 (稲泳会) 2:37.4

B組

1. 才野武士 (聖ポール) 2:28.1
2. 長谷景治 (倉敷レ) 2:30.2
3. 酒井良明 (朝倉農高) 2:32.1
4. 高木忠之 (稲泳会) 2:34.5

C組

1. 国清勲 (柳井商工) 2:29.8
2. 中島勝昭 (駿台ク) 2:31.8
3. 藤原浩 (法泳会) 2:36.5
4. 浜崎健 (本州菱興) 2:39.7

D組

1. 渡辺和夫 (桜泳会) 2:29.7
2. 石橋幸男 (浮羽高) 2:32.6
3. 舟橋淑行 (稲泳会) 2:37.5
4. 鈴木田順二 (桜泳会) 2:38.9

E組

1. 園田和博 (旭化成) 2:34.9
2. 久保田隆雄 (聖ポール) 2:36.3
3. 徳永誠哉 (桜泳会) 2:37.1

F組

1. 富田一雄 (桜泳会) 2:28.9
2. 高嶺隆二 (宮之城高) 2:32.4
3. 広瀬俊之 (成城大) 2:32.5
4. 徳武茂 (白水会) 2:33.3
5. 大滝正勝 (駿台ク) 2:39.7

決勝

1. 富田一雄 (桜泳会) 2:24.9
2. 才野武士 (聖ポール) 2:26.3
3. 二宮英雄 (三水会) 2:26.5
4. 渡辺和夫 (桜泳会) 2:28.2
5. 長谷景治 (倉敷レ) 2:28.5
6. 国清勲 (柳井商工) 2:30.1
7. 中島勝昭 (駿台ク) 2:30.7
8. 酒井良明 (朝倉農高) 2:31.6
9. 高嶺隆二 (宮之城高) 2:32.8

女子の部

100m自由形

予選 A組

1. 江坂君子 (椙山高) 1:08.7
2. 中沖滋代 (白木屋) 1:10.6
3. 稲葉孝子 (旭化成) 1:12.6
4. 行縄美代 (二階堂高) 1:13.0
5. 山田貴久恵 (進徳高) 1:16.2

B組

1. 島田節子 (東洋レ) 1:09.6
2. 後藤貞子 (天理大) 1:12.9
3. 千葉幸子 (成女高) 1:13.4
4. 島川浩子 (二階堂高) 1:13.9
5. 二階カズ (稲泳会) 1:17.9

C組

1. 佐藤喜子 (天理大) 1:05.9
2. 殿上玲子 (成女ク) 1:13.4
3. 中西満子 (旭化成) 1:14.0
4. 森沢佳子 (二階堂高) 1:15.6
5. 松田昌子 (東洋レ) 1:16.8

決勝

1. 佐藤喜子 (天理大) 1:06.1
2. 江坂君子 (椙山高) 1:08.1
3. 島田節子 (東洋レ) 1:10.1
4. 中沖滋代 (白木屋) 1:10.4
5. 稲葉孝子 (旭化成) 1:11.5
6. 後藤貞子 (天理大) 1:12.5
7. 行縄美代 (二階堂高) 1:12.5

200m自由形

予選 A組

1. 後藤貞子 (天理大) 2:39.0
2. 大高幸子 (東洋レ) 2:43.1
3. 中西満子 (旭化成) 2:43.2

B組

1. 佐藤喜子 (天理大) 2:24.1 (日本新)
2. 行縄美代 (二階堂高) 2:41.2
3. 中沖滋代 (白木屋) 2:41.5
4. 稲葉孝子 (旭化成) 2:44.8
5. 松田昌子 (東洋レ) 2:48.2

C組

1. 江坂君子 (椙山高) 2:36.8
2. 島田節子 (東洋レ) 2:38.1
3. 島川浩子 (二階堂高) 2:41.9

4. 中岡角子 (白木屋) 2:45.2

決勝

1. 佐藤喜子 (天理大) 2:24.3
 (日本新)
 2. 江坂君子 (椛山高) 2:30.2
 3. 後藤貞子 (天理大) 2:36.6
 4. 島田節子 (東洋レ) 2:37.1
 5. 大高幸子 (東洋レ) 2:37.7
 6. 行縄美代 (二階堂高) 2:40.9
 7. 島川浩子 (二階堂高) 2:41.5
 8. 中沖滋代 (白木屋) 2:43.7
 9. 中西満子 (旭化成) 2:44.1

400m自由形決勝

1. 和田映子 (天理大) 5:26.6
 2. 大高幸子 (東洋レ) 5:38.1
 3. 石渡雅子 (椛山高) 5:43.9
 4. 大宮涼子 (東洋レ) 5:46.9
 5. 中岡角子 (白木屋) 5:49.0
 6. 川村ヨネ子 (二階堂高) 5:51.6
 7. 細間伊都子 (進徳高) 6:03.3
 3. 浜岡育美 (二階堂高) 6:10.4
 9. 藤井宏子 (二階堂高) 6:20.0

800m自由形決勝

1. 和田映子 (天理大) 11:27.5
 (1:17.6 2:42.8 4:09.7 5:36.9
 7:04.6 8:32.9 10:01.0)
 2. 石渡雅子 (椛山高) 11:56.9
 3. 大宮涼子 (東洋レ) 12:06.0
 4. 川村ヨネ子 (二階堂高) 12:10.3
 5. 細間伊都子 (進徳高) 12:40.5
 6. 浜岡育美 (二階堂高) 12:51.6
 7. 藤井宏子 (二階堂高) 13:01.1

100m平泳

予選 A組

1. 高松好子 (天理大) 1:25.2
 2. 吉浦三千代 (筑紫女高) 1:32.9
 3. 那知宏子 (二階堂高) 1:34.0

B組

1. 塚本治代 (天理大) 1:29.4
 2. 木村淑子 (旭化成) 1:31.4
 3. 浜中翠 (椛山高) 1:31.4
 4. 古賀春恵 (日女大附高) 1:33.4
 5. 池山美美子 (白木屋) 1:35.0

C組

1. 青木幸子 (伊都高) 1:27.7
 2. 日高洋子 (二階堂高) 1:38.1

決勝

1. 高松好子 (天理大) 1:25.3
 2. 青木幸子 (伊都高) 1:26.5
 3. 塚本治代 (天理大) 1:27.6
 4. 木村淑子 (旭化成) 1:30.8
 5. 浜中翠 (椛山高) 1:30.8
 6. 吉浦三千代 (筑紫女高) 1:32.3
 7. 古賀春恵 (日女大附高) 1:32.4

200m平泳

予選 A組

1. 青木幸子 (伊都高) 3:06.3
 2. 那知宏子 (二階堂高) 3:13.3
 3. 木村淑子 (旭化成) 3:13.8
 4. 古賀春恵 (日女大附高) 3:22.5
 5. 山本文代 (東横学園) 3:27.1

B組

1. 高松好子 (天理大) 2:58.6
 2. 塚本治代 (天理大) 3:08.8
 3. 浜中翠 (椛山高) 3:14.2
 4. 吉浦三千代 (筑紫女高) 3:19.7
 5. 池山美美子 (白木屋) 3:23.0
 6. 日高洋子 (二階堂高) 3:29.8

決勝

1. 高松好子 (天理大) 2:57.3
 2. 青木幸子 (伊都高) 3:05.1
 3. 塚本治代 (天理大) 3:06.5
 4. 浜中翠 (椛山高) 3:14.2
 5. 木村淑子 (旭化成) 3:16.1
 6. 那知宏子 (二階堂高) 3:17.2
 7. 吉浦三千代 (筑紫女高) 3:17.6
 8. 古賀春恵 (日女大附高) 3:22.0
 9. 池山美美子 (白木屋) 3:24.7

100mバタフライ

予選 A組

1. 松中佐江子 (帝塚短大) 1:17.9
 2. 今井嬰 (日体大) 1:23.0
 3. 山谷トシ子 (川崎重工) 1:23.7
 4. 宮原真紀子 (白木屋) 1:25.4
 5. 作田幸枝 (二階堂高) 1:33.4

B組

1. 宮部シズエ (天理大) 1:17.7
 2. 黒田椛子 (二階堂高) 1:20.6
 3. 高嶺由起子 (旭化成) 1:22.5
 4. 中村靖子 (二階堂高) 1:23.5
 5. 浅川栄子 (進徳高) 1:25.5
 6. 榎本千恵子 (東洋レ) 1:26.4

決勝

- 1. 宮部 シズエ (天理大) 1:15.9
- 2. 松中 佐江子 (帝塚山短大) 1:19.6
- 3. 黒田 楯子 (二階堂高) 1:20.0
- 4. 高嶺 由起子 (旭化成) 1:21.0
- 5. 山谷 トシ子 (川崎色工) 1:22.9
- 6. 今井 嬰 (日体大) 1:23.3
- 7. 中村 靖子 (二階堂高) 1:26.0

200mバタフライ

予選 A組

- 1. 宮部 シズエ (天理大) 2:48.5 (日本新)
- 2. 黒田 楯子 (二階堂高) 3:00.7
- 3. 浅川 栄子 (進徳高) 3:07.9
- 4. 宮原 真紀子 (白木屋) 3:12.6
- 5. 榎本 千恵子 (東洋レ) 3:17.0
- 6. 高嶺 由起子 (旭化成) 3:18.6

B組

- 1. 松中 佐江子 (帝塚短大) 2:57.6
- 2. 中村 靖子 (二階堂高) 3:07.2
- 3. 今井 嬰 (日体大) 3:19.0

決勝

- 1. 宮部 シズエ (天理大) 2:48.9 (日本新)
- 2. 松中 佐江子 (帝塚短大) 2:55.2
- 3. 黒田 楯子 (二階堂高) 2:56.7
- 4. 浅川 栄子 (進徳高) 3:07.5
- 5. 中村 靖子 (二階堂高) 3:08.5
- 6. 榎本 千恵子 (東洋レ) 3:11.9
- 7. 宮原 真紀子 (白木屋) 3:13.7
- 8. 今井 嬰 (日体大) 3:16.6
- 9. 高嶺 由起子 (旭化成) 3:20.0

100m背泳

予選 A組

- 1. 村瀬 里子 (天理大) 1:21.6
- 2. 新実 里美 (東洋レ) 1:23.7
- 3. 大岩 香苗 (椋山ク) 1:23.8
- 4. 田淵 恵子 (日本生命) 1:25.6
- 5. 野村 豊子 (二階堂高) 1:29.9

B組

- 1. 四本 博美 (鹿児島高) 1:21.2
- 2. 橋本 須美恵 (小川ポンプ) 1:22.5
- 3. 岡本 節子 (白木屋) 1:23.8
- 4. 江原 喜久子 (東洋レ) 1:25.1

C組

- 1. 田中 聰子 (筑紫女高) 1:15.7

- 2. 坪井 查雅子 (天理大) 1:25.2
- 3. 小池 久子 (二階堂高) 1:25.2
- 4. 三木 富俱子 (白木屋) 1:26.8
- 5. 吉田 せつ (東洋レ) 1:27.4

決勝

- 1. 田中 聰子 (筑紫女高) 1:13.7 (日本新)
- 2. 村瀬 里子 (天理大) 1:20.7
- 3. 四本 博美 (鹿児島高) 1:20.7
- 4. 橋本 須美恵 (小川ポンプ) 1:22.0
- 5. 大岩 香苗 (椋山ク) 1:23.0
- 6. 岡本 節子 (白木屋) 1:23.8
- 7. 新実 里美 (東洋レ) 1:23.9

200m背泳

予選 A組

- 1. 田中 聰子 (筑紫女高) 2:41.5 (日本新)
- 2. 村瀬 里子 (天理大) 2:54.2
- 3. 四本 博美 (鹿児島高) 2:55.3
- 4. 岡本 節子 (白木屋) 3:03.9
- 5. 田淵 恵子 (日生) 3:05.7
- 6. 新実 里美 (東洋レ) 3:06.0

B組

- 1. 橋本 須美恵 (小川ポンプ) 2:56.4
- 2. 坪井 查雅子 (天理大) 3:01.1
- 3. 小池 久子 (二階堂高) 3:01.6
- 4. 江原 紀久子 (東洋レ) 3:02.1
- 5. 吉田 せつ (東洋レ) 3:05.3

決勝

- 1. 田中 聰子 (筑紫女高) 2:37.1 (世界新)
(36.5 1:16.0 1:57.3)
- 2. 四本 博美 (鹿児島高) 2:52.9
- 3. 村瀬 里子 (天理大) 2:53.6
- 4. 橋本 須美恵 (小川ポンプ) 2:56.0
- 5. 江原 紀久子 (東洋レ) 3:00.1
- 6. 坪井 查雅子 (天理大) 3:00.7
- 7. 吉田 せつ (東洋レ) 3:02.9
- 8. 岡本 節子 (白木屋) 3:04.2
- 9. 小池 久子 (二階堂高) 3:04.2

男子飛板飛込決勝

- 1. 山野 外嗣夫 (桜泳会) 130.73 (71.20 59.43)
- 2. 金戸 俊介 (桜泳会) 129.68 (74.08 55.60)

3. 馬場 豊 (国土開発) 127.99
(68.86 59.13)
4. 馬淵 良 (長野電鉄) 124.34
5. 岩橋 弥生 (稲泳会) 123.73
6. 坂本章八 (ミツヤ送風機) 122.49

男子高飛込決勝

1. 金戸 俊介 (桜泳会) 139.90
2. 馬淵 良 (長野電鉄) 138.34
3. 山野 外嗣夫 (桜泳会) 131.40
4. 坂本章八 (ミツヤ送風機) 121.11
5. 清水 磊三 (日東電機工業) 120.64
6. 三石 忠雄 (白水会) 112.92
7. 山内 正夫 (白水会) 100.49
8. 田原 和夫 (桜泳会) 96.83

女子飛板飛込決勝

1. 津谷 鹿乃子 (弦泳会) 121.22
2. 渡辺 久美子 (リツカーミシン) 120.76
3. 宮本 まさみ (金沢工高) 106.53
4. 山中 不美子 (日体大) 99.61
5. 山越 美香 (アトム宣伝社) 99.47
6. 葛目 千鶴子 (日体大) 91.36

女子高飛込決勝

1. 渡辺 久美子 (リツカーミシン) 82.55
2. 津谷 鹿乃子 (弦泳会) 76.57
3. 山越 美香 (アトム宣伝社) 58.14
4. 角田 良子 (日体大) 57.87
5. 山中 不美子 (日体大) 57.11
6. 葛目 千鶴子 (日体大) 54.58

水球

10, 11日成城大学プール

12日神宮プール

(3位決定戦, 優勝戦)

1回戦

- 桜泳会 A 8 $\left\{ \begin{array}{l} 2 \\ 6 \end{array} \right\} \begin{array}{l} \text{---} \\ \text{---} \end{array} \left\{ \begin{array}{l} 1 \\ 0 \end{array} \right\}$ 1 慶応義塾大学
審判 田 沼
- 法泳会 17 $\left\{ \begin{array}{l} 8 \\ 9 \end{array} \right\} \begin{array}{l} \text{---} \\ \text{---} \end{array} \left\{ \begin{array}{l} 0 \\ 2 \end{array} \right\}$ 2 城北高校
審判 近 藤
- 白水会 C 10 $\left\{ \begin{array}{l} 6 \\ 4 \end{array} \right\} \begin{array}{l} \text{---} \\ \text{---} \end{array} \left\{ \begin{array}{l} 1 \\ 3 \end{array} \right\}$ 4 駿台クラブ
審判 丸 笹
- 成城クラブ 7 $\left\{ \begin{array}{l} 2 \\ 5 \end{array} \right\} \begin{array}{l} \text{---} \\ \text{---} \end{array} \left\{ \begin{array}{l} 1 \\ 0 \end{array} \right\}$ 1 早稲田大学
審判 名 取

白水会 A 5 $\left\{ \begin{array}{l} 2 \\ 3 \end{array} \right\} \begin{array}{l} \text{---} \\ \text{---} \end{array} \left\{ \begin{array}{l} 0 \\ 0 \end{array} \right\}$ 0 桜泳会 C
審判 和 田

稲泳会 6 $\left\{ \begin{array}{l} 3 \\ 3 \end{array} \right\} \begin{array}{l} \text{---} \\ \text{---} \end{array} \left\{ \begin{array}{l} 2 \\ 3 \end{array} \right\}$ 5 三水会
審判 田 沼

全慶応 16 $\left\{ \begin{array}{l} 6 \\ 10 \end{array} \right\} \begin{array}{l} \text{---} \\ \text{---} \end{array} \left\{ \begin{array}{l} 1 \\ 0 \end{array} \right\}$ 1 明治大学
審判 小 野

白水会 B 5 $\left\{ \begin{array}{l} 1 \\ 4 \end{array} \right\} \begin{array}{l} \text{---} \\ \text{---} \end{array} \left\{ \begin{array}{l} 0 \\ 2 \end{array} \right\}$ 2 桜泳会 B
審判 丸 笹

準々決勝

桜泳会 A 12 $\left\{ \begin{array}{l} 7 \\ 5 \end{array} \right\} \begin{array}{l} \text{---} \\ \text{---} \end{array} \left\{ \begin{array}{l} 1 \\ 0 \end{array} \right\}$ 1 法泳会
審判 小 野

成城クラブ 6 $\left\{ \begin{array}{l} 5 \\ 1 \end{array} \right\} \begin{array}{l} \text{---} \\ \text{---} \end{array} \left\{ \begin{array}{l} 1 \\ 1 \end{array} \right\}$ 2 白水会 C
審判 名 取

白水会 A 14 $\left\{ \begin{array}{l} 6 \\ 8 \end{array} \right\} \begin{array}{l} \text{---} \\ \text{---} \end{array} \left\{ \begin{array}{l} 0 \\ 1 \end{array} \right\}$ 1 稲泳会
審判 小 野

全慶応 3 $\left\{ \begin{array}{l} 1 \\ 2 \end{array} \right\} \begin{array}{l} \text{---} \\ \text{---} \end{array} \left\{ \begin{array}{l} 0 \\ 1 \end{array} \right\}$ 1 白水会 B
審判 和 田

準決勝

桜泳会 A 5 $\left\{ \begin{array}{l} 4 \\ 1 \end{array} \right\} \begin{array}{l} \text{---} \\ \text{---} \end{array} \left\{ \begin{array}{l} 1 \\ 0 \end{array} \right\}$ 1 成城クラブ
審判 和 田

全慶応 5 $\left\{ \begin{array}{l} 2 \\ 3 \end{array} \right\} \begin{array}{l} \text{---} \\ \text{---} \end{array} \left\{ \begin{array}{l} 2 \\ 0 \end{array} \right\}$ 2 白水会 A
審判 名 取

3位決定戦

成城クラブ 4 $\left\{ \begin{array}{l} 3 \\ 0 \\ 0 \\ 1 \end{array} \right\} \begin{array}{l} \text{---} \\ \text{---} \\ \text{---} \\ \text{---} \end{array} \left\{ \begin{array}{l} 3 \\ 0 \\ 0 \\ 0 \end{array} \right\}$ 3 白水会 A
審判 名 取

優勝戦

桜泳会 A — 全慶応
猪口 GK 山本
松岡 LB 中川
村川 RB 大河内
本田 HB 竹野内
青山 LF 荒川
内田 CF 佐藤
藤本 RF 清水
7 $\left\{ \begin{array}{l} 3 \\ 4 \end{array} \right\} \begin{array}{l} \text{---} \\ \text{---} \end{array} \left\{ \begin{array}{l} 1 \\ 4 \end{array} \right\}$ 5
審判 和 田

第31回早慶対抗水上競技大会

6月7日 神宮プール (50m) 公認 気温 23° 水温 22°

100m自由形

1. 福井 清 (早)	58.8
2. 清水 啓吾 (慶)	59.2
3. 十河 英記 (早)	59.5
4. 古川 徹 (慶)	59.8
5. 二宮 英雄 (〃)	1:02.5
6. 米 澄 寿夫 (早)	1:02.9

200m自由形

1. 十河 英記 (早)	2:11.3
2. 古川 徹 (慶)	2:13.2
3. 清水 啓吾 (〃)	2:13.3
4. 北原 一彦 (早)	2:14.9
5. 福井 清 (〃)	2:17.7
6. 餅米 清治 (慶)	2:20.7

400m自由形

1. 山中 毅 (早)	4:26.3
(29.2 1:01.4 1:35.0 2:08.5 2:43.1 3:18.1)	
2. 梅本 利三 (〃)	4:41.5
(1:04.1 2:15.4 3:28.3)	
3. 小笠原 勝司 (〃)	4:56.8
4. 餅米 清治 (慶)	5:09.5
5. 谷淵 昌三 (〃)	5:10.1

1500m自由形

1. 山中 毅 (早)	17:56.0 (日新)
(1:05.1 2:16.7 3:28.3 4:40.5 5:52.6)	
(7:04.5 8:16.4 9:27.7 10:40.2 11:53.2)	
(13:06.6 14:19.7 15:33.4 16:47.2 17:56.0)	
2. 梅本 利三 (〃)	18:56.8
(1:07.8 2:21.3 3:36.1 4:51.6 6:08.1)	
(7:24.6 8:41.0 9:57.4 11:14.0 12:30.7)	
(13:47.5 15:04.9 16:22.7 17:40.0 18:56.8)	
3. 小笠原 勝司 (〃)	19:38.8
4. 谷淵 昌三 (慶)	20:28.7

200m平泳

1. 大崎 剛彦 (早)	2:45.4
2. 中川 清 (〃)	2:48.4
3. 鈴木 紘之 (慶)	2:51.2
4. 佐藤 行男 (早)	2:53.5
5. 玉伊 良章 (慶)	2:57.8
6. 三橋 航 (〃)	3:00.0

200mバタフライ

1. 吉田 弘 (早)	2:29.3
-------------	--------

2. 吉無田 春男 (早)	2:30.2
3. 坂井 逸次 (〃)	2:31.7
4. 中村 孝雄 (慶)	2:41.7

100m背泳

1. 二宮 英雄 (慶)	1:07.3
2. 舟橋 淑行 (早)	1:11.1
3. 吉武 慎博 (〃)	1:12.5
4. 高木 忠之 (〃)	1:12.5
5. 伊藤 俊雄 (慶)	1:16.5
6. 万 泰一 (〃)	1:21.6

800mリレー

1. 山中, 梅本, 十河, 北原 (早)	8:59.0
(1:20.1 2:12.0 3:16.1 4:25.2 5:29.1)	
(6:41.0 8:59.0)	
2. 清水, 古川, 餅米, 谷淵 (慶)	9:16.2
(2:14.1 4:28.4 6:51.2 9:16.2)	

400mメドレーリレー

1. 舟橋, 大崎, 坂井, 福井 (早)	4:47.4
(1:11.5 2:26.6 3:29.3 4:27.4)	
2. 二宮, 鈴木, 中村, 古川 (慶)	4:31.4
(1:06.1 2:23.4 3:32.1 4:31.4)	

競泳得点

早	大	39
慶	大	9

水球

早	大	2	{	1	—	7	}	13	慶	大
審判 彌田										

飛込

飛板飛込

1. 岩橋 弥生 (早)	79.18
2. 荻原 正光 (慶)	72.49
3. 水野 雄之 (〃)	47.76
4. 弥屋 壮吉 (早)	46.53
5. 村松 慎次郎 (慶)	38.47

高飛込

1. 岩橋 弥生 (早)	67.37
2. 弥屋 壮吉 (〃)	52.24
3. 荻原 正光 (慶)	49.20
4. 水野 雄之 (〃)	47.41
5. 和田 文男 (〃)	38.42

第24回日・立・明三大学対抗水上競技大会

6月14日 神宮プール (50m) 公認 気温 22°5 水温 22°5

100m自由形

1. 石原 勝記	(日)	57.6 (大会新)
2. 川岡 長身	(日)	59.4
3. 養原 友義	(日)	59.4
4. 林 正夫	(立)	1:00.0
5. 山本 修	(明)	1:00.0
6. 中村 良三	(明)	1:00.0

200m自由形

1. 石原 勝記	(日)	2:09.9
2. 林 利博	(日)	2:10.2
3. 山口 安司	(立)	2:12.1
4. 川岡 長身	(日)	2:12.6
5. 岡田 洋一	(明)	2:14.7
6. 清水 英利	(立)	2:15.5

400m自由形

1. 石井 宏	(日)	4:36.3
		(1:04.1 2:13.9 3:25.6) (大会新)
2. 林 利博	(日)	4:46.4
3. 山口 安司	(立)	4:47.9
4. 坂梨 公昭	(明)	4:50.0
5. 北村 忠夫	(立)	4:50.3
6. 南垣内 章文	(立)	4:52.5

800m自由形

1. 石井 宏	(日)	9:38.9 (大会新)
		(1:04.8 2:16.2 3:29.6 4:43.1 5:57.5)
		(7:12.1 8:27.1)
2. 坂梨 公昭	(明)	9:56.7
3. 北畑 昌英	(日)	10:01.2
4. 胡井 武人	(立)	10:02.5
5. 一色 譲	(日)	10:02.7
6. 北村 忠夫	(立)	10:05.9
7. 南垣内 章文	(明)	10:07.3

200m平泳

1. 増田 勲	(日)	2:44.4
		(1:18.4)
2. 木村 基	(日)	2:45.5
3. 永井 正員	(日)	2:46.6

4. 東 英明	(明)	2:49.1
5. 豊池 守	(立)	2:50.3
6. 木曾 雄吉	(立)	2:51.8

200mバタフライ

1. 那須 純哉	(立)	2:22.2
		(1:07.9) (大会新)
2. 増永 文昭	(日)	2:24.6
		(30.5 1:06.2) (大会新)
3. 中島 功	(日)	2:26.4
4. 武市 啓志	(日)	2:27.6
5. 俵口 頼康	(明)	2:28.9
6. 鈴木 博之	(明)	2:48.7

100m背泳

1. 渡辺 和夫	(日)	1:07.4
2. 富田 一雄	(日)	1:08.6
3. 才野 武士	(立)	1:09.1
4. 勝又 完一	(明)	1:10.5
5. 中島 勝昭	(明)	1:11.0
6. 大滝 正勝	(明)	1:11.9

800mリレー

1. 日大 (石井, 石原, 川岡, 林)	8:48.5
(2:09.6 4:19.9 6:33.0) (大会新)	
2. 立大 (山口, 清水, 山崎, 北村)	9:01.5
(2:12.0 4:27.2 6:44.9)	
3. 明大 (南垣内, 北条, 岡田, 坂梨)	9:10.6
(2:14.6 4:33.2 6:50.8)	

400mメドレーリレー

1. 日大 (富田, 中村, 増永, 石原)	4:25.9
(1:08.8 2:24.0 3:27.3)	
2. 立大 (才野, 豊池, 那須, 林)	4:28.3
(1:09.2 2:25.9 3:28.3)	
3. 明大 (中島, 東, 俵口, 山本)	4:35.7
(1:10.2 2:27.5 3:36.4)	

得点	① 日大	106
	② 立大	38
	③ 明大	28

第4回中大・日大対抗水上競技大会

6月21日 神宮プール (50m) 公認 気温 23°5水温 20.5° (競泳プール) 22.5° (飛込プール)

100m自由形

1. 中谷庸彦 (中)	58.3
2. 石原勝記 (日)	58.8
3. 川岡長身 (日)	59.8
4. 鈴木英士 (中)	1:00.1
5. 簗原友義 (日)	1:00.1
6. 見上勝紀 (中)	1:00.3

200m自由形

1. 藤本達夫 (中)	2:07.7 (大会新)
2. 石原勝記 (日)	2:10.8
3. 林利博 (日)	2:11.1
4. 中谷庸彦 (中)	2:12.3
5. 見上勝紀 (中)	2:12.3
6. 川岡長身 (日)	2:12.7

400m自由形

1. 石井宏 (日)	4:37.1
(1:04.3 2:15.9 3:28.8 4:37.1) (大会新)	
2. 藤本達夫 (中)	4:38.9
3. 林利博 (日)	4:44.8
4. 北畑昌英 (日)	4:45.9
5. 一色讓 (日)	4:49.0
6. 浅野純孝 (中)	4:51.3

1500m自由形

1. 石井宏 (日)	18:27.5 (大会新)
(1:05.0 2:16.3 3:29.4 4:44.6 5:59.6)	
(7:14.5 8:29.6 9:44.4 11:59.6 12:15.0)	
(13:29.9 14:45.0 15:59.8 17:15.7)	
2. 北畑昌英 (日)	19:17.8
3. 一色讓 (日)	19:24.7
4. 浅野純孝 (中)	19:31.2
5. 古木輝己 (中)	19:48.2
6. 坪田障 (中)	19:53.8

100m平泳

1. 木村基 (日)	1:15.2
2. 篠田博史 (中)	1:15.6
3. 増田勲 (日)	1:16.5
4. 永井正員 (日)	1:16.5
5. 山中堂志 (中)	1:16.5
6. 中村昌彦 (日)	1:18.1

200m平泳

1. 木村基 (日)	2:45.0
------------	--------

2. 篠田博史 (中)	2:45.3
3. 増田勲 (日)	2:46.3
4. 永井正員 (日)	2:47.5
5. 山中堂志 (中)	2:48.3
6. 中村昌彦 (日)	2:50.3

100mバタフライ

1. 開田幸一 (中)	1:02.8
2. 増永文昭 (日)	1:03.4
3. 中島功 (日)	1:05.5
4. 武市啓志 (日)	1:05.9
5. 小戎紀一 (中)	1:05.9
6. 渡辺常也 (中)	1:06.4

200mバタフライ

1. 開田幸一 (中)	2:23.5
2. 増永文昭 (日)	2:24.1
3. 中島功 (日)	2:26.3
4. 三好泰弘 (中)	2:30.9
5. 富田喜久男 (日)	2:31.6
6. 武市啓志 (日)	2:32.4

100m背泳

1. 渡辺和夫 (日)	1:06.6 (大会新)
2. 富田一雄 (日)	1:08.0
3. 徳武茂 (中)	1:09.6
4. 中田尹 (中)	1:11.0
5. 河田俊輔 (日)	1:12.5
6. 鈴木田順二 (日)	1:13.6

200m背泳

1. 富田一雄 (日)	2:29.2
2. 渡辺和夫 (日)	2:33.5
3. 徳武茂 (中)	2:35.5
4. 鈴木田順二 (日)	2:40.3
5. 中田尹 (中)	2:41.0
6. 河田俊輔 (日)	2:41.2

800mリレー

1. 中大 (中谷, 見上, 三栖, 藤本)	8:42.4
(2:10.0 4:21.0 6:35.9) (大会新)	
2. 日大 (石井, 石原, 林, 川岡)	8:44.8
(2:09.3 4:20.2 6:32.9) (大会新)	

400mメドレーリレー

1. 日大 (渡辺, 木村, 増永, 石原)	4:21.0
(1:07.1 2:22.5 3:25.1) (大会新)	

2. 中大 (徳武, 篠田, 開田, 中谷) 4:23.9
(1:09.7 2:24.1 3:26.0) (大会新)

附属高校 800m リレーオープン競技

1. 日大附属豊山高 (菅原, 吉見, 丸山, 茂沢) 9:35.0
2. 中大附属杉並高 (毛利, 松井, 高橋, 丸) 10:09.0

得点

日大 142点
中大 86点

飛込競技

高飛込

1. 金戸俊介 (日大) 89.70
2. 山野外嗣夫 (日大) 82.30
3. 中島貞夫 (日大) 76.27
4. 三石忠雄 (中大) 62.78
5. 山内正夫 (中大) 55.08
6. 徳田行弘 (中大) 51.63

得点 日大 6
中大 0

飛板飛込

1. 山野外嗣夫 (日大) 82.48

2. 金戸俊介 (日大) 76.34
3. 三石忠雄 (中大) 70.38
4. 徳田行弘 (中大) 65.70
5. 中島貞夫 (日大) 63.84
6. 山内正夫 (中大) 54.35

得点 日大 5
中大 1

水球競技

	中大		日大
	飯田	GK	猪口
	野沢	LB	松岡
	菅久	RB	村川
	古川	HB	本田
	佐曾木	LF	青山
	田中	CF	内田
	藤岡	RF	藤本
	中大		日大

1 $\left\{ \begin{array}{l} 1 \text{ --- } 0 \\ 0 \text{ --- } 1 \\ \text{延} \text{ --- } \text{長} \\ 0 \text{ --- } 0 \\ 0 \text{ --- } 2 \end{array} \right\} 3$

関 西 選 手 権

6月20, 21日 大阪プール (50m) 公認 気温 26.2°, 25° 水温 25.6°, 25°

男子の郡

100m自由形

1. 三賀森好尙 (D S C) 59.9
2. 池田芳玄 (天理高) 59.9
3. 中坊昌美 (伊都高) 1:01.2
4. 山本新吾 (東邦商会) 1:01.6

200m自由形

1. 池田芳玄 (天理高) 2:13.5
2. 中坊昌美 (伊都高) 2:17.3
3. 竹林功男 (天王寺高) 2:18.0
4. 一条靖弘 (天理高) 2:18.0

400m自由形

1. 講本昌男 (D S C) 4:46.5
2. 藤田昌計 (伊都高) 4:53.7
3. 竹林功男 (天王寺高) 4:54.0

1500m自由形

1. 藤田昌計 (伊都高) 19:21.4
(10:08.9) (大会新)
2. 講本昌男 (D S C) 19:23.5 (大会新)

3. 山田康弘 (五条高) 19:50.6
4. 山中春夫 (伊都高) 19:57.6

100m平泳

1. 古川勝 (大丸京都) 1:17.3 (大会新)
2. 高木憲一 (五条高) 1:17.7 (大会新)
3. 渡部成孝 (D S C) 1:17.9 (大会新)

200m平泳

1. 高木憲一 (五条高) 2:46.8 (大会新)
2. 渡辺成孝 (D S C) 2:49.0 (大会新)
3. 福井甫 (清泳会) 2:52.0

100mバタフライ

1. 岩本光司 (堀川高) 1:05.7 (大会新)
2. 乾野正之 (桜宮中) 1:07.3
(中学新) (大会新)
3. 来栖寛 (天理太) 1:07.3 (大会新)
4. 岩岡祐一 (天理高) 1:07.6 (大会新)

200mバタフライ

1. 岩本光司 (堀川高) 2:28.4 (大会新)
2. 岩岡祐一 (天理高) 2:35.0

3. 馬場政義 (姫工大高)	2:37.6	8:20.2 9:48.3)	(大会新)
100m背泳		2. 虎野昭子 (帝塚山高)	11:45.5
1. 鈴木勝 (天王寺高)	1:11.8	3. 薦野良江 (天理高)	11:49.7
2. 田辺武久 (弦泳会)	1:13.1	100m平泳	
3. 山中巖 (天理高)	1:13.5	1. 高松好子 (天理大(1:24.2 (大会新)	
200m背泳		2. 田中清恵 (天理高(1:26.5 (")	
1. 鈴木勝 (天王寺高)	2:38.2	3. 塚本治代 (天理大)	1:27.7
2. 柿本伸 (天理高)	2:39.0	200m平泳	
3. 山中巖 (天理高)	2:40.7	1. 高松好子 (天理大)	2:58.5
		2. 田中清恵 (天理高)	3:02.9
		3. 塚本治代 (天理大)	3:08.0
		100mバタフライ	
女子の部		1. 宮部シズエ (天理大)	1:17.0
100m自由形		2. 松中佐江子 (帝塚山大)	1:17.2
1. 佐藤喜子 (天理大)	1:05.6	3. 寺垣内達代 (桃谷順天)	1:23.0
2. 和田映子 (")	1:08.2	200mバタフライ	
3. 島田節子 (東洋レ)	1:10.4	1. 宮部シズエ (天理大)2:51.5 (大会新)	
200m自由形		2. 松中佐江子 (帝塚山大)	2:57.8
1. 佐藤喜子 (天理大)	2:24.2	3. 森下多恵子 (天理高)	3:13.6
(32.1 1:08.8 1:46.1)	(日新)	100m背泳	
2. 和田映子 (天理大)	2:33.0	1. 松永涼子 (天理高)	1:21.1
3. 大高幸子 (東洋レ)	2:37.8	2. 村瀬里子 (天理大)	1:22.7
400m自由形		3. 江原紀久子 (東洋レ)	1:24.8
1. 芝原笑子 (天理高)	5:17.5	200m背泳	
(1:12.2 2:32.3 3:54.9)	(大会新)	1. 村瀬里子 (天理大)	2:56.3
2. 虎野昭子 (帝塚山高)	5:36.9	2. 松永涼子 (天理高)	2:56.8
3. 大高幸子 (東洋レ)	5:37.1	3. 坪井查雅子 (")	3:02.5
800m自由形			
1. 芝原笑子 (天理高)	11:13.4		
(1:15.5 2:38.7 4:02.8 5:27.5 6:53.1			

第3回九州社会人学生水上競技大会

6月7日 別府温泉プール (50m) 公認 気温 24° 水温 20°

50m自由形		2. 丸山長敏 (B S)	4:51.3
1. 久保田 認 (八幡)	28.6	3. 吉村喜平 (旭化成)	4:54.5
2. 久保田 貞夫 (八幡)	28.8	800m自由形	
3. 青木行義 (B S)	28.9	1. 丸山長敏 (B S)	9:54.9
100m自由形		2. 大野 司 (B S)	11:05.5
1. 白井克郎 (旭化成)	1:06.1	3. 西村宣彦 (久大)	12:16.2
2. 芳野真任 (八幡)	1:01.0	100m平泳	
3. 庄司敏夫 (B S)	1:02.5	1. 江藤征一郎 (別府)	1:19.0
200m自由形		2. 福島武孝 (久大)	1:19.0
1. 福井 誠 (八幡)	2:10.1	3. 藤田享弘 (旭化成)	1:19.2
2. 丸山長敏 (B S)	2:12.5	200m平泳	
3. 芳野真任 (八幡)	2:14.8	1. 名倉健藏 (B S)	2:52.9
400m自由形		2. 江藤征一郎 (別府)	2:52.6
1. 福井 誠 (八幡)	4:34.2	3. 鈴木吉孝 (八幡)	2:56.1

100mバタフライ			
1.	丸山 高正	(B S)	1:07.0
2.	田中 誠也	(八 幡)	1:09.9
3.	長谷川 浩造	(八 幡)	1:10.5

200mバタフライ			
1.	丸山 高正	(B S)	2:28.3
2.	岡村 久治	(B S)	2:39.5
3.	長谷川 浩造	(八 幡)	2:41.5

100m背泳			
1.	林 芳人	(八 幡)	1:10.4
2.	大宅 秀明	(B S)	1:11.1
3.	園田 和博	(旭化成)	1:11.4

200m背泳			
1.	大宅 秀明	(B S)	2:35.0
2.	林 芳人	(八 幡)	2:35.9
3.	園田 和博	(旭化成)	2:38.2

第4回 八幡製鉄, 全延岡, 全大分三部対抗

6月10日 別府温泉プール (50m) 公認 気温 24° 水温 19°

男子の部

100m自由形			
1.	福井 誠	(八 幡)	59.0
2.	白井 克郎	(延 岡)	1:01.5
3.	久保田 認	(八 幡)	1:03.8

200m自由形			
1.	福井 誠	(八 幡)	2:07.8
2.	芳野 真任	(八 幡)	2:18.8
3.	白井 克郎	(延 岡)	2:19.3

400m自由形			
1.	芳野 真任	(八 幡)	4:53.5
2.	吉村 喜平	(延 岡)	4:54.8
3.	徳永 征一	(八 幡)	4:55.8

800m自由形			
1.	徳永 征一	(八 幡)	10:16.4
2.	吉村 喜平	(延 岡)	10:27.0
3.	富沢 泰公	(大 分)	10:50.2

100m平泳			
1.	衛 藤 孝	(大 分)	1:19.0
2.	松本 健次郎	(大 分)	1:19.0
3.	岡田 恭憲	(八 幡)	1:20.4

200m平泳			
1.	松本 健次郎	(大 分)	2:48.7
2.	末竹 国夫	(大 分)	2:52.4

3.	森下 正直	(八 幡)	2:56.1
----	-------	-------	--------

100mバタフライ			
1.	毛越 清	(大 分)	1:08.4
2.	田中 誠也	(八 幡)	1:09.9
3.	長谷川 浩造	(八 幡)	1:10.3

200mバタフライ			
1.	毛越 清	(大 分)	2:37.8
2.	田中 誠也	(八 幡)	2:42.6
3.	長谷川 浩造	(八 幡)	2:43.5

200m背泳			
1.	林 芳人	(八 幡)	2:37.6
2.	園田 和博	(延 岡)	2:38.1
3.	浜砂 昭光	(延 岡)	2:40.3

200mリレー			
1.	八幡 (久保田昌, 徳永, 久保田認, 福井)		1:51.8
2.	大分 (菅, 毛越, 丸山, 小手川)		1:53.4
3.	延岡 (白井, 吉村, 青木, 横田)		1:54.6

400mメドレーリレー			
1.	八幡 (林, 鈴木, 長谷川, 福井)		4:42.0
2.	大分 (三上, 松本, 毛越, 菅)		4:45.4
3.	延岡 (浜砂, 川崎, 八尋, 白井)		4:52.3

得点	八 幡	108点
	大 分	82点
	延 岡	56点

兵庫県選手権

6月28日 甲子園プール (50m) 公認 気温 30.2° 水温 24.6°

男子の部

100m自由形			
1.	三宅 二郎	(弦 泳 会)	1:02.4
200m自由形			
1.	弥宣田 将暢	(弦 泳 会)	2:22.5
400m自由形			
1.	吉田 明治	(弦 泳 会)	5:06.6

1500m自由形			
1.	吉田 明治	(弦 泳 会)	21:01.2
100m平泳			
1.	木村 隆司	(川崎重工)	1:18.2
200m平泳			
1.	森 昭	(弦 泳 会)	2:52.3
100mバタフライ			
1.	馬場政義	(姫工大附高)	1:08.3

200mバタフライ	1. 馬場政義 (姫工大附高)	2:36.1	800m自由形	1. 佐藤 利子 (松蔭中)	13:52.0
100m背泳	1. 藤本 寛 (弦泳会)	1:14.8	100m平泳	1. 飯村 宏子 (松蔭高)	1:33.7
200m背泳	1. 藤本 寛 (弦泳会)	2:45.5	200m平泳	1. 飯村 宏子 (松蔭高)	3:20.3
女子の部					
100m自由形	1. 正木 和子 (松蔭中)	1:19.9	100mバタフライ	1. 山谷トシ子 (川崎重工)	1:24.0
200m自由形	1. 正木 和子 (松蔭中)	3:03.0	200mバタフライ	1. 山谷トシ子 (川崎重工)	3:19.0
400m自由形	1. 木村 晴美 (松蔭中)	6:28.6	100m背泳	1. 田中 征子 (川崎重工)	1:32.0
			200m背泳	1. 田中 征子 (川崎重工)	3:22.8

和歌山県選手権

6月28日 和歌山県営プール (50m) 気温29° 水温23.5°

男子の部			200m背泳	1. 松本 良棧 (伊都高)	2:50.8
100m自由形	1. 坂東 浩二 (和商高)	1:05.5	女子の部		
200m自由形	1. 森田 育男 (東邦商会)	2:31.7	400m自由形	1. 西岡佐代子 (伊都高)	6:03.4
400m自由形	1. 藤田 昌計 (伊都高)	4:59.9	800m自由形	1. 西岡佐代子 (伊都高)	12:33.0
1500m自由形	1. 藤田 昌計 (伊都高)	19:17.6	100m平泳	1. 青木 幸子 (伊都高)	1:27.0
100m平泳	1. 林 和昭 (伊都高)	1:22.6	200m平泳	1. 青木 幸子 (伊都高)	3:10.1
200m平泳	1. 藤田 公造 (和商高)	2:58.8	100mバタフライ	1. 木村多鶴子 (伊都高)	1:25.8
100mバタフライ	1. 坂本和夫 (伊都OB)	1:09.8	200mバタフライ	1. 木村多鶴子 (伊都高)	3:19.6
200mバタフライ	1. 中村征春 (伊都高)	2:44.0	100m背泳	1. 土肥 桂子 (伊都高)	1:36.8
100m背泳	1. 松本 良棧 (伊都高)	1:16.6	200m背泳	1. 土肥 桂子 (伊都高)	3:31.0



(54頁より)

②日本チームのコンディションは最高だった。ストロークのテクニックが非常に良い。激しい練習と泳ぎに長い時間を掛けているからだろうし、コーチも素晴らしい。

③タイラ、クリストフ、ベネット。

13) M. トロイ (バタ)

①全く楽しかった。日本も日本人も大好きだ、神宮プールでの練習がもっとできればコンディションももっとよかったと思うのだが。

②よいチームだ。注射を打つのは理解できない。

③那須、ブラック。

14) D. クラーク (平)

①親切な日本人々々。

②よい人々だ。注射をするのは解らない。

③すべての出場者。

15) C. ビティック (背)

①日本人の親切。

競技会ではジャッチをもっと正確にやって欲しい。

②素晴らしい。

③長谷、モンクトン、タイラ。

16) L. ラーソン (バタ・自・短)

①全て楽しかった、物価が安い。

②別がない。

③デヴィット、アルカイア、ファーレル。

17) B. ベネット (背)

①物価が安い。店がみんなきれいだ。

②皆好い選手達だ。

③マッキニー、クリストフ。

18) M. ローズ (自・長)

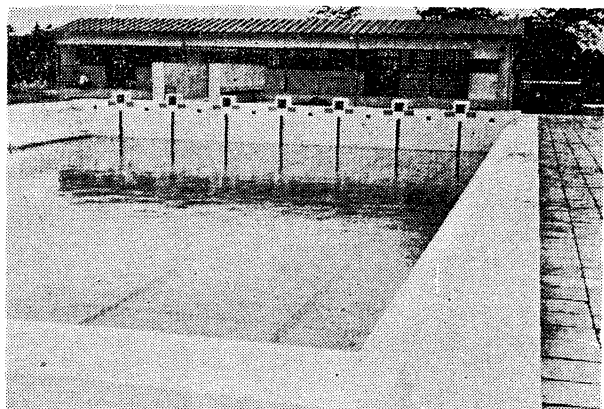
①日本人々々の親切さ。

②別がない。

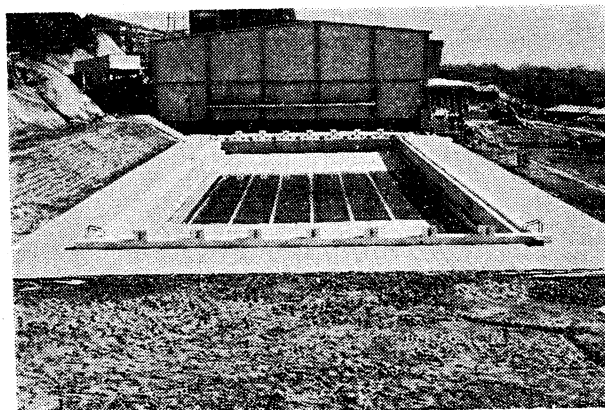
③自分自身。

最近完成したプール

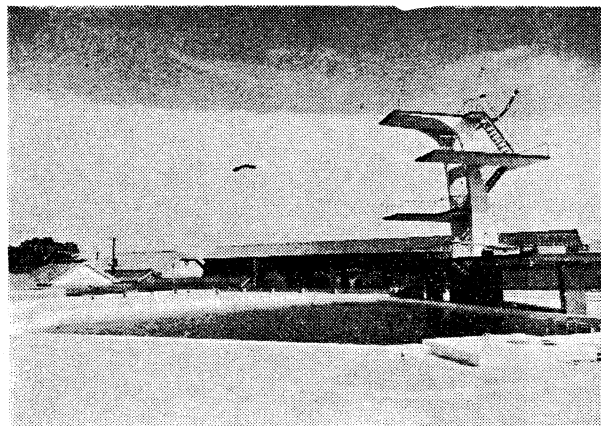
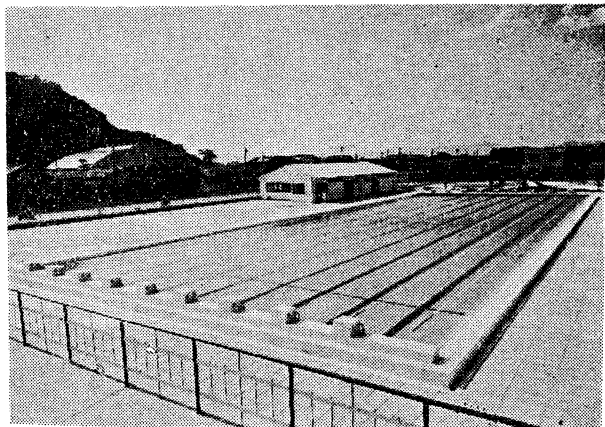
最近完成し、このたび公認となりました徳島市民50mプールと、埼玉県深谷商業高校25mプールを紹介します。両者とも濾過装置を有するモデル的な明るいプールであります。



深谷商業高校プール



愛知淑徳プール



徳島市民プール

日本史上競泳100傑

(昭和34年8月20日現在)

◎ 左肩に(日)とあるは当時の日本記録(世)は世界記録

◎ 順位は同記録のものは同位とした、但し同じ記録を2回出した者、3回出した者、4回出した者は各々、その上位とした。

◎ 記録のところに②とあるは最高記録を2回出した者、③とあるは3回、④とあるは4回、但し表には1番はじめに出した月日、場所、大会名のみを記した。

◎ 次号は800mと1500mの予定。

(記録、編集委員 島田桃一郎)

男子200m自由形

順位	氏名	所属	年齢	時間	場所	年度	大会名
世日1	山中毅	日本	20	2:01.5	大阪	34	日米大阪
2	藤本達夫	"	19	2:04.9	"	34	"
3	福井誠	"	19	2:05.6②	"	34	"
日4	鈴木弘	日大	18	2:06.8	神宮	27	日本学生
日5	古橋広之進	大同毛織	22	2:07.6	大阪	26	日本選手権
6	古賀学	稲泳会	22	2:07.7	神宮	32	"
7	後藤暢	浮羽高	17	2:08.0	"	27	"
8	十河英記	稲泳会	20	2:08.3	"	34	"
9	見上勝紀	日本	18	2:08.4	大阪	34	日米大阪
10	林利博	日大	21	2:08.5	神宮	33	日本学生
11	谷 諒	早大	21	2:08.6	"	30	"
12	近藤至男	聖ポール	22	2:08.9	"	33	日本選手権
13	丸山長敏	九州	20	2:09.2	鳥取	34	中国五県
14	石井宏	日大	19	2:09.3	神宮	34	中大対日大
15	谷川禎治郎	"	21	2:09.4	"	29	日本学生
16	梅本利三	日本	18	2:09.5	"	34	日米對抗
17	新井茂雄	立大	22	2:09.6②	"	13	関東選手権
18	浅野満	早大	21	2:09.8②	"	29	日本学生
19	清水健	立大	21	2:09.8	"	31	"
20	石原勝記	日大	20	2:09.9	"	34	三大学對抗
21	中谷庸彦	中大	19	2:10.0	"	34	中大対日大
22	細間輝喜	日本	18	2:10.2	ハワイ	29	ハワイ国際
	吉村健三	駿台ク	22	2:10.2	神宮	29	日本選手権
	遠藤陸夫	法大	19	2:10.2	"	33	日本学生
25	北原一彦	日本	19	2:10.4	大阪	33	日豪大阪
26	古川徹	慶大	20	2:10.5	神宮	33	日本学生
27	大谷康夫	明大	21	2:10.7	"	33	"
28	金谷雅弘	立大	20	2:10.8	"	31	"
	山口安司	聖ポール	19	2:10.8	"	33	日本選手権
30	浜口喜博	日大	23	2:11.0④	ロス	24	全米選手権

順位	氏名	所属	年令	時間	場所	年度	大会名
31	川岡長身	日大	20	2:11.0	神宮	32	日大対中大
日32	遊佐正憲	日大本	20	2:11.2	"	10	日米対抗
	山下勝次	早大	18	2:11.2	"	28	日本学生
	東野賢二	白水会	20	2:11.2	"	31	日本選手権
35	西島明	駿台水会	25	2:11.4	"	27	日本選手権
	横地森太郎	早大	21	2:11.4	"	29	"
					"	32	"
38	柳瀬吉広	立大	20	2:11.6	"	31	三大学対抗
	庄司嘉宏	駿台	21	2:11.6	"	31	日本選手権
	今井昌裕	法大	19	2:11.6	"	31	日本学生
	箕原友義	桜泳会	21	2:11.6	"	31	日本選手権
42	北畑昌英	日大	19	2:11.7	"	33	日本学生
	竹本昭和	高知商高	17	2:11.7	高知	33	高知高体育生
44	杉原満弘	早大	21	2:11.8	高神宮	28	日本学生
	石本隆	日大	20	2:11.8	"	30	三大学対抗
46	田中純夫	早大	21	2:12.0②	大阪	26	日本選手権
47	東崎治昇	日大本	22	2:12.0	大振甫	25	国際名古屋
	堂崎兼造	明中大	19	2:12.0	神宮	28	日本学生
49	三栖勝	中慶大	18	2:12.1	"	33	"
50	高橋真任	福岡	21	2:12.2	"	29	"
	芳野重忠	宇部興産	21	2:12.2	大分	34	九州各県
	三浦照男	中大会	19	2:12.3	恩神宮	34	九州対中国
53	近藤修一	中大会	19	2:12.3	神宮	31	日大対中大
54	村山寧夫	稲泳会	26	2:12.4	"	24	日本選手権
	田中毅	早大	21	2:12.4	"	28	日本学生
	菅司敏夫	日安房一高	19	2:12.4	大谷	30	日米八幡
	庄司国城	中大会	17	2:12.4	都屋内	33	アジア選考
	鈴木修作	白水会	21	2:12.4	神宮	33	日本学生
59	金谷山茂	白桜泳会	19	2:12.5	"	32	日本選手権
60	丸山芳郎	桜泳会	23	2:12.6	"	25	"
61	野田逸次	駿台	20	2:12.8②	"	31	日本学生
62	坂井昌平	早大	19	2:12.8	"	31	"
63	本山義郎	日大会	20	2:13.2	"	27	"
	松岡洋一	桜泳会	19	2:13.2	"	34	日本選手権
	岡田行義	駿台	21	2:13.2	"	34	"
66	青木正美	日大	21	2:13.3	"	31	日大対中大
	加藤正啓	"	20	2:13.3	"	31	日本学生
	清水新吾	慶大	19	2:13.3	"	34	早慶対抗
69	山本清吉	関大	21	2:13.4	"	27	日本選手権
	吉岡清己	慶大	20	2:13.4	"	27	日本学生
	古木輝己	白杵高	17	2:13.4	瀬高	33	日大対九州

順位	氏名	所属	年齢	時間	場所	年度	大会名
72	池田芳玄	天理高	16	2:13.5	大阪	34	関西選手権
73	宮本茂	稲泳会	19	2:13.6	神宮	14	日本選手権
74	杉浦重雄	"	20	2:13.8	"	12	"
	津田国男	日大	22	2:13.8	"	18	三大学對抗
	望月清一郎	白水会	19	2:13.8	"	34	日本選手権
77	上本正義	早大	18	2:13.9	"	31	日本学生
78	田口正治	立大	19	2:14.0②	"	10	全国学生
79	松岡信義	慶応高	18	2:14.0	呉市	25	日本高校
	粕谷保	白水会	19	2:14.0	神宮	29	日本選手権
	国分道男	法政二高	18	2:14.0	高知	33	日本高校
	末永豪	"	18	2:14.0	"	33	"
83	上田尚孝	法泳会	21	2:14.1	神宮	34	日本選手権
	清水英利	聖ポール	18	2:14.1	"	34	"
	鈴木高行	"	19	2:14.1	"	34	"
86	青山幸郎	慶大	19	2:14.2	"	27	日本学生
	樋口幸利	立大	19	2:14.2	"	31	"
88	橋本正志	関学大	21	2:14.3	"	31	"
89	鷺谷光明	日大	21	2:14.4	"	14	全国高専
	岩合伝彦	立大	21	2:14.4	日大	21	日本学生
91	加藤守彦	明大	20	2:14.5	神宮	33	"
日92	大横田勉	明大	19	2:14.6	神宮	7	オリ予選会
	牧野正蔵	早大	18	2:14.6	"	8	日本選手権
	真木昌	日大	24	2:14.6	"	23	"
	新宅七郎	奈良県	18	2:14.6	天理	29	国体郷土
	大野司	S Bタイヤ	23	2:14.6	佐世保南	33	九州各県
	南垣内章文	明大	20	2:14.6	神宮	34	三大学對抗
98	浜田成亮	白水会	20	2:14.7	"	33	日本選手権
	浅野純孝	修道高	18	2:14.7	高知	33	日本高校
	吉村喜平	旭化成	18	2:14.7	神宮	34	日本選手権

男子 400m 自由形

世日1	山中毅	日 本	20	4:16.6	大阪	34	日米大阪
2	藤本達夫	"	19	4:28.4	"	34	"
3	福井誠	"	19	4:30.6	神宮	34	日米對抗
日4	古橋広之進	日 大	19	4:33.0	甲子園	23	日本学生
5	石井宏	"	19	4:33.1	石橋	34	日大対九州
6	丸山長敏	日 本	19	4:36.1	都屋内	33	アジア大会
7	庄司嘉宏	"	20	4:36.4	大阪	30	日米大阪
8	梅本利三	稲泳会	18	4:36.8	神宮	34	日本選手権
9	北畑昌英	日 本	19	4:37.0	"	33	日豪大阪
10	大野司	"	20	4:37.4	"	30	日米對抗
	野々下耕嗣	"	19	4:37.4	メルボルン	31	オリンピック
12	山下勝次	早 大	18	4:38.2	神宮	28	日本学生

順位	氏名	所属	年齢	時間	場所	年度	大会名
13	古木輝己	白杵高	17	4:38.6	高知	33	日本高校
14	北原一彦	伝習館高	18	4:39.2	神宮	32	"
15	野田芳利	駿台ク	20	4:39.4	"	31	日本選手権
16	林利博	日大	21	4:39.9	"	33	日本学生
17	橋爪四郎	A・I・U	23	4:40.2	"	27	日本選手権
18	田中寧夫	稲泳会	19	4:40.4	大 阪	26	"
20	庄司敏夫	BSタイヤ	18	4:40.4	神 宮	34	"
21	大谷康夫	明大	20	4:41.3	"	32	日本学生
22	青木義行	桜泳会	21	4:41.5	"	31	日本選手権
22	浅野満	早大	20	4:41.8	"	28	日本学生
24	新横田七宣	五条大	18	4:41.8	"	29	日本高校生
24	吉村健三	早明大	20	4:42.2	"	29	日本学生
26	留川公明	"	19	4:42.4	"	29	"
28	池尻月男	山鹿高	18	4:42.4	"	30	日本高校生
28	坂元昭紀	法大	18	4:42.6	"	33	日本学生
29	金谷雅弘	立大	20	4:42.8	"	31	"
30	佐原年明	浜松西高	17	4:42.9	振 甫	34	中部高校
31	細間輝喜	立教高	17	4:43.0	神 宮	28	東京高校
32	田中純夫	稲泳会	22	4:43.2	"	27	日本選手権
33	一色昇	桜泳会	18	4:43.3	"	34	"
34	東川岡長身	日大本	22	4:43.4	"	25	日米対抗
35	川岡長身	日大本	20	4:43.5	"	33	日大対中大
36	坂梨公昭	駿台ク	18	4:44.6	"	31	日本選手権
37	森文太郎	三水会	22	4:44.7	"	31	"
38	杉原満弘	早大	20	4:45.0	"	27	日本学生
40	金谷修作	早田辺	17	4:45.0	大 阪	30	近畿高校
40	松木登八郎	九州大	17	4:45.1	大石 橋	34	日大対九州
日41	根上博裕	立法大	23	4:45.2②	神 宮	10	日米対抗
42	今井昌裕	法大	19	4:45.3	"	31	日本学生
43	牧野正藏	早大	20	4:45.4	"	10	全国学生
43	安岡信男	桜泳会	20	4:45.4	大 阪	26	日本選手権
46	近藤照男	中大本	20	4:45.4	神 宮	32	日本学生
46	鵜藤俊平	日大本	17	4:45.5	ベルリ	11	オリンピック
47	三浦重忠	宇部興産	21	4:45.6	神 宮	34	日本選手権
48	八木清三郎	夕陽丘高	18	4:45.8	"	30	日本高校
49	高橋勝司	三水会	19	4:46.4	"	27	日本選手権
51	山口安昌	立大	19	4:46.4	"	33	日本学生
52	講宮本昌男	D・S・C	18	4:46.5	大 阪	34	関西選手権
52	宮本茂一	早大	21	4:46.6	神 宮	16	東京学生
52	村山修一	東京ク	26	4:46.6	神 宮	24	全米選手権
52	石橋明久	日京大	20	4:46.6	神 宮	29	日本学生
52	加藤晴	中京大	20	4:46.6	"	33	"
56	足立達二	駿台ク	18	4:46.8	"	28	日本選手権
56	東野賢	白水会	19	4:46.8	"	30	"
58	新井茂雄	立大	22	4:47.0	甲子園	13	"

順位	氏名	所属	年令	時間	場所	年度	大会名
	北村康雄	早大	19	4:47.0	神宮	27	日本学生
60	天野富勝	日大	18	4:47.4	甲子園	13	日本選手権
	中坊昌美	伊都高	17	4:47.4	高知	33	日本高校
62	田造勝美	稲泳会	21	4:47.8	大 阪	26	日本選手権
	橋本正志	関学大	21	4:47.8	神 宮	31	日本学生
	三栖兼造	中大	19	4:47.8	中高	34	中大対立命
	越智静雄	全四国	17	4:47.8	中高	34	日大対四国
66	阿部紀夫	法政二高	17	4:47.9	宇都宮	34	関東高校
67	高橋弘	慶大	18	4:48.0②	神 宮	13	日本学生
68	石原愿	明大	20	4:48.0	"	10	日米予選会
69	田中英作	稲泳会	20	4:48.4	"	14	日本選手権
	徳永征一	福岡	19	4:48.4	大 分	34	九州各県
71	川畑彌	日大	19	4:48.8	大 振	26	日大対東海
72	小野寺正志	法泳会	17	4:49.1	神 宮	34	日本選手権
73	浦満広	"	19	4:49.2	"	34	"
74	北村忠夫	桐蔭高	18	4:49.3	大 阪	32	近畿高校
75	森江重雄	法泳会	18	4:49.5	神 宮	32	日本選手権
76	北村久寿雄	高知商	15	4:49.6	"	8	"
	島田勇二郎	法政二高	16	4:49.6	高 知	33	日本高校生
78	北条進一	明大	19	4:49.7	神 宮	33	日本学生
79	津田国男	日大	22	4:49.8	"	13	三大学对抗
	岩合伝	立大	21	4:49.8	日 大	21	日本学生
81	芳野真任	八幡製鉄	20	4:50.0	野 沢	33	全国勤労者
82	後藤暢	浮羽高	17	4:50.2	大 阪	26	日本選手権
	庄司政雄	中 大	21	4:50.2	神 宮	29	日本学生
日84	大横田勉	明大	19	4:50.4	"	7	オリ予選会
	本山昌平	桜泳会	18	4:50.4	"	25	日本選手権
	杉浦貞夫	慶大	19	4:50.4	"	25	日本学生
87	横山隆志	稲泳会	18	4:50.6	"	7	オリ予選会
	坪田障	中大杉並	17	4:50.6	"	32	東京憲法生
89	寺田登	慶大	17	4:50.8	"	10	全国学生
	香川義英	中野高	17	4:50.8	呉 市	26	全国体三部
	古川徹	慶大	20	4:50.8	大 阪	33	慶大対同大
92	田所善吾朗	白水会	19	4:51.0②	神 宮	29	日本選手権
93	本間俊夫	立大	20	4:51.0	"	14	日本学生
	藤野健三	早大	20	4:51.0	"	24	"
	川口義和	駿台夕	26	4:51.0	"	25	日本選手権
96	竹本昭文	高知県	17	4:51.1	高 岡	33	国体高校
	南垣内章	明大	20	4:51.1	神 宮	34	三大学对抗
98	久保田認	八幡製鉄	18	4:51.2	山 口	29	西部実業団
	吉村喜平	旭化成	18	4:51.2	神 宮	34	日本選手権
100	小笠原勝司	早大	19	4:51.3	"	33	日本学生
	浅野純孝	中 大	18	4:51.3	"	34	中大対日大

訂正 前号 100m自由形 100傑中5位田口正治氏 57.2とあるは57.5の誤りにつき訂正致します。

日本記録証受賞者(2)

記録委員会

女子の部

種目	氏名	所属	時間	年				
50m自由形					400m自由形			
	永井花子	京武	35.8	大正12	入江広子	京踏水	7:05.2	大正15
	藤井千代子	"	35.6	2	加藤好子	愛知淑徳	7:03.4	3
	松沢初穂	大阪水	31.6	8	江島歌子	東京水ク	6:53.4	3
	宮部シズエ	五条高	31.4	29	市口房子	"	6:27.8	4
	神野眸	天理大	30.8	31	永井峯子	豊島夕	6:20.8	5
	佐藤喜子	"	30.6	32	守岡初子	日本	5:49.1	11
100m自由形								
	永井花子	京踏水	1:24.2	大正14	小島一枝	"	5:43.1	11
	藤井千代子	京武	1:22.4	2	旗野富美	東府四女	5:40.0	17
	神谷春子	愛知一女	1:19.6	5	田村美佐子	日本	5:32.2	29
	松沢初穂	日体専	1:15.4	6	佐藤喜子	五条高	5:28.2	29
	古田つね子	中泉女	1:13.8	11	大高幸子	伊都高	5:23.8	31
	小島一枝	日本	1:11.0	11	和田映子	五条高	5:23.8	32
	山下貞子	東洋レ	1:10.0	27	500m自由形			
	新子富子	奈良県	1:09.8	29	守岡初子	茨木水	7:44.8	10
	神野眸	天理大	1:08.4	31	新子富子	天理水	7:15.2	26
	佐藤喜子	"	1:06.0	32	800m自由形			
200m自由形								
	入江広子	京武	3:17.6	大正13	入江広子	京都踏水	14:44.8	2
	藤井千代子	"	3:11.4	2	鈴木サト	京府二	13:57.4	5
	市口房子	日本女子商	3:02.6	5	守岡初子	茨木水	12:31.8	10
	永井峯子	豊島夕	2:56.2	5	新子富子	天理水	11:52.6	26
	守岡初子	茨木水	2:53.2	6	佐藤喜子	天理大	11:41.4	32
	小島一枝	椛山女	2:45.0	8	大高幸子	伊都高	11:22.6	32
	旗野富美	東府四女	2:40.4	17	和田映子	五条高	11:06.9	32
	新子富子	五条高	2:39.0	25	1000m自由形			
	田村美佐子	伊都高	2:37.0	26	守岡初子	茨木水	15:57.0	8
	山下貞子	東洋レ	2:35.6	27	宮崎亮子	五条高	15:32.0	28
	和田映子	五条高	2:30.6	31	1500m自由形			
	佐藤喜子	天理大	2:26.5	32	守岡初子	茨木水	24:08.6	8
300m自由形								
	守岡初子	関西	4:22.6	10	和田映子	五条高	22:19.4	32
	旗野富美	東府四女	4:11.6	17	50m背泳			
	佐藤喜子	奈良県	4:04.2	29	宮崎百合恵	修武館	44.2	2
					吉田文子	愛一女	40.8	6
					加藤好子	関東	40.6	6
					横田みさを	京都府	39.4	8
					曾田昌子	広市女	39.4	13
					伊藤さとし	中泉女	39.0	"

金 森 志都子 吳精華	38.2	16	布施 苑 子 近 畿	3:46.6	大正14
野 口 幸 子 相愛高	38.2	26	飯 村 昌 子 大連高	3:23.4	2
片 岡 澄 子 天理大	38.2	26	前 畑 秀 子 日 本	3:01.9	11
永 瀬 美代子 五条高	37.8	27	坂 本 和 子 五条高	3:01.4	27
森 前 みどり 伊都高	37.8	28	規約変更高 松 好 子 天理大	2:57.1	32
新 井 里 子 信愛高	37.2	28	400m平泳		
安 藤 清 子 天理水	37.2	30	前 畑 秀 子 椛山女	6:37.6	8
100m背泳			坂 本 和 子 五条高	6:31.2	27
入 江 広 子 京踏水	1:42.6	大正15	50mバタフライ		
国 枝 美代子 愛淑徳	1:40.4	大正15	寺垣内 達 代 帝塚山高	34.8	31
川 崎 綾 子 妙寺小	1:40.4	2	100mバタフライ		
久 原 寛 子 京 武	1:40.0	4	浦 畑 チズ子 帝塚山短大	1:24.8	30
守 岡 初 子 妙寺小	1:37.6	4	寺垣内 達 代 " 高	1:18.8	31
生 田 美代子 台北女	1:37.6	"	榎 本 千恵子 伊都高	1:18.6	31
加 藤 好 子 愛知淑徳	1:28.4	6	規約変更宮 部 シズエ 天理大	1:14.2	32
横 田 みさを 日 本	1:25.1	7	200mバタフライ		
小 椋 とみ子 成徳高	1:24.6	25	宮 部 シズエ 天理大	2:49.0	32
野 口 幸 子 相愛高	1:22.8	26	200mリレー		
森 前 みどり 伊都高	1:21.6	28	入 江 広 子 京 武	2:35.4	大正13
岡 本 節 子 五条高	1:20.2	32	鷺 見 芳 子 "	2:35.4	"
村 瀬 里 子 天理学園	1:20.0	32	藤 井 千代子 京踏水会	2:32.2	大正14
200m背泳			近 藤 花 子 "	2:32.2	"
菊 池 貴美子 川崎女	3:43.8	4	島 村 和 枝 "	2:32.2	"
久 原 寛 子 京 武	3:34.6	4	永 井 花 子 "	2:32.2	"
守 岡 初 子 妙寺小	3:30.8	4	宮 城 清 子 京 武	2:31.2	4
加 藤 好 子 愛知淑徳	3:14.2	6	鈴 木 サ ト "	2:31.2	"
横 田 みさを 京 武	3:10.4	8	水 原 起美子 "	2:31.2	"
金 森 志都子 吳精華	3:10.4	15	安 藤 操 子 "	2:31.2	"
朝 井 美枝子 東府四女	3:07.4	17	社 本 田歌子 関 東	2:29.4	5
多 田 悦 子 天理水	3:00.4	28	市 口 房 子 "	2:29.4	"
森 前 みどり 日 本	2:58.2	29	永 井 峯 子 "	2:23.4	6
岡 本 節 子 五条高	2:53.1	32	戸 張 ハ ツ "	2:23.4	"
村 瀬 里 子 天理大	2:52.6	32	塩 見 梅 子 椛山女	2:22.0	9
50m平泳			前 畑 秀 子 "	2:22.0	"
飯 村 昌 子	1:00.4	大正12	立 松 品 子 "	2:22.0	"
前 畑 秀 子 椛山女	40.6	10	谷 口 美代子 京 都	2:19.4	10
100m平泳			荒 田 雪 江 "	2:19.4	"
杉 江 正 子 満 洲	1:42.2	大正13	横 井 キ ヌ "	2:19.4	"
飯 村 昌 子 大連女	1:38.6	2	桜 井 愛 "	2:19.4	"
前 畑 秀 子 椛山女	1:25.7	10	小 島 一 枝 名古屋	2:16.8	11
坂 本 和 子 五条高	1:25.6	27	大 倉 篤 子 "	2:16.8	"
高 松 好 子 伊都高	1:25.1	31	木 村 繁 子 "	2:16.8	"
規約変更高 松 好 子 天理大	1:24.9	32	梅 村 米 江 "	2:16.8	"
200m平泳			立 松 京 子 "	2:15.0	13
田 畑 三千子 京踏水	3:51.6	大正14	岩 橋 佐和子 "	2:15.0	"

井上三代	名古屋	2:15.0	13
鈴木美代子	"	2:15.0	"
上田香	五条高	2:15.0	25
山下貞子	西部高	2:12.4	25
田村美佐子	天理水	2:09.0	29
長田久子	"	2:09.0	"
坂口文子	"	2:09.0	"
新子富子	"	2:09.0	"
宮部シズエ	五条高	2:09.0	"
佐藤喜子	"	2:09.0	"
島田節子	"	2:09.0	"
坪井查雅子	"	2:09.0	"

400mリレー

近藤花子	京踏水	6:13.6	大正14
島村和枝	"	6:13.6	"
永井花子	"	6:13.6	"
藤井千代子	"	6:11.4	2
入江広子	"	6:11.4	"
佐野綾子	"	6:11.4	"
申村由喜恵	"	6:11.4	"
江島歌子	東京女子	5:52.0	3
市口房子	"	5:52.0	"
小沢敏子	"	5:52.0	"
片山栄子	"	5:52.0	"
乾芳子	京二条女	5:39.6	5
水野スズエ	眉山二女	5:34.6	6
社本田歌子	"	5:34.6	"
前畑秀子	"	5:34.6	"
隠岐美根子	京二条女	5:24.2	"
桜井愛	"	5:24.2	"
横井キヌ	"	5:24.2	"
横田みさを	日本	5:00.7	7
荒田雪江	"	5:00.7	"
小島一枝	"	4:58.1	11
守岡初子	"	4:58.1	"
古田つね子	"	4:58.1	"
竹村令	"	4:58.1	"
田村美佐子	奈良県	4:44.0	29
宮部シズエ	"	4:44.0	"
新子富子	"	4:44.0	"
山下貞子	選抜	4:37.1	31
神野眸	日本	4:35.8	"
和田映子	"	4:35.8	"
佐藤喜子	"	4:35.8	"
大高幸子	"	4:35.8	"

300mメドレーリレー

守岡初子	伊都体	4:39.2	4
永井峯子	関東	4:27.7	5
加藤好子	"	4:24.0	6
横田みさを	オリ代表	4:16.8	7
小木曾治子	中部	4:15.6	9
塩見梅子	"	4:15.6	"
北島静子	"	4:13.4	10
前畑秀子	"	4:13.4	"
小島一枝	"	4:13.4	"
大石康子	西部高	4:10.0	25
森前みどり	伊都高	4:09.2	26
青木政代	"	4:09.2	"
田村美佐子	伊都高	4:09.2	"
片岡澄子	奈良県	4:05.4	28
坂本和子	"	4:05.4	"
新子富子	"	4:05.4	"

400mメドレーリレー

森前みどり	大阪府	5:31.6	29
青木政代	"	5:31.6	"
浦畑チズ子	"	5:31.6	"
山下貞子	"	5:31.6	"
平原佐起子	伊都高	5:28.4	31
榎本千恵子	"	5:28.4	"
大高幸子	"	5:28.4	"
岡本節子	五条高	5:24.5	"
平谷銀子	"	5:24.5	"
島田節子	"	5:24.5	"
中田澄子	奈良県	5:22.0	"
和田映子	"	5:22.0	"
神野眸	"	5:22.0	"
村瀬里子	天理大	5:07.8	32
高松好子	"	5:07.8	"
宮部シズエ	"	5:07.8	"
佐藤喜子	"	5:07.8	"

以上のうち、下記の方々は現住所不明のため、記録証をお送りできず、水連事務所に保管してあります。ごぞんじの方は御手数ながら御知らせ下さらば幸甚です。姓のかわった方はその旨お書添願います。

飯村昌子	長田久子	宮崎百合恵
杉江正子	曾田昌子	島村初枝
乾芳子	伊藤さとし	戸張ハツ
隠岐美根子	永瀬美代子	塩見梅子
小木曾治子	安藤清子	桜井愛
北島静子	川崎綾子	梅村米江
平原佐起子	生田美代子	立松京子

連 盟 日 誌

<p>4月1日(水) 飛込合宿練習会終る 室内選手権大会組合せ</p> <p>2日(木) 常務理事会</p> <p>3日(金) 学生水球委員会</p> <p>6日(月) 学生実行委員会</p> <p>7日(火) 競泳合宿練習会記録会(都屋内プール) 報道関係との懇談会(新橋亭)</p> <p>8日(水) 競泳合宿練習会終る</p> <p>11日(土) 末広記念第1回室内選手権大会第1日 (都屋内プール)</p> <p>12日(日) " " 第2日</p> <p>16日(木) 競泳委員会(座談会)</p> <p>17日(金) 神宮プールとの打合せ会</p> <p>20日(月) 日本泳法委員会</p> <p>23日(木) 常務理事会</p> <p>27日(月) 学生総務委員会(岸体育会館)</p> <p>28日(火) 学生水球委員会 編集委員会</p> <p>5月4日(月) 三大学打合せ会</p> <p>7日(木) 常務理事会</p> <p>8日(金) 水球委員会</p> <p>12日(火) 水球審判打合せ会</p> <p>14日(木) 飛込委員会</p> <p>18日(月) 日米対抗準備委員会 皇太子殿下奉祝パレード参加</p> <p>19日(火) 三大学打合せ会 学生水球委員会 学生飛込委員会</p> <p>20日(水) 編集委員会</p> <p>21日(木) 常務理事会</p> <p>23日(土) 水球委員会</p>	<p>25日(月) 早慶対抗メンバー交換会</p> <p>26日(火) 飛込委員会</p> <p>27日(水) 日本泳法委員会</p> <p>6月1日(月) 神宮プール開き</p> <p>2日(火) 日米対抗打合せ会 編集委員会</p> <p>4日(木) 常務理事会</p> <p>5日(金) シンクロ委員会</p> <p>6日(土) 日米対抗地方との打合せ会</p> <p>7日(日) 早慶対抗水上競技大会(神宮プール) 競泳委員会(神宮プール)</p> <p>9日(火) 医歯薬大会打合せ会</p> <p>11日(木) 医事部委員会</p> <p>14日(日) 三大学対抗水上競技大会(神宮プール)</p> <p>15日(月) 日大対中大、メンバー交換会</p> <p>17日(水) 日本泳法委員会</p> <p>18日(木) 常務理事会</p> <p>19日(金) 日大対中大、打合せ会</p> <p>21日(日) 日大対中大水上競技大会 神宮プール</p> <p>22日(月) 放送関係との打合せ会</p> <p>24日(火) 学生部会 日本選手権、選手推薦会</p> <p>25日(水) 常務理事会 シンクロ委員会 阪本响一氏コーチとしてギリシヤに出 発</p> <p>26日(金) 水球委員会</p> <p>27日(土) 医歯薬大会打合せ会 記録委員会</p> <p>29日(月) カメラニュースとの打合せ会 日本選手権、日米対抗会員券税務署行</p> <p>30日(火) 日本泳法委員会</p>
---	--

編 集 後 記

発刊が大変遅れ申訳ありません。7月行われた日米大会を併せ日米特集号とし126号を合併したため意
外に取りまとめめに時日を要し遅延した次第です。早くより原稿をお寄せ戴いた各位に対し深くお詫び申上
げます。 (栗村)

編集委員 (いろは順◎委員長)

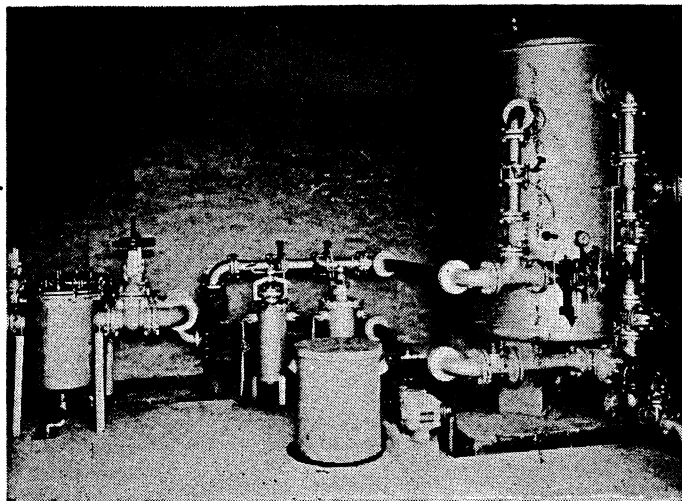
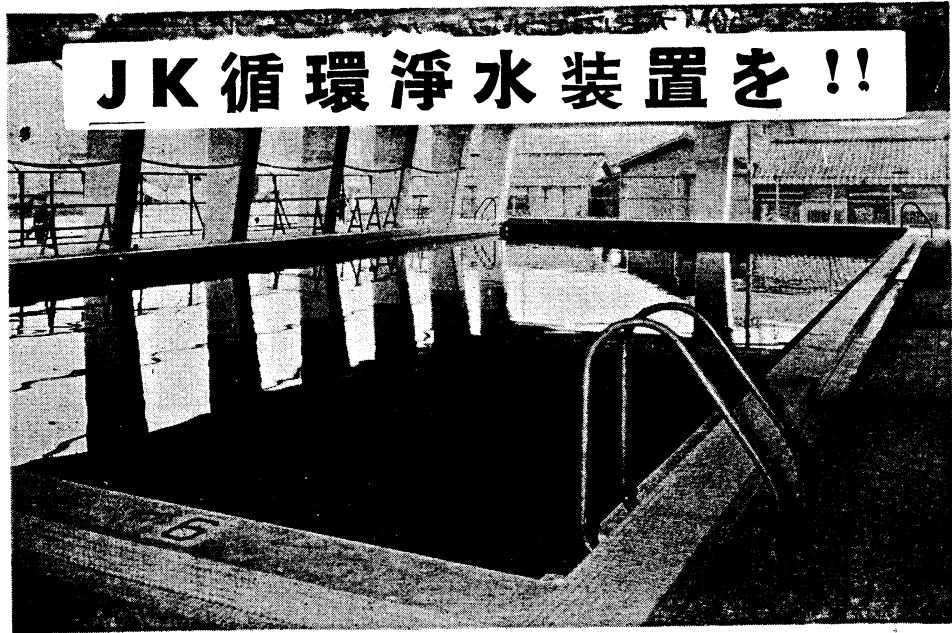
金田 平八郎 多治見 祐 孝 高橋 静子 上野 徳太郎 ◎栗村 中丸
坂本 宗隆 三枝 美貴子 菊地 章 島田 桃一郎 島田 博史
鈴木 祐一

<p>日 本 水 泳 連 盟 機 関 誌</p> <hr/> <p style="font-size: 2em; font-weight: bold;">水 泳</p> <hr/> <p>第 126・127 号</p>	<p>昭和 34 年 10 月 25 日 印 刷 昭和 34 年 10 月 30 日 発 行</p> <p>日 本 水 泳 連 盟</p> <p>編 集 兼 発 行 人 栗 村 中 丸 印 刷 所 株 式 会 社 成 島 印 刷 所 東 京 都 中 央 区 日 本 橋 本 石 町 3 の 4 電 話 日 本 橋 (24) 1701・6509・7082</p>	<p>東 京 都 千 代 田 区 丸 ノ 内 2-2 丸 ビ ル 7 2 2 区</p> <p>発 行 並 申 込 所 日 本 水 泳 連 盟</p> <p>電 話 和 田 倉 (20) 3090・4885 番 振 替 口 座 東 京 5 1 7 8 番</p>
---	--	---

きれいなプールにはぜひ

JK循環浄水装置を!!

1日に3回プールの水を循環濾過させ、その上完全滅菌を施しますので、シーズン中澄み切つたきれいな、しかも衛生的な水で泳ぎが楽しめます。



50m 競泳用プール
25m 学校プール
娯楽プール
室内温水プール
その他各種プール

設計. 施行.

★★★ JK式水泳プール循環浄水装置は

- ◎ ヘヤーキャッチャー
- ◎ 循環ポンプ
- ◎ 薬品自動注入装置
- ◎ 濾過機
- ◎ 塩素滅菌装置

等からなり、濾過剤にはシルコン・アンスライトを使っていますので濾過機は素晴らしい濾過能力を持ち施設場所が狭くて経済的です。

★★★

株式会社 浄水工業所

本社 尼崎市浜字十二
本店 東京都千代田区神田駿河台3の6
各営業所 札幌・福岡・広島・小倉
総代理店 安宅産業株式会社

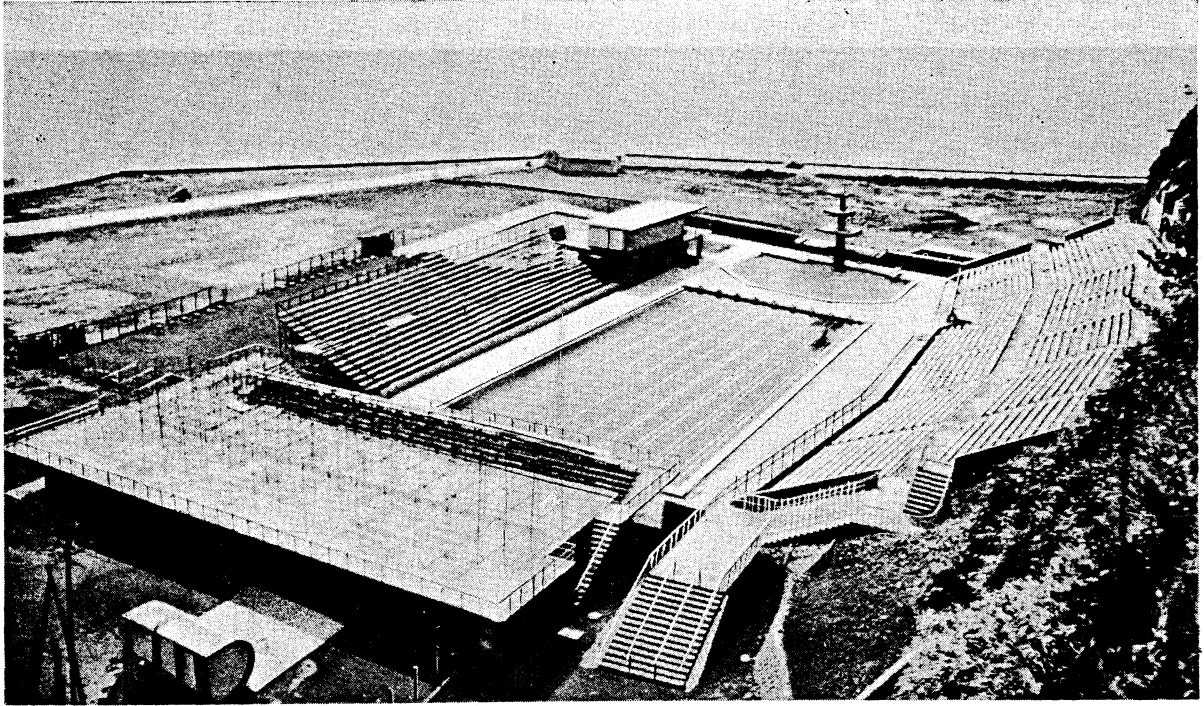
Tel. 大阪 (48) 7125
Tel. 東京 (25) 3857

競泳プール用 最新型循環浄化滅菌装置 設計, 施工

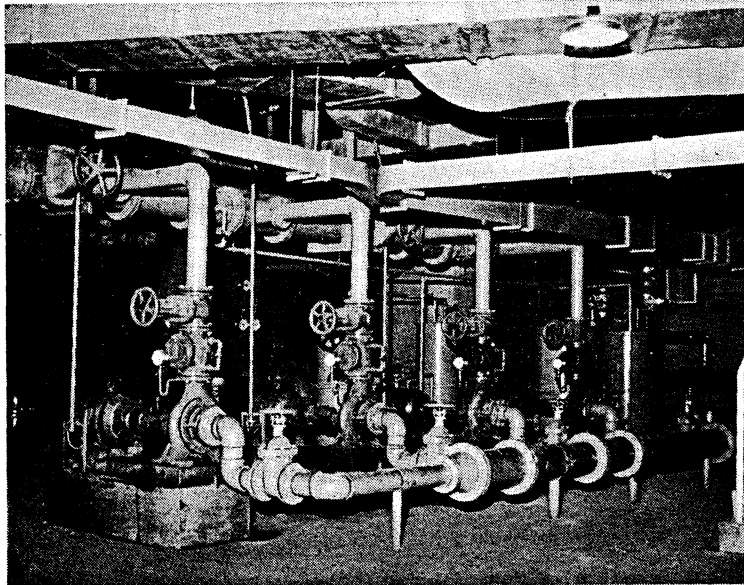
50Mプール及25Mプール、徒渉プール、娯楽プール、
温泉プール、戸外プール及屋内プール用
塩素滅菌圧入式・硫酸銅液比例圧入式・急速濾過循環式

プール本体設計の
御相談にも応じま
す。

循環浄化装置はこの建物の地下室



TURN-OVERS プール容量の循環換水は少くも24時中3回であります。しかも薬品自動注入方式による急速濾過機を経て完全に滅菌し、且又アルゼーの発生を防止した完全な浄水が循環致します。依つて水泳者は清浄な水の中で安全に快く泳げます。(写真は鎌倉市管プール)



アジア大会使用
東京都室内プール循環浄化滅菌装置

主たる工事施行実績

鎌倉市管プール	金沢市管プール
立教小学校プール	国立競技場プール
富士銀行済美山プール	其他 米軍基地
水産大学プール	アジアABプール
茨城県管プール	相模原プール
宮城県立第一女子高校	岐阜プール
第一生命保険株式会社	芦屋プール
鳥山プール	白井プール
第一銀行瀬田プール	上瀬谷プール
富山県管高岡プール	横須賀プール
東京都室内プール	硫黄島プール
宇部市管プール	追浜プール
慶応大学幼稚舎プール	其他数十ヶ所

東工業株式会社

本社 東京都港区芝白金台町2ノ34
電話白金(44)2161・2162・2163・2164・2165・9746(経理)
工場 港区・目黒区

大阪営業所 大阪市南区順慶町4の79
電話船場(25) 6497・6498番
九州出張所 福岡市蓮池町26の2
善導ビル 電話東(2)1320番